



講義内容 2012

経済学部

法学部

経営学部

講 義 内 容

目次案内

専門教育科目

1. 経済学部 … (2)
経済学科・経済学科フレックス A・商学科・
現代応用経済学科・経済学科フレックス B
2. 法学部
(1) 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B … (13)
(2) 政治学科 … (17)
3. 経営学部 … (20)
経営学科・経営学科フレックス A・市場戦略学科・
経営学科フレックス B

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

1. 経済学部

経済学科

経済学科フレックスA

商学科

現代応用経済学科

経済学科フレックスB

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
ITプロフェッショナルクラスⅠ	中濟 光昭	101151	3
ITプロフェッショナルクラスⅡ	中濟 光昭	101171	4
ITプロフェッショナルクラスⅢ 卒業研究	村上 泰	101191・101192	5
アジア経済論	鄭 章淵	094601	6
アジア経済論	鄭 章淵	310001	7
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	094801	8
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	310201	9
EU統合論	清水 卓	095001	9
EU統合論	清水 卓	310111	10
医療経済論	河野 敏鑑	093841	10
演習Ⅰ	浅田 進史	104101	11
演習Ⅰ	姉齒 暁	103901	12
演習Ⅰ	荒木 勝啓	103501	13
演習Ⅰ	有井 行夫	102401	13
演習Ⅰ	飯田 泰之	104401	14
演習Ⅰ	石川 純治	104601	14
演習Ⅰ	石川 祐二	101801	15
演習Ⅰ	岩波 文孝	102101	15
演習Ⅰ	大石 雄爾	102201	16
演習Ⅰ	大島 久幸	105201	16
演習Ⅰ	大吹 勝男	101601	17
演習Ⅰ	小栗 崇資	103801	17
演習Ⅰ	北口 りえ	104301	18
演習Ⅰ	小杉 修二	104001	19
演習Ⅰ	小西 宏美	101411	20
演習Ⅰ	小林 正人	102701	20
演習Ⅰ	清水 卓	102601	21
演習Ⅰ	代田 純	101701	21
演習Ⅰ	鈴木 伸枝	101501	21
演習Ⅰ	瀬戸岡 紘	102801	22
演習Ⅰ	曾我 信孝	103601	22
演習Ⅰ	館 健太郎	101421	23
演習Ⅰ	鄭 章淵	104801	23
演習Ⅰ	徳永 俊明	103101	24
演習Ⅰ	友松 憲彦	104701	24

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習 I	中済 光昭	102501	25
演習 I	長山 宗広	101431	26
演習 I	番場 博之	101481	27
演習 I	百田 義治	103701	28
演習 I	松井 柳平	104201	28
演習 I	松田 健	101441	29
演習 I	松本 典子	101451	30
演習 I	溝手 芳計	101301	31
演習 I	光岡 博美	103001	31
演習 I	村松 幹二	101461	32
演習 I	森田 佳宏	101401	32
演習 I	谷敷 正光	102301	33
演習 I	矢野 浩一	103201	34
演習 I	山縣 弘志	102901	34
演習 I	吉田 敬一	103401	35
演習 I	吉田 真広	105001	35
演習 II	浅田 進史	108401	36
演習 II	姉齒 暁	108101	37
演習 II	荒木 勝啓	107801	38
演習 II	有井 行夫	106401	38
演習 II	飯田 泰之	108301	38
演習 II	石川 純治	109211	39
演習 II	石川 祐二	105901	39
演習 II	岩波 文孝	105801	40
演習 II	大石 雄爾	106201	40
演習 II	大島 久幸	108601	41
演習 II	大吹 勝男	106501	41
演習 II	小栗 崇資	109001	42
演習 II	北口 りえ	106701	42
演習 II	小杉 修二	108201	43
演習 II	小西 宏美	108501	43
演習 II	小林 正人	106801	44
演習 II	清水 卓	106601	44
演習 II	代田 純	105701	45
演習 II	鈴木 伸枝	105501	45
演習 II	瀬戸岡 紘	107001	46
演習 II	曾我 信孝	107901	46
演習 II	館 健太郎	105311	47
演習 II	田中 和雄	109101	47
演習 II	鄭 章淵	108801	48
演習 II	徳永 俊明	107401	48
演習 II	友松 憲彦	108701	49
演習 II	中済 光昭	105601	49
演習 II	長山 宗広	109201	50
演習 II	番場 博之	105361	50
演習 II	百田 義治	108001	51
演習 II	松井 柳平	109221	51
演習 II	松田 健	105321	52
演習 II	松本 典子	105331	52
演習 II	溝手 芳計	105301	53

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	光岡 博美	107201	53
演習Ⅱ	村松 幹二	105341	54
演習Ⅱ	森田 佳宏	105401	54
演習Ⅱ	谷敷 正光	106301	55
演習Ⅱ	矢野 浩一	107501	55
演習Ⅱ	山縣 弘志	107101	56
演習Ⅱ	吉田 敬一	107701	56
演習Ⅱ	吉田 真広	107301	57
演習Ⅲ 卒業研究	浅野 克巳	109901・109902	57
演習Ⅲ 卒業研究	姉齒 暁	109411・109412	58
演習Ⅲ 卒業研究	阿部 弘	113201・113202	58
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	阿部 弘	319001・319002・ 319003	59
演習Ⅲ 卒業研究	荒木 勝啓	111701・111702	59
演習Ⅲ 卒業研究	有井 行夫	109291・109292	59
演習Ⅲ 卒業研究	飯田 泰之	109801・109802	60
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	飯田 泰之	317701・317702・ 317703	60
演習Ⅲ 卒業研究	石川 純治	111601・111602	60
演習Ⅲ 卒業研究	石川 祐二	109701・109702	61
演習Ⅲ 卒業研究	岩波 文孝	110001・110002	61
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	岩波 文孝	320911・320912・ 320913	62
演習Ⅲ 卒業研究	大石 雄爾	110101・110102	62
演習Ⅲ 卒業研究	大吹 勝男	110401・110402	62
演習Ⅲ 卒業研究	小栗 崇資	112701・112702	63
演習Ⅲ 卒業研究	河村 徳士	112401・112402	63
演習Ⅲ 卒業研究	北口 りえ	109421・109422	63
演習Ⅲ 卒業研究	小杉 修二	112001・112002	64
演習Ⅲ 卒業研究	小西 宏美	109431・109432	64
演習Ⅲ 卒業研究	小林 正人	112901・112902	65
演習Ⅲ 卒業研究	清水 卓	110501・110502	65
演習Ⅲ 卒業研究	代田 純	109501・109502	65
演習Ⅲ 卒業研究	鈴木 伸枝	110601・110602	66
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	鈴木 伸枝	317101・317102・ 317103	66
演習Ⅲ 卒業研究	瀬戸岡 紘	110901・110902	66
演習Ⅲ 卒業研究	曾我 信孝	111101・111102	67
演習Ⅲ 卒業研究	館 健太郎	109441・109442	67
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	館 健太郎	317901・317902・ 317903	68
演習Ⅲ 卒業研究	田中 和雄	113001・113002	68
演習Ⅲ 卒業研究	鄭 章淵	112801・112802	69
演習Ⅲ 卒業研究	徳永 俊明	111301・111302	69
演習Ⅲ 卒業研究	友松 憲彦	112601・112602	70
演習Ⅲ 卒業研究	中濟 光昭	112501・112502	70
演習Ⅲ 卒業研究	長山 宗広	109451・109452	70
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	長山 宗広	318101・318102・ 318103	71
演習Ⅲ 卒業研究	番場 博之	112101・112102	71

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅲ 卒業研究	百田 義治	111901・111902	72
演習Ⅲ 卒業研究	松井 柳平	113101・113102	72
演習Ⅲ 卒業研究	松田 健	109461・109462	73
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	松田 健	321261・321262・ 321263	74
演習Ⅲ 卒業研究	松本 典子	109471・109472	74
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	松本 典子	317601・317602・ 317603	75
演習Ⅲ 卒業研究	溝手 芳計	109301・109302	75
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	溝手 芳計	316901・316902・ 316903	75
演習Ⅲ 卒業研究	光岡 博美	111401・111402	76
演習Ⅲ 卒業研究	村松 幹二	109481・109482	76
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	村松 幹二	317001・317002・ 317003	76
演習Ⅲ 卒業研究	森田 佳宏	109401・109402	77
演習Ⅲ 卒業研究	谷敷 正光	110201・110202	77
演習Ⅲ 卒業研究	矢野 浩一	110701・110702	78
演習Ⅲ 卒業研究	山縣 弘志	111001・111002	78
演習Ⅲ 卒業研究	吉田 敬一	109601・109602	78
演習Ⅲ 課題研究 演習Ⅱ	吉田 敬一	317201・317202・ 317203	79
演習Ⅲ 卒業研究	吉田 真広	109491・109492	79
応用情報処理Ⅰ	瀬尾 明志	096101	80
応用情報処理Ⅱ	瀬尾 明志	096201	80
応用マクロ経済学	江口 允崇	092711	81
応用ミクロ経済学	荒木 勝啓	092611	82
応用ミクロ経済学	荒木 勝啓	311411	84
会計学基礎 会計学総論	石川 祐二	091511・091512	85
会計学総論	福島 隆	091601	86
会計監査論	森田 佳宏	097001	87
会計監査論	森田 佳宏	310501	87
会計資格特別演習	鈴木 勝浩	100511	88
会計情報論	石川 純治	097301	89
会計情報論	石川 純治	309411	89
会計プロフェッショナルクラスⅠ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅠ(税理士)	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ	100251・100252	90
会計プロフェッショナルクラスⅡ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅡ(税理士)	内山 峰男 小栗 崇資 森田 佳宏 石川 祐二 石川 純治 北口 りえ	100261・100262	91
会計プロフェッショナルクラスⅢ(会計士) 会計プロフェッショナルクラスⅢ(税理士)	内山 峰男 北口 りえ	100271・100272	92
環境経済論	林 公則	093901	92

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
管理会計論 a	石川 祐二	097111	93
管理会計論 a	石川 祐二	308111	93
管理会計論 b	石川 祐二	097121	93
管理会計論 b	石川 祐二	308121	94
企業管理論 a 経営管理論 a	岩波 文孝	091911・091912	94
企業管理論 b 経営管理論 b	岩波 文孝	091921・091922	95
企業経営学 a	名取 修一	099991	96
企業経営学 b	名取 修一	099981	97
企業経済学 a	飯田 泰之	097231	98
企業経済学 b	飯田 泰之	097241	98
企業社会責任論	桑山 三恵子	098171	99
企業戦略論 a 経営戦略論 a	田淵 泰男	096711・096712	100
企業戦略論 b 経営戦略論 b	田淵 泰男	096721・096722	100
企業統治論 a	水村 典弘	099181	101
企業統治論 b	水村 典弘	099191	101
企業倫理	桑山 三恵子	098161	102
起業論	長山 宗広	097041	103
企業論基礎	劉 永鶴	092411	103
基礎情報処理 I	谷口 裕子	095911	104
基礎情報処理 I	谷口 裕子	095921	105
基礎情報処理 I	羽田 美香	095901	106
基礎情報処理 II	谷口 裕子	096011	107
基礎情報処理 II	谷口 裕子	096021	108
基礎情報処理 II	羽田 美香	096001	109
基礎ゼミ	浅田 進史	095891	110
基礎ゼミ	浅野 克巳	095751	111
基礎ゼミ	姉齒 暁	101251	112
基礎ゼミ	姉齒 暁	101261	113
基礎ゼミ	有井 行夫	095761	114
基礎ゼミ	岩波 文孝	101291	115
基礎ゼミ	岩波 文孝	101311	116
基礎ゼミ	大石 雄爾	095771	117
基礎ゼミ	勝田 佳裕	101211	118
基礎ゼミ	勝田 佳裕	101221	119
基礎ゼミ	小杉 修二	095781	120
基礎ゼミ	小林 正人	095791	121
基礎ゼミ	清水 卓	095851	122
基礎ゼミ	瀬戸岡 紘	095861	123
基礎ゼミ	曾我 信孝	101321	124
基礎ゼミ	曾我 信孝	101331	125
基礎ゼミ	鄭 章淵	095871	126
基礎ゼミ	徳永 俊明	095881	127
基礎ゼミ	村松 幹二	101271	128
基礎ゼミ	村松 幹二	101281	129
基礎ゼミ	山下 裕介	101231	130
基礎ゼミ	山下 裕介	101241	131
キャリア・デザイン	川村 稔	099291	132
教育経済論	谷敷 正光	094401	133
教員試験特別演習	谷敷 正光	100551	134
行政法	鷓徳 啓登	058501	135

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
行政法	塩入 みほも	323601	135
協同組合論	山口 浩平	097061	136
銀行システム論	近廣 昌志	097801	137
金融論	代田 純	090901	138
金融論	代田 純	308601	138
グローバル・ビジネス論 a	日高 克平	095831	139
グローバル・ビジネス論 b	日高 克平	095841	139
グローバル・ファイナンス	小西 宏美	098011	140
経営学基礎 経営学総論	松田 健	091411・091412	141
経営学史	小阪 隆秀	096901	142
経営管理論 a	岩波 文孝	330111	143
経営管理論 b	岩波 文孝	330121	143
経営情報システム論Ⅰ	中濟 光昭	095701	144
経営情報システム論Ⅱ	中濟 光昭	095801	145
経営分析	渡邊 智	097501	146
景気循環論	野村 信廣	093001	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (ドイツ語)	浅田 進史	099931・099932・ 099933・099934	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (中国語)	小杉 修二	100131・100132・ 100133・100134	147
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (フランス語)	清水 卓	100011・100012・ 100013・100014	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (英語)	鈴木 伸枝	099811・099812・ 099813・099814	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (朝鮮語)	鄭 章淵	100151・100152・ 100153・100154	148
経済外国書講読Ⅰ a 外国書講読Ⅰ a 経済外国書講読Ⅱ a 外国書講読Ⅱ a (英語)	松本 典子	099831・099832・ 099833・099834	149
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (ドイツ語)	浅田 進史	099941・099942・ 099943・099944	149
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (中国語)	小杉 修二	100161・100162・ 100163・100164	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (フランス語)	清水 卓	100021・100022・ 100023・100024	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (英語)	鈴木 伸枝	099821・099822・ 099823・099824	150
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (朝鮮語)	鄭 章淵	100181・100182・ 100183・100184	151
経済外国書講読Ⅰ b 外国書講読Ⅰ b 経済外国書講読Ⅱ b 外国書講読Ⅱ b (英語)	松本 典子	099841・099842・ 099843・099844	151
経済学概説	山縣 弘志	089201	152
経済学基礎 経済学概説	森田 成也	089511・089512	152
経済学史	西沢 保	090501	153
経済史	浅田 進史	090601	154
経済史	浅田 進史	307301	154
経済数学	池田 宏	092501	155
経済政策	飯田 泰之	090701	156
経済地理	矢延 洋泰	093701	157
経済法	東出 浩一	325201	157
経済法	若林 亜理砂	098701	158

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
経済理論ⅠA・資本の原理	有井 行夫	306701	159
経済理論ⅠB・経済システムの原理	大石 雄爾	306801	159
経済理論Ⅱ・マクロ経済学	浅野 克巳	307001	160
経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	松井 柳平	306901	161
経済理論A・資本の原理 経済理論ⅠA・資本の原理	阿部 弘	089801・089802	162
経済理論A・資本の原理 経済理論ⅠA・資本の原理	有井 行夫	089701・089702	163
経済理論B・経済システムの原理 経済理論ⅠB・経済システムの原理	大石 雄爾	090001・090002	164
契約理論	村松 幹二	095311	164
計量経済学	松田 慎一	092801	165
ゲーム理論 a	館 健太郎	097271	165
ゲーム理論 b	鈴木 伸枝	097281	166
原価計算論	鈴木 勝浩	097201	167
現代企業論 a	松田 健	099331	168
現代企業論 a	松田 健	314391	169
現代企業論 b	松田 健	099341	170
現代企業論 b	松田 健	314411	171
現代銀行事情	近廣 昌志	097901	172
現代経済事情Ⅰ〔職業・仕事について考える〕	石川 祐二 百田 義治 友松 憲彦 小栗 崇資 鄭 章淵 代田 純 溝手 芳計 吉田 敬一 岩波 文孝 松田 健 館 健太郎 番場 博之 北口 りえ 松本 典子	100601	173
現代経済事情Ⅱ〔現代社会におけるメンタルケアの実際〕	竹原 清子	100701	174
現代産業事情Ⅱ	百田 義治	101101	175
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	176
現代産業論 a	北嶋 守	100611	176
現代産業論 b	北嶋 守	100621	177
現代資本主義論	森田 成也	093101	177
現代西欧経済論	清水 卓	095101	178
現代西欧経済論	清水 卓	310121	178
憲法	金子 勝	098201	179
公共経済学 a	鈴木 伸枝	099111	180
公共経済学 a	鈴木 伸枝	313511	181
公共経済学 b	鈴木 伸枝	099121	182
公共経済学 b	鈴木 伸枝	313521	183
工業政策	奥山 雅之	093601	184
国際金融論	吉田 真広	094201	185
国際金融論	吉田 真広	311001	185
国際経済論	徳永 俊明	308901	186
国際経済論 国際経済学	徳永 俊明	091201・091202	186

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際法	王 志安	323401	187
国際法	橋本 靖明	099001	188
コミュニティ・ビジネス論	山口 浩平	097051	188
コンピュータ会計Ⅰ	鈴木 勝浩	095501	189
コンピュータ会計Ⅱ	鈴木 勝浩	095601	190
財政学	野村 容康	090801	191
財務会計論	小栗 崇資	092401	191
産業組織論 a	館 健太郎	100631	192
産業組織論 b	館 健太郎	100641	192
市民と経済学 a 社会思想史 a	阿部 弘	093211・093212	193
市民と経済学 b 社会思想史 b	阿部 弘	093221・093222	194
社会経済学 a	阿部 弘	097211	195
社会経済学 b	阿部 弘	097221	196
社会思想史 a	阿部 弘	312611	197
社会思想史 b	阿部 弘	312621	198
社会政策	光岡 博美	091001	199
社会政策	光岡 博美	311801	199
社会保障法	原田 啓一郎	325301	200
就業力基礎Ⅲ	中済 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450101・450102	201
就業力基礎Ⅳ	中済 光昭 絹川 真哉 長山 宗広 矢野 浩一	450151・450152	202
商学総論	大吹 勝男	307501	203
上級簿記	福島 隆	092311	203
商業史	幸野 保典	096501	204
流通政策 商業政策	番場 博之	091701・091702	205
商業政策	番場 博之	309301	206
消費経済論	姉齒 暁	096601	207
消費経済論	姉齒 暁	313101	209
商品学	見目 洋子	096301	210
商法一部	三浦 康平	098501	211
商法総則・商行為法	三浦 康平	325501	212
商法二部	中濱 義章	098601	213
有価証券法 商法二部	中濱 義章	324901・324902	213
情報入門Ⅰ	井川 俊実	095411	214
情報入門Ⅰ	井川 俊実	095421	215
情報入門Ⅰ	山邊 茂之	095451	216
情報入門Ⅱ	井川 俊実	095431	217
情報入門Ⅱ	井川 俊実	095441	218
情報入門Ⅱ	山邊 茂之	095461	218
情報の経済学	館 健太郎	095321	219
人口論	増田 幹人	094301	220
人的資源管理論 a	田中 和雄	092011	221
人的資源管理論 b	田中 和雄	092021	222
制度の経済学	村松 幹二	098191	223
税務会計論	北口 りえ	097401	223

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
税務会計論	北口 りえ	330151	224
税務会計論	高木 克己	332301	224
西洋経済史	友松 憲彦	093401	225
西洋経済史	友松 憲彦	307401	226
地域経済論 a	長山 宗広	097251	227
地域経済論 b	長山 宗広	097261	227
地方財政論	江夏 あかね	094101	228
中国経済論	小杉 修二	094701	229
中国経済論	小杉 修二	309901	230
中小企業政策論	吉田 敬一	093821	231
中小企業政策論	吉田 敬一	311401	231
中小企業論	吉田 敬一	093811	232
中小企業論	吉田 敬一	311311	233
通関実務	荒畑 治雄	100321	234
統計原論	矢野 浩一	092901	235
日本経済史	河村 徳士	093301	236
日本経済論	小林 正人	309801	236
日本経済論	小林 正人	091101	237
ネットワーク組織論 a	梅木 眞	095811	237
ネットワーク組織論 b	梅木 眞	095821	238
農業政策	溝手 芳計	093501	239
農業政策	溝手 芳計	309101	240
非営利組織論 a	松本 典子	097071	241
非営利組織論 a	松本 典子	314371	242
非営利組織論 b	松本 典子	097081	243
非営利組織論 b	松本 典子	314381	244
ビジネス・インターンシップ a	小栗 崇資 松田 健	099311	245
ビジネス・インターンシップ a	谷敷 正光 友松 憲彦	100951	246
ビジネス・インターンシップ b	石川 純治	113011	246
ビジネス・インターンシップ b	石川 祐二	113021	247
ビジネス・インターンシップ b	岩波 文孝	113031	247
ビジネス・インターンシップ b	大石 雄爾	113151	247
ビジネス・インターンシップ b	大島 久幸	112951	248
ビジネス・インターンシップ b	小栗 崇資 松田 健	099321	248
ビジネス・インターンシップ b	小栗 崇資	112961	249
ビジネス・インターンシップ b	北口 りえ	113181	249
ビジネス・インターンシップ b	小西 宏美	112941	249
ビジネス・インターンシップ b	清水 卓	113061	250
ビジネス・インターンシップ b	代田 純	113071	250
ビジネス・インターンシップ b	瀬戸岡 紘	113081	250
ビジネス・インターンシップ b	友松 憲彦	113051	251
ビジネス・インターンシップ b	中濟 光昭	113161	251
ビジネス・インターンシップ b	番場 博之	113111	252
ビジネス・インターンシップ b	百田 義治	113091	252
ビジネス・インターンシップ b	松井 柳平	113121	252

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
ビジネス・インターンシップb	松本 典子	113041	253
ビジネス・インターンシップb	溝手 芳計	113191	253
ビジネス・インターンシップb	光岡 博美	113141	254
ビジネス・インターンシップb	村松 幹二	112931	254
ビジネス・インターンシップb	谷敷 正光	113131	255
ビジネス・インターンシップb	矢野 浩一	112991	256
ビジネス・インターンシップb	山縣 弘志	112971	256
ビジネス・インターンシップb	吉田 真広	112981	256
ビジネス英会話 a	井上 愛子	097141	257
ビジネス英会話 b	井上 愛子	097151	257
ビジネスの歴史 (欧米)	宇田 理	096921	258
ビジネスの歴史 (日本)	宇田 理	096911	258
ファイナンス基礎	代田 純	092421	259
ファイナンス論 a 財務管理 a	坂本 恒夫	096811・096812	259
ファイナンス論 b 財務管理 b	坂本 恒夫	096821・096822	260
福祉経済論	河野 敏鑑	093831	260
プログラミング論	濱本 和彦	095401	261
ベンチャー論	長山 宗広	097031	262
貿易史	吉田 真広	097611	263
貿易実務	荒畑 治雄	100311	264
法と経済学	村松 幹二	098181	265
簿記論	北口 りえ	092301	265
簿記論	千葉 修身	092101	266
簿記論	渡邊 智	092201	267
保険・海商法	井上 健一	326501	267
保険論	深見 泰孝	098101	268
マーケティング	曾我 信孝	091801	268
マーケティング	曾我 信孝	311101	269
マクロ経済学 経済理論Ⅱ・マクロ経済学	浅野 克巳	090401・090402	270
マクロ経済学 経済理論Ⅱ・マクロ経済学	荒木 勝啓	090301・090302	271
ミクロ経済学 経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	畠中 貴	090101・090102	273
ミクロ経済学 経済理論Ⅱ・ミクロ経済学	松井 柳平	090201・090202	274
民法一部 民法Ⅰ	和知 恵一	098301・098302	275
民法二部	飯塚 真	098401	276
債権総論 民法二部	中田 英幸	325001・325002	277
流通経済論	大吹 勝男	099211	278
流通論基礎 商学総論	大吹 勝男	091311・091312	278
労働法	藤本 茂	098801	279
労働法	藤本 茂	325101	280
ロシア・東欧経済論	山縣 弘志	095201	281
ロシア・東欧経済論	山縣 弘志	310301	282
現代経済事情Ⅲ	休講		
現代経済事情Ⅳ	休講		
現代産業事情Ⅰ	休講		
交通政策	休講		
交通論	休講		
就業力応用Ⅰ	休講		
就業力応用Ⅱ	休講		
就業力応用Ⅲ	休講		
就業力応用Ⅳ	休講		

経済学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
就業力基礎Ⅰ	休講		
就業力基礎Ⅱ	休講		
証券市場論	休講		
情報・経済ネットワーク論	休講		
情報処理論	休講		
税法Ⅰ	休講		
税法Ⅱ	休講		
トップ・マネジメント講座	休講		
ビジネス事例研究	休講		
貿易論	休講		
ボランテニア経済 a	休講		
ボランテニア経済 b	休講		
労働経済論	休講		
ロジスティックス	休講		

2. 法 学 部

(1) 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
英米法	北野 かほる	118401	285
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	286
演習Ⅰ	田丸 大	132001	287
演習Ⅱ 演習Ⅰ	小堀 訓男	132101・132102	287
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	288
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	288
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	289
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	289
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	290
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	290
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中田 英幸	122701・122702	291
演習Ⅰ 演習Ⅱ	井上 健一	123401・123402	291
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	123501・123502	292
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	123601・123602	293
演習Ⅰ 演習Ⅱ	鶴井 俊吉	123801・123802	294
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金子 昇平	123901・123902	294
演習Ⅰ 演習Ⅱ	間瀬 清史	124301・124302	295
演習Ⅰ	中濱 義章	124401	295
演習Ⅰ 演習Ⅱ	高橋 洋城	124501・124502	296
演習Ⅰ 演習Ⅱ	北野 かほる	124601・124602	296
演習Ⅰ 演習Ⅱ	荒木 正孝	124701・124702	297
演習Ⅰ 演習Ⅱ	王 志安	124801・124802	297
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大宮 隆	124901・124902	298
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 多美夫	125001・125002	298
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松村 格	125031・125032	299
演習Ⅰ 演習Ⅱ	田中 優企	125711・125712	300
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥村 公輔	125721・125722	300
演習Ⅰ 演習Ⅱ	赤松 晃	125741・125742	301
演習Ⅰ 演習Ⅱ	熊谷 芝青	125751・125752	302
演習Ⅰ 演習Ⅱ	富樫 景子	125761・125762	303
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三浦 康平	125771・125772	303
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	327101・327102	304
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金子 昇平	327201・327202	305
演習Ⅰ 演習Ⅱ	赤松 晃	327301・327302	306
演習Ⅰ 演習Ⅱ	富樫 景子	327501・327502	306
演習Ⅰ 演習Ⅱ	荒木 正孝	327601・327602	307
演習Ⅰ 演習Ⅱ	田中 優企	327701・327702	308
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	327801・327802	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大宮 隆	327901・327902	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	奥村 公輔	327921・327922	309
演習Ⅰ 演習Ⅱ	北野 かほる	327931・327932	310
演習Ⅱ	田丸 大	132011	310
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	310
演習Ⅱ	中濱 義章	124451	311
演習Ⅰ 演習Ⅱ	深澤 弘樹	132201・132202	311

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ 演習Ⅰ	中田 英幸	326901・326902	312
会社法	荒木 正孝	115301	312
会社法	井上 健一	134411	313
会社法	荒木 正孝	323501	313
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	北野 かほる	120401・120402	314
外書講読Ⅰ(中国書) 外書講読Ⅱ(中国書)	王 志安	120901・120902	314
外書講読Ⅰ(独書) 外書講読Ⅱ(独書)	松村 格	120701・120702	314
外書講読Ⅰ(仏書) 外書講読Ⅱ(仏書)	中野 裕二	120801・120802	315
家族法 相続法	須賀 昭徳	117001・117002	316
家族法	須賀 昭徳	326411	317
基礎演習	富井 幸雄	121701	318
基礎演習	池田 実	121801	318
基礎演習	富樫 景子	121901	319
基礎演習	藤田 有紀	122001	319
基礎演習	和知 恵一	122101	320
基礎演習	今尾 真	122201	320
基礎演習	今尾 真	122301	321
基礎演習	村木 保久	122401	322
基礎演習	村木 保久	122501	323
基礎演習	覚正 豊和	122601	323
行政学	田丸 大	127001	324
行政学	田丸 大	324501	324
行政救済法 行政法各論	金子 昇平	116501・116502	325
行政救済法	赤松 晃	326911	326
行政法 行政法総論	金子 昇平	115401・115402	327
行政法	塩入 みほも	323601	328
経済原論	福田 慎	117501	329
経済原論	藤原 碩宣	324401・324402	330
経済政策	増田 幹人	119101	331
経済法	若林 亜理砂	119701	332
経済法	東出 浩一	325201	332
刑事政策	覚正 豊和	118001	333
刑事政策	覚正 豊和	323901	334
刑事訴訟法	田中 優企	116201	335
刑事訴訟法	田中 優企	327001	336
刑法各論	佐藤 多美夫	115801	337
刑法各論	松村 格	324701	338
刑法総論	富樫 景子	115001	339
刑法総論	松村 格	115101	340
刑法総論	佐藤 多美夫	323301	341
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	342
憲法	山中 倫太郎	114601	343
憲法	奥村 公輔	114701	344
憲法	奥村 公輔	323101	345
公法入門 法学概論B	赤松 晃 富樫 景子	114511・114512	346
国際関係論	三船 恵美	128101	347
国際関係論	三船 恵美	325401	348
国際私法	笠原 俊宏	116401	349

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際私法	笠原 俊宏	325901	350
国際紛争解決法	王 志安	116601	351
国際法	王 志安	115501	352
国際法	王 志安	323401	353
債権各論	熊谷 芝青	118701	354
債権各論	熊谷 芝青	324801	355
債権総論	中田 英幸	115701	356
債権総論 民法二部	中田 英幸	325001・325002	357
財政学	速水 昇	333301	358
財政学	山田 直夫	119001	359
裁判法	間瀬 清史	116001	360
裁判法	岡田 好弘	323701	361
実務演習Ⅰ	中野 辰久	121411	362
実務演習Ⅱ	鶴井 俊吉 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一	121511	363
実務演習Ⅲ	木村 美隆	121521	363
私法入門 法学概論B	井上 健一	114531・114532	364
社会政策	原田 啓一郎	119201	364
社会保障法	原田 啓一郎	116301	365
社会保障法	原田 啓一郎	325301	365
消費者法	藤田 有紀	120101	366
商法総則・商行為法	三浦 康平	117101	367
商法総則・商行為法	三浦 康平	325501	368
新入生演習	藤本 茂 金子 昇平	121611	369
新入生演習	田中 優企 間瀬 清史	121621	370
新入生演習	奥村 公輔 荒木 正孝	121631	371
新入生演習	富樫 景子 松村 格	121641	372
新入生演習	中濱 義章 高橋 洋城	121651	373
新入生演習	大宮 隆 熊谷 芝青	121661	374
新入生演習	赤松 晃 原田 啓一郎	121671	375
新入生演習	王 志安 三浦 康平	327011	376
新入生演習	中田 英幸 鶴井 俊吉	327021	377
新入生演習	北野 かほる 佐藤 多美夫 井上 健一	327031	378
政治学原論	大塚 桂	117301	379
政治学原論	大塚 桂	324301・324302	380
政治史	村井 良太	117401	381
税法	赤松 晃	118901	382

法学部 法律学科フレックス A・法律学科フレックス B

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
税法	赤松 晃	325801	383
西洋法制史	北野 かほる	117901	384
担保物権法	鶴井 俊吉	116701	385
担保物権法	山田 創一	326301	386
知的財産権法	角田 政芳	119601	387
知的財産権法	角田 政芳	325701	388
地方自治法	富井 幸雄	127501	389
地方自治法	富井 幸雄	326001	389
登記法	田沼 浩	118801	390
倒産処理法	鈴木 貴博	119501	391
倒産処理法	鈴木 貴博	326801	392
独法	中田 英幸	118501	393
日本法制史	末澤 国彦	117801	394
日本法制史	末澤 国彦	324001	395
比較憲法	柳瀬 昇	117701	396
物権法	鶴井 俊吉	115601	397
物権法	今尾 真	324601	397
仏法	上井 長十	118601	398
法学概論 法学概論 A	高橋 洋城	114411・114412	399
法学概論 法学概論 A	北野 かほる	114421・114422	400
法学概論	北野 かほる	323031	401
法思想史	高橋 洋城	117601	402
法思想史	高橋 洋城	324201	403
法社会学	佐藤 憲一	118201	404
法哲学	高橋 洋城	119401	405
法律学特殊講義 [金融商品取引法]	萬澤 陽子	120211	406
法律時事英語	井上 健一	118101	406
保険・海商法	井上 健一	326501	407
民事執行・保全法	岡田 好弘	119301	408
民事執行・保全法	岡田 好弘	326701	409
民事訴訟法	間瀬 清史	116101	410
民事訴訟法	間瀬 清史	326601	410
民法総則	山田 創一	114801	411
民法総則	熊谷 芝青	114901	412
民法総則	大宮 隆	323201	412
有価証券法	中濱 義章	115901	413
有価証券法 商法二部	中濱 義章	324901・324902	413
労働法	藤本 茂	116801	414
労働法	藤本 茂	325101	415
会計学総論	休講		
環境法	休講		
経営学総論	休講		
簿記論	休講		

(2) 政治学科

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
アラブ・イスラム政治論	中島 勇	129501	419
演習Ⅰ 演習Ⅱ	内海 麻利	132601・132602	419
演習Ⅰ	浦田 早苗	131701	419
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	420
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	420
演習Ⅱ 演習Ⅰ	小堀 訓男	132101・132102	420
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	421
演習Ⅰ	田丸 大	132001	421
演習Ⅰ	富崎 隆	132501	422
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中野 裕二	132301・132302	422
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	423
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	423
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	424
演習Ⅰ 演習Ⅱ	村井 良太	131801・131802	424
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	425
演習Ⅰ 演習Ⅱ	山崎 望	132211・132212	426
演習Ⅱ	浦田 早苗	132511	426
演習Ⅱ	田丸 大	132011	427
演習Ⅱ	富崎 隆	133051	427
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	428
演習Ⅰ 演習Ⅱ	深澤 弘樹	132201・132202	429
外交史	村井 良太	133601	430
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	大山 礼子	130601・130602	431
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	三竹 直哉	130501・130502	431
環境政策	横田 匡紀	127301	432
基礎演習	内海 麻利	131201	433
基礎演習	浦田 早苗	131611	433
基礎演習	大山 礼子	131621	433
基礎演習	塩入 みほも	131001	434
基礎演習	田丸 大	131631	434
基礎演習	富崎 隆	131501	435
基礎演習	中野 裕二	131301	435
基礎演習	早川 純貴	130801	436
基礎演習	三竹 直哉	130901	436
基礎演習	三船 恵美	131651	437
基礎演習	村井 良太	131641	437
基礎演習	柳瀬 昇	131401	438
基礎演習	山崎 望	131601	439
行政学	田丸 大	127001	440
行政法各論 行政救済法	塩入 みほも	127401・127402	441
行政法総論	塩入 みほも	127201	442
刑法総論	佐藤 多美夫	127901	443
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	444
現代国家論	大塚 桂	133801	444
現代政治理論	山崎 望	126401	445
憲法	柳瀬 昇	126101	446
工業政策	奥山 雅之	093601	447

法学部 政治学科

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	448
国際関係論	三船 恵美	128101	449
国際経済論 国際経済学	徳永 俊明	091201・091202	450
国際政治学	山村 恒雄	126601	451
国際法	橋本 靖明	128001	452
国家安全保障論	山下 愛仁	133701	452
時事英語講座	三竹 直哉	133651	453
実務者講座	田丸 大	133681	453
社会学原理 社会学原論	呉 炳三	133901・133902	454
数量政治学	富崎 隆	130101	455
政策決定論	井上 拓也	127701	456
政治学概論	浦田 早苗 早川 純貴	125901	457
政治学概論	中野 裕二 三竹 直哉	126011	458
政治学概論	早川 純貴 浦田 早苗	126001	459
政治学原論	大塚 桂	126201	460
政治学特殊講義(1)	浦田 早苗	134101	460
政治学特殊講義(2)	山崎 望	134201	461
政治学特殊講義(3)	早川 純貴	134301	461
政治学特殊講義(4)	内海 麻利	134401	462
政治過程論	早川 純貴	126801	462
政治経済学	白鳥 浩	130301	463
政治思想史	大塚 桂	127101	464
政治社会学	中野 裕二	129701	465
政治心理学	富崎 隆	129901	466
政治制度論	大山 礼子	126501	467
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	468
地域計画論	佐藤 哲夫	038701	469
地方行政	内海 麻利	127601	470
地方財政論	江夏 あかね	094101	471
地方自治法	富井 幸雄	127501	472
中国政治論(1)	三船 恵美	128901	472
中国政治論(2)	三船 恵美	129001	473
中南米政治論	箕輪 茂	129601	474
東南アジア政治論(1)	深尾 康夫	128701	474
東南アジア政治論(2)	深尾 康夫	128801	475
日本政治史	村井 良太	126901	476
日本政治論	大山 礼子	126301	477
農業政策	溝手 芳計	093501	478
非営利組織論 a	松本 典子	097071	479
非営利組織論 b	松本 典子	097081	480
比較憲法	柳瀬 昇	134001	481
比較政治学	三竹 直哉	128201	482
比較都市論	内海 麻利	128401	483
比較メディア論	岩崎 宇雄 柴田 厚	130201	483
マス・コミュニケーション論	川端 美樹	129801	484
民法Ⅱ(債権法) 民法(債権)	飯塚 真	143801・143802	485

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	486
メディア社会論	川端 美樹	130001	487
ヨーロッパ政治史	浦田 早苗	126701	487
ヨーロッパ政治論（1）	中野 裕二	129101	488
ヨーロッパ政治論（2）	中野 裕二	129201	489
ヨーロッパ政治論（3）	浅見 政江	129301	490
ヨーロッパ政治論（4）	浅見 政江	129401	491
流通政策 商業政策	番場 博之	091701・091702	492
NPO/NGOとメディア	休講		
交通論	休講		
北米政治論（1）	休講		
北米政治論（2）	休講		

3. 経営学部

経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

経営学科フレックスB

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
アメリカ経営学	宮城 徹	141201	495
アメリカ経営学	宮城 徹	332701	496
e-ビジネス	安岡 寛道	140851	497
イノベーション論	安田 英士	143601	498
演習 I	青木 茂樹	146811	498
演習 I	明石 博行	147181	499
演習 I	阿部 一人	146901	499
演習 I	飯田 哲夫	146201	500
演習 I	石名坂 邦昭	146821	500
演習 I	鹿嶋 秀晃	147001	501
演習 I	片桐 伸夫	146301	501
演習 I	兼村 栄哲	146701	502
演習 I	河合 由佳理	147161	503
演習 I	菅野 佐織	146831	504
演習 I	岸田 隆行	145801	504
演習 I	桑原 正行	147171	505
演習 I	猿山 義広	334901	505
演習 I	高井 徹雄	146501	506
演習 I	高木 克己	145101	506
演習 I	滝田 公一	145401	507
演習 I	長 國強	146871	507
演習 I	中野 香織	146851	508
演習 I	中村 公一	147101	509
演習 I	西村 和夫	146801	509
演習 I	日野 健太	147121	510
演習 I	藤原 篤志	146601	511
演習 I	若山 大樹	146861	511
演習 I	渡辺 伊津子	147141	512
演習 II	青木 茂樹	149911	512
演習 II	明石 博行	149201	513
演習 II	阿部 一人	147201	513
演習 II	飯田 哲夫	148901	514
演習 II	石名坂 邦昭	147901	514
演習 II	小沢 利久	147301	515
演習 II	鹿嶋 秀晃	147401	515
演習 II	片桐 伸夫	148601	516
演習 II	兼村 栄哲	149901	517

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅱ	河合 由佳理	150041	518
演習Ⅱ	菅野 佐織	149931	518
演習Ⅱ	岸田 隆行	150011	519
演習Ⅱ	桑原 正行	150051	519
演習Ⅱ	猿山 義広	149601	520
演習Ⅱ	高井 徹雄	149921	520
演習Ⅱ	高木 克己	148801	521
演習Ⅱ	高田 光明	148301	521
演習Ⅱ	滝田 公一	148501	522
演習Ⅱ	長 國強	149401	522
演習Ⅱ	中川 功一	149941	523
演習Ⅱ	中川 淳平	149501	523
演習Ⅱ	中野 香織	149951	524
演習Ⅱ	中村 公一	150001	525
演習Ⅱ	西村 和夫	149101	525
演習Ⅱ	羽鳥 茂	148701	526
演習Ⅱ	日野 健太	147701	526
演習Ⅱ	藤原 篤志	149801	527
演習Ⅱ	若山 大樹	149961	528
演習Ⅱ	渡辺 伊津子	148351	528
演習Ⅲ	青木 茂樹	152411	529
演習Ⅲ	明石 博行	150801	529
演習Ⅲ	阿部 一人	152501	530
演習Ⅲ	飯田 哲夫	151201	530
演習Ⅲ	石名坂 邦昭	151801	530
演習Ⅲ	江頭 隆治	150501	531
演習Ⅲ	小沢 利久	150901	531
演習Ⅲ	鹿嶋 秀晃	152301	532
演習Ⅲ	片桐 伸夫	151001	532
演習Ⅲ	兼村 栄哲	150301	533
演習Ⅲ	河合 由佳理	152561	533
演習Ⅲ	菅野 佐織	152421	534
演習Ⅲ	岸田 隆行	150601	534
演習Ⅲ	猿山 義広	152601	534
演習Ⅲ	高井 徹雄	152611	535
演習Ⅲ	高木 克己	152101	535
演習Ⅲ	高田 光明	150101	536
演習Ⅲ	滝田 公一	152001	536
演習Ⅲ	長 國強	152401	537
演習Ⅲ	中川 功一	152431	537
演習Ⅲ	中川 淳平	150201	537
演習Ⅲ	中野 香織	152441	538
演習Ⅲ	中村 公一	151401	539
演習Ⅲ	西村 和夫	152201	539
演習Ⅲ	羽鳥 茂	151901	540
演習Ⅲ	日野 健太	151601	540
演習Ⅲ	藤原 篤志	150401	541
演習Ⅲ	宮城 徹	151701	541
演習Ⅲ	山田 純平	151101	542
演習Ⅲ	山田 勝	151501	542

経営学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
演習Ⅲ	若山 大樹	152451	542
演習Ⅲ	渡辺 伊津子	152551	543
会計学	岩渕 昭子	136201	543
会計学	片桐 伸夫	136101	544
会計学	片桐 伸夫	136211	544
会計監査論	阿部 一人	141801	545
会計監査論	阿部 一人	331801	546
外書講読 (英書Ⅰ)	枝松 正行	144201	547
外書講読 (英書Ⅰ)	桑原 正行	144101	547
外書講読 (英書Ⅰ)	辰馬 信男	144121	548
外書講読 (英書Ⅰ)	中野 香織	144111	549
外書講読 (英書Ⅱ)	高田 光明	144211	550
外書講読 (スペイン書)	上野 勝広	144601	551
外書講読 (中国書)	佐藤 善美子	144501	552
外書講読 (独書)	武田 利勝	144301	552
外書講読 (仏書)	東 辰之介	144401	553
外書講読 (ロシア書)	廣田 英靖	144701	554
確率・統計入門A	小沢 利久	136631	554
確率・統計入門B	小沢 利久	136641	555
環境経営論	川村 雅彦	143501	556
管理会計論	猿山 義広	140101	556
管理会計論	猿山 義広	331201	557
銀行経営論	服部 昌久	141501	558
産業組織論 近代経済学	滝田 公一	136401・136402	558
近代経済学	滝田 公一	330901	559
金融論	玉木 伸介	140601	560
グローバル・マーケティング論	深澤 琢也	143271	561
経営科学概論	飯田 哲夫	136511	562
経営科学概論	西村 和夫	136501	563
経営学	中川 功一	136011	564
経営学	日野 健太	135901	565
経営学	日野 健太	136001	566
経営学史	中川 淳平	139501	567
経営学史	中川 淳平	330301	568
経営管理論	渡辺 伊津子	139701	569
経営管理論	渡辺 伊津子	330101	570
経営財務論	高田 光明	139901	571
経営財務論	高田 光明	331101	571
経営情報システムA	高井 徹雄	141011	572
経営情報システムA	高井 徹雄	332511	572
経営情報システムB	高井 徹雄	140121	573
経営情報システムB	高井 徹雄	332521	573
経営数学A	飯田 哲夫	136611	574
経営数学B	飯田 哲夫	136621	575
経営戦略論	中村 公一	143301	576
経営戦略論	中村 公一	330001	576
経営組織論	日野 健太	140201	577
経営統計B	長 國強	140721	578
経営分析論	片桐 伸夫	141301	578
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001	579

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
経営労務論	鹿嶋 秀晃	331001	580
経営統計A	長 國強	140711	581
経済学概説	高畑 純一郎	135001	581
経済学概説	羽鳥 茂	134901	582
経済学概説	羽鳥 茂	135011	583
経済原論	明石 博行	136301	584
経済原論	明石 博行	330501	585
経済法	若林 亜理砂	119701	586
計量経済学	呉 逸良	143701	587
ゲーム理論A	上條 良夫	143721	587
ゲーム理論B	上條 良夫	143731	588
原価計算論	岸田 隆行	139801	588
原価計算論	岸田 隆行	330701	589
現代企業論	糸久 正人	139411	589
現代企業論	糸久 正人	139421	590
公益企業論	枝松 正行	140801	591
国際会計論	河合 由佳理	142801	592
国際経営論	深澤 琢也	142401	593
国際経済論	田中 鮎夢	141701	594
サービス経営論	高畑 泰	140351	594
財政学	速水 昇	141601	595
財政学	速水 昇	333301	596
財務会計論	桑原 正行	142201	597
財務会計論	桑原 正行	332201	598
サプライチェーン・マネジメントA	飯田 哲夫	141181	599
サプライチェーン・マネジメントB	飯田 哲夫	141191	600
市場戦略概説	兼村 栄哲	136251	601
上級簿記	矢島 正	140901	602
商業経営論	石川 和男	140301	603
商業史	山田 勝	142301	604
商業史	山田 勝	331501	604
証券市場論	勝田 佳裕	142001	605
消費者行動論	菅野 佐織	143231	605
商法Ⅰ（総則・会社法）	三浦 康平	138701	606
商法Ⅱ（商行為、手形・小切手法）	中濱 義章	145001	607
情報処理応用A	宇谷 明秀	138901	607
情報処理応用A	若山 大樹	138801	608
情報処理応用B	宇谷 明秀	139101	608
情報処理応用B	若山 大樹	139001	609
情報処理基礎A	小沢 利久	137601	609
情報処理基礎A	加藤 武信	137001	610
情報処理基礎A	河内谷 幸子	136701	610
情報処理基礎A	河内谷 幸子	137101	611
情報処理基礎A	佐藤 正知	137401	612
情報処理基礎A	地引 昌弘	136801	613
情報処理基礎A	地引 昌弘	136901	614
情報処理基礎A	長 國強	137611	614
情報処理基礎A	中野 秀洋	137631	615
情報処理基礎A	村上 友佳子	137201	616
情報処理基礎A	依田 聖	137301	617

経営学部

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
情報処理基礎 A	若山 大樹	137621	617
情報処理基礎 B	小沢 利久	138601	618
情報処理基礎 B	加藤 武信	138301	619
情報処理基礎 B	河内谷 幸子	137901	620
情報処理基礎 B	河内谷 幸子	138001	621
情報処理基礎 B	佐藤 正知	138501	622
情報処理基礎 B	地引 昌弘	138101	623
情報処理基礎 B	地引 昌弘	138201	624
情報処理基礎 B	長 國強	138611	624
情報処理基礎 B	中野 秀洋	138631	625
情報処理基礎 B	村上 友佳子	138401	625
情報処理基礎 B	依田 聖	137701	626
情報処理基礎 B	若山 大樹	138621	626
情報セキュリティ A	西村 和夫	142511	627
情報セキュリティ B	西村 和夫	142521	628
生産管理論	藤原 篤志	142601	629
生産管理論	藤原 篤志	333801	629
製品開発論	宮下 雄治	143221	630
税法	奥村 正郎	143101	630
税務会計論	高木 克己	141901	631
税務会計論	高木 克己	332301	631
ドイツ経営学	高橋 成夫	142701	632
特殊講義Ⅰ [現代のビジネスモデル]	中野 香織	144801	633
現代産業事情Ⅲ 現代企業論 特殊講義Ⅱ	百田 義治	101201・101202・ 101203	634
日本経営史	大島 久幸	142101	634
日本経済史	渡辺 新	139301	635
日本経済論	羽鳥 茂	141401	636
ビジネス英語	秋葉 滋	144901	637
ファイナンス理論	江頭 隆治	143711	637
ベンチャー企業論	崔 銀順	143401	638
簿記学	岩渕 昭子	135601	638
簿記学	大野 満奈	135101	639
簿記学	大野 満奈	135301	639
簿記学	河合 由佳理	135201	640
簿記学	猿山 義広	135811	641
簿記学	竹腰 友美	135701	642
簿記学	水野 恵子	135401	643
簿記学	水野 恵子	135801	643
簿記学	矢島 正	135501	644
保険経営論	岡田 太	140401	645
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	646
マーケティング・サイエンス A	若山 大樹	141151	647
マーケティング・サイエンス B	若山 大樹	141161	647
マーケティング・チャネル論	青木 茂樹	143251	648
マーケティング・リサーチ A	菅野 佐織	141131	648
マーケティング・リサーチ B	菅野 佐織	141141	649
マーケティング史	石川 和男	143281	650
マーケティング論	兼村 榮哲	143201	651
マーケティング論	兼村 榮哲	334401	652

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
マネジメント・サイエンスA	小沢 利久	141111	653
マネジメント・サイエンスB	小沢 利久	141121	654
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	655
民法Ⅱ（債権法） 民法（債権）	飯塚 真	143801・143802	656
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	142351	656
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	331551	657
流通システム論	青木 茂樹	143211	657
労働法	藤本 茂	098801	658
労働法	藤本 茂	325101	659
外書講読（英書）	休講		
経営史	休講		
経営心理学	休講		
経済政策	休講		
システム論	休講		
商法	休講		
統計原論	休講		
民法	休講		

専 門 教 育 科 目

1. 経 済 学 部

経済学科

経済学科フレックスA

商学科

現代応用経済学科

経済学科フレックスB

履修コード	101151
科目名	ITプロフェッショナルクラスI
担当者名	中済 光昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的にはTOEICにおいて短期海外出張が可能なレベル、ITパスポートやSAP認定コンサルタントなどの資格取得が出来るレベルに到達することが目標となる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) ~ (5) 基礎的な英語文献を調査しまとめる練習とレポーティング、プレゼンの練習、コンサルタントとして必要な心構えやマナー、会話技法、ユニークな発想を発案するための演習 (KJ法、ブレインストーミング法など) (6) ~ (30) ドイツSAP社のERP認定資格取得のための研修
準備学習	情報系の資格や簿記の資格を持っていることが望ましい。 発表資料を作成する必要があります。
履修上の留意点	・ 当科目は演習と同等の科目であるので、演習Iを同時に履修することはできない。 ・ このクラスでは教員と相談の上、専門学校に半年間通学し資格試験を受けることを推奨している。 ・ このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。 ・ 合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・ メールを読み書きやワープロを打つといったことが必須である。無線でインターネットに接続できるノートパソコンを持っていることが望ましい。
成績評価の方法	課題提出 (50%)、学年末に行う発表 (15%) とレポート提出 (15%)、イベントへの参加 (20%) を総合評価する。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
その他	・ 編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが、履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。 ・ 当科目に併設されるIT研究I~VIは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課外レポートに基づき成績評価する。 ・ 当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・ ITプロフェッショナルクラスIIIでは卒業制作を併設する。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/itpc/

履修コード	101171
科目名	ITプロフェッショナルクラスII
担当者名	中済 光昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としている。具体的には短期海外出張に必要なTOEICのスコアを取ること、ITや簿記の資格を取得することが目標となる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2) - (30) 事例を設定して、ヒアリングを行い提案を作成するシステム提案・開発演習
準備学習	原則としてITプロフェッショナルクラスIを受講していること。 発表資料を作成する必要があります。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIを同時に履修することはできない。 ・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。 ・このクラスではインターンシップに参加することが必須であり、交通費等インターンシップにかかる費用は自己負担となる。 ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。
成績評価の方法	課題提出(50%)、学年末に行う発表(15%)とレポート提出(15%)、イベントへの参加(20%)を総合評価する。
教科書/テキスト	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・編入学および転部・科の学生を主な対象とする追加募集を行うので、履修許可を受けていないが履修したい者は4月初回の授業に必ず出席すること。 ・当科目に併設されるIT研究I-Vは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。 ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・ITプロフェッショナルクラスIIIでは、卒業研究(システム開発)を併設する。 ・ITプロフェッショナルクラスIIIはITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。新規募集は行わない。

履修コード	101191 101192
科目名	ITプロフェッショナルクラスIII 卒業研究
担当者名	村上 泰

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当科目は基本的なITの知識を持ち、海外のプログラマやリーダーと英語や中国語で打ち合わせを行い、業務知識やプロジェクト管理能力、コミュニケーション力にたけたITプロフェッショナルを養成することを目的としています。そのため、ビジネスに役立つITとは何かを考察し、自分のアイデアをシステム開発を通じて成果物にまとめ上げます。 基本的な開発プロセスに沿い、要件定義から開発、運用フェーズまで実践することを目標とします。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) ガイダンス (2)-(30) システム提案演習 <ul style="list-style-type: none"> ・事例を設定 ・研究計画書作成 ・論題の提出 ・ヒアリング ・研究テーマに関する調査・分析 ・提案書、設計書、操作仕様書の作成、発表 ・卒業制作と最終成果発表(デモ有り)を実施
----------	--

準備学習	ITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していること。 Windows環境でのJava開発、VBA(マクロ)開発を想定していますが、習得済みの方はRubyなど他のオブジェクト指向言語、Linux環境での開発にも挑戦して下さい。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実業務で役立つツールの作成を目的とし、JavaやExcelマクロによる演習を実施。 ・当科目は演習と同等の科目であるので、演習IIIを同時に履修することはできない。 ・このクラスでは教員と相談の上専門学校に半年間通学し資格試験を受けることなどが推奨される。 ・合宿、課外イベントなどには原則として出席すること。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことが必須である。インターネットに接続できるノートパソコンを持参することがある。 ・学外のIT関連各種勉強会への参加やグループ学習を推奨。 ・ビジネスの現場を想定し、各自タスク管理しながら卒業制作を行う。 ・ITスキルの研鑽だけでなく、チームワーク、ビジネスツールの使用方法、業務知識やプロジェクト管理能力の自発的な獲得を求める。
---------	--

成績評価の方法	出席と課題提出、学年末に行う発表とレポート提出、イベントへの参加を総合評価する
---------	---

教科書/テキスト	適宜指示する。
----------	---------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ITプロフェッショナルクラスIIの単位を修得していることが受講条件である。 ・新規募集は行わない。 ・当科目に併設されるIT研究I-Vは専門学校での資格取得と学習状況および当クラスを指導する副担当が課すレポートに基づき成績評価する。 ・当科目に併設されるITインターンシップI、IIでは、担当者と派遣先のIT企業が職務内容を決め、それに従ってインターンシップを行い、最終発表および派遣先からの勤務状況報告に基づいて成績評価する。 ・卒業研究(システム開発)を併設する。 ・機会があれば現役のエンジニアやコンサルタントを招いて、ディスカッションの場を設定。
-----	---

履修コード	094601
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 第二次世界大戦後の東アジア (東北アジア+東南アジア) における経済発展について、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。特に経済開発における政府の役割と民間資本の働きに注目して東アジア資本主義の特徴を説明することにする。</p> <p>(到達目標) この講義では、受講生諸君に東アジア経済に関してその歴史・理論・現状分析の側面から基本的な知識を身につけてもらうことが第一の目標である。</p> <p>歴史の面では、工業化が本格化する1960年代以降の時期ばかりでなく、その前史 (植民地期や終戦から1950年代までの時期) を射程に入れた通史的な理解をする。理論の面では、東アジアの工業化を最も高く評価する新古典派開発経済学を中心に、その理論的内容と問題点について学習する。そして、現状分析の面では、東アジア各国経済の現状や国境を越えた経済協力=東アジア経済圏の形成に関する動向について、日本との関係を視野に入れながら理解を深める。</p> <p>以上の学習を通じて、アジア経済研究の重要性を受講生諸君に認識してもらうことが本講義の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア経済論を学ぶ意義について 2. 東アジア経済の全体像：アジアの多様性、東アジアの範疇 3. 東アジア経済と経済理論1：新古典派開発経済学 4. 東アジア経済と経済理論2：その他の理論 5. 東アジアの経済1：工業化の前史 6. 東アジアの経済2：戦後経済発展過程① 7. 東アジアの経済3：戦後経済発展過程② 8. 東アジアの経済4：経済発展の特徴① 9. 東アジアの経済5：経済発展の特徴② 10. アジアNIEsの経済1：経済発展の過程とその意義 11. アジアNIEsの経済2：用語説明 12. アジアNIEsの経済3：経済発展の特徴① 13. アジアNIEsの経済4：経済発展の特徴② 14. アジアNIEs各国経済の現況 15. 前期授業のまとめ 16. 東南アジア諸国の経済1：主要各国の経済発展過程① 17. 東南アジア諸国の経済2：主要各国の経済発展過程② 18. ASEANの歴史1 19. ASEANの歴史2 20. ASEANの現状 21. アジア社会主義国の経済1：中国の改革・開放政策 22. アジア社会主義国の経済2：その他の社会主義国経済 23. アジア通貨危機1：危機の過程・特徴・性格・原因 24. アジア通貨危機2：危機への対応策 25. 東アジアの地域経済協力1：地域経済協力の歴史 26. 東アジアの地域経済協力2：地域経済協力の現状と展望 27. 東アジア経済の現状と展望1：現状把握 28. 東アジア経済の現状と展望2：直面する諸問題 29. 東アジア経済と日本 30. 後期授業のまとめ
----------	---

準備学習	<p>授業の各テーマに関連する参考書の該当箇所や授業で紹介する参考文献の該当箇所について目を通しておくこと。</p> <p>また、新聞やWEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読んでおくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>前期のレポートと定期試験 (学年末) で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に定めない。</p>
----------	----------------

参考書	<p>大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、2,000円 (税別)、ISBN 4-641-12044-7</p>
-----	---

履修コード	310001
科目名	アジア経済論
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 第二次世界大戦後の東アジア (東北アジア+東南アジア) における経済発展について、歴史・理論・現状分析の三つの側面から、下記の講義内容に記載された個別のテーマについてそれぞれ解説する。特に経済開発における政府の役割と民間資本の働きに注目して東アジア資本主義の特徴を説明することにする。</p> <p>(到達目標) この講義では、受講生諸君に東アジア経済に関してその歴史・理論・現状分析の側面から基本的な知識を身につけてもらうことが第一の目標である。</p> <p>歴史の面では、工業化が本格化する1960年代以降の時期ばかりでなく、その前史 (植民地期や終戦から1950年代までの時期) を射程に入れた通史的な理解をする。理論の面では、東アジアの工業化を最も高く評価する新古典派開発経済学を中心に、その理論的内容と問題点について学習する。そして、現状分析の面では、東アジア各国経済の現状や国境を越えた経済協力=東アジア経済圏の形成に関する動向について、日本との関係を視野に入れながら理解を深める。</p> <p>以上の学習を通じて、アジア経済研究の重要性を受講生諸君に認識してもらうことが本講義の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア経済論を学ぶ意義について 2. 東アジア経済の全体像：アジアの多様性、東アジアの範疇 3. 東アジア経済と経済理論 1：新古典派開発経済学 4. 東アジア経済と経済理論 2：その他の理論 5. 東アジアの経済 1：工業化の前史 6. 東アジアの経済 2：戦後経済発展過程① 7. 東アジアの経済 3：戦後経済発展過程② 8. 東アジアの経済 4：経済発展の特徴① 9. 東アジアの経済 5：経済発展の特徴② 10. アジアNIEsの経済 1：経済発展の過程とその意義 11. アジアNIEsの経済 2：用語説明 12. アジアNIEsの経済 3：経済発展の特徴① 13. アジアNIEsの経済 4：経済発展の特徴② 14. アジアNIEs各国経済の現況 15. 前期授業のまとめ 16. 東南アジア諸国の経済 1：主要各国の経済発展過程① 17. 東南アジア諸国の経済 2：主要各国の経済発展過程② 18. ASEANの歴史 1 19. ASEANの歴史 2 20. ASEANの現状 21. アジア社会主義国の経済 1：中国の改革・開放政策 22. アジア社会主義国の経済 2：その他の社会主義国経済 23. アジア通貨危機 1：危機の過程・特徴・性格・原因 24. アジア通貨危機 2：危機への対応策 25. 東アジアの地域経済協力 1：地域経済協力の歴史 26. 東アジアの地域経済協力 2：地域経済協力の現状と展望 27. 東アジア経済の現状と展望 1：現状把握 28. 東アジア経済の現状と展望 2：直面する諸問題 29. 東アジア経済と日本 30. 後期授業のまとめ
----------	--

準備学習	<p>授業の各テーマに関連する参考書の該当箇所や授業で紹介する参考文献の該当箇所について目を通しておくこと。</p> <p>また、新聞やWEBサイトのアジア経済に関する記事をよく読んでおくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>試験およびレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>前期のレポートと定期試験 (学年末) で総合的に評価する。なお、定期試験とレポートの成績比重は、前者80%、後者20%とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>特に定めない。</p>
----------	----------------

参考書	<p>大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、2,000円 (税別)、ISBN 4-641-12044-7</p>
-----	---

履修コード	094801
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/到達目標 (ねらい) 知っているようで知らない現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。

授業スケジュール 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。
以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。
◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ウェンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティ、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など

準備学習 瀬戸岡著『アメリカ 理念と現実』（時潮社、2005年刊）の各章を予習しておくこと、そして日々のニュースに注目しておくことをお勧めします。この科目が4単位であるという意味は、週あたり4時間の学習が求められるという意味です。毎週の講義1時間半のほかに、毎週2時間半の独習が必要となります。講義には、そのような予習をしたうえで臨んでください。

履修上の留意点 この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカものの本には書かれていない事柄をたくさんお話することによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。
アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。現代の国際事情を幅広く解明したい諸君は、この科目を早めに履修して、いっそう広範かつ深い国際理解へとすすむことをお勧めします。

成績評価の方法 随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。
平常点を重視するとは、この授業が知的関心の強い者だけを対象としておこないたいという考え方にもつづいています。したがって、随時書いてもらう小論は、知的関心の高まった学生だけが書けるように工夫されています。こうして、ただ単位がほしいだけという学生にとっては、はなはだ単位がとりにくい科目になっているのです。それゆえ、単位にガツガツしている諸君は、この科目は履修しないようお勧めします。

教科書/テキスト 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから講義のなかでは特定の教科書は使用しません。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書です。ただし、瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』（時潮社、2005年）のほかに、グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』（青木書店、1994年）瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』（桜井書店、2003年）をテキストに準ずる図書として活用するようにお勧めします。

参考書

履修コード	310201
科目名	アメリカ経済論
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。 以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。 ◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ヴェンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティ、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとヨーロッパ連合、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・中南米、◇アメリカの経済学、など
----------	--

準備学習	関連する事項の掲載されたテキスト、参考書などを、随時一読して授業にのぞんでください。
------	--

履修上の留意点	アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカもの本には書かれていない事柄をたくさんお話しすることによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。
---------	---

成績評価の方法	随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のためえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。
---------	---

教科書/テキスト	最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定の教科書は使用しません。講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカもの本の本の全体がこの講義の教科書ですが、どうしてもといわれれば、 瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』(時潮社、2005年) グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』(青木書店、1994年) 瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』(桜井書店、2003年) をおすすめします。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	095001
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第二次大戦後の欧州統合の歩みを追い、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域的共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回～第3回 欧州統合の深化と拡大 第4回～第6回 欧州連合EUの目的・機構 第7回～第9回 共同市場・共通政策 第10回～第12回 通貨統合 第13回～第15回 ソーシャル・ヨーロッパ
----------	--

準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいうまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きな準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	1年次、2年次の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
---------	---

成績評価の方法	学期末試験を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	教科書は指定しません。
----------	-------------

参考書	(1) 庄治克宏 「欧州連合—統合の論理とゆくえ」 岩波新書 (2) 藤井良広 「EUの知識」 日経文庫 (3) 田中素香 「ユーロ」 岩波新書
-----	--

その他	なし
-----	----

関連リンク	http://europa.eu/
-------	---

履修コード	310111
科目名	EU統合論
担当者名	清水 卓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	第二次大戦後の欧州統合の歩みを追ひ、現在、27の加盟国、約5億の人口、アメリカを凌駕するGDP、高度の福祉社会、各国・各地域の多様な歴史と風土、経済・社会構造を有するEUの、歴史、制度、政策、現状について解説し、EUとは何か、EUはどのようにして発展してきたか、EUのような地域的共同体を東アジアで構築できるか、といった課題について、自ら調べ、客観的、体系的に理解し、それを表現できる力を身につけることを目標とする。
授業スケジュール	第1回～第3回 欧州統合の深化と拡大 第4回～第6回 欧州連合EUの目的・機構 第7回～第9回 共同市場・共通政策 第10回～第12回 通貨統合 第13回～第15回 ソーシャル・ヨーロッパ
準備学習	授業で紹介する資料を読むことが重要であることはいまでもありませんが、過去一週間の新聞からEU関連の記事を整理することも効果的事前学習となります。さらに前向きの準備は、予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席することです。そうすれば、授業内容をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	1年次、2年次の専門科目の学習で経済学の基礎知識および国際経済・国際金融に関する基礎的知識を有していることが望まれます。講義内容を理解するためにも、新聞・雑誌、インターネット、TV特集番組などの欧州諸国のニュース報道に関心を持ちましょう。
成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内で提出を求める課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。
参考書	(1) 庄治克宏 「欧州連合一統合の論理とゆくえ」 岩波新書 (2) 藤井良広 「EUの知識」 日経文庫 (3) 田中素香 「ユーロ」 岩波新書
その他	なし
関連リンク	http://europa.eu/

履修コード	093841
科目名	医療経済論
担当者名	河野 敏鑑
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	医療制度に関連する問題をミクロ経済理論によって分析する。医療経済学の理論的成果を紹介するとともに、日本を中心に医療制度とその問題点について解説する。 医療について経済学の視点から自分なりの考え方が持てるようになるのが本講義の到達目標である。
授業スケジュール	1 イントロダクション、健康と経済 2-7 医療・健康とミクロ経済学 8-9 日本の医療保険制度 10-11 日本の高齢者医療と介護 12 医療費の決定要因と医療サービスの経済的評価 13 医療システムの国際比較 14 健康と格差、企業と健康 15 期末試験
準備学習	講義ではミクロ経済理論を利用する。特に必要な部分については講義の前半で復習をしながら進めるが、ミクロ経済学について基礎的な理解があることが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	中間レポート(30%程度)と定期試験(70%程度)により評価します。出席状況は問いません。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	田中滋・川淵孝一・河野敏鑑編『会社と社会を幸せにする健康経営』勁草書房 これ以外の参考文献については第一回目の講義で紹介しますが、初心者向けの書籍としては、 鈴木亘 『だまされないための年金・医療・介護入門』 東洋経済新報社 1900円+税 4-492-70123-2 より深く学びたい人向けの書籍としては、 漆博雄 『医療経済学』 東京大学出版会 4000円+税 4-13-042105-0 を推薦します。
関連リンク	http://home.e01.itscom.net/tkouno

履修コード	104101
科目名	演習I
担当者名	浅田 進史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、ヨーロッパおよびアジア近現代経済史、ヨーロッパ・アジア経済関係史を研究します。経済のグローバル化が歴史的にどのように展開し、それがヨーロッパおよびアジアの経済・社会にどのような影響を与えてきたのでしょうか。経済史のアプローチを身につけることで、長期的な視点から、現在の経済・社会を理解することを目指します。ただし、ゼミの中心はあくまでゼミ生にあります。自らの問題関心・発想を大切にしながら、ゼミでの発表・討論に積極的に関わるようにしてください。</p> <p>演習Iでは、比較的平易な通史レベルの関連文献を取り上げながら、専門的な文章の読解・発表・討論・レポート作成といった基礎的な力を身につけることができるように指導します。</p>
授業スケジュール	<p>前期では、ゼミ受講生共通の文献を読むと同時に、それぞれの関心に応じて、ゼミ研究の準備作業を進めることが求められます。前期末に、その準備作業の成果の一端を発表してもらいます。</p> <p>後期でもひきつづき、共通の文献を選定し討論すると同時に、前期の準備作業をさらに発展させ、その成果をレポートとしてまとめて提出してもらいます。</p> <p>前期・後期とも、スケジュールの詳細についてはガイダンス時に提示します。</p>
準備学習	<p>毎回のゼミで対象となる文献をあらかじめ読んでおくことや、自分の研究テーマを計画的に進めておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>経済史、西洋経済史、日本経済史、アジア経済論などに関する講義を合わせて履修することが望ましい。</p>
成績評価の方法	<p>平常点（ゼミ発表、討論への参加）と年度末レポートを総合的に評価します。</p>
教科書／テキスト	<p>前期・後期の初回時に指定します。</p>
参考書	<p>演習時に指示します。</p>

履修コード	103901
科目名	演習I
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	紙面を賑わせるさまざまな社会・経済問題は、わたしたちの生活に多大な影響を与えるものでありながら、難解な言葉で語られることが多いので、実際には、それがどのように生活と関っているのかが見えにくいものでもあります。 そこで、演習Iでは、生活実感を通して社会・経済の問題を考えていくことを体験してもらおうと同時に、「真理の探究」のために必要不可欠な「問題意識」を持てるような課題に取り組む作業を行いたいと考えています。 皆で一緒に考えていくこと、意見を交わしていくことで、複雑な問題でも理解しやすくなるという実感は、ゼミならではの最も大切な体験になることでしょう。 具体的には、「グローバル経済下の日本の社会生活」という大きなテーマの下、報告ならびに討論を行うつもりです。
---------------------	---

授業スケジュール	①通常のゼミ活動 ゼミの活動に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。タイムリーな問題を扱った新書やブックレットといった安価で簡潔にまとめられた題材を利用して、レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。 ②合宿について これまで春と夏に合宿を行ってきました。今年度は、春合宿の代わりに4月以降に長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通じて、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して体得することにしたと思います。夏合宿についての詳細は、みなさんと相談して決めたいと思います。 ③インナー大会、ゼミ討論会等への参加 学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学内・学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくこととなります。そのほかに、ふれあい広場への参加などを通して、プランニング能力および実行力の向上をめざします。
----------	--

準備学習	経済学の基礎理論を1年の時にしっかり学んでください。とはいえ、ゼミでも基礎理論を復習しながら、現実問題を読み解く基礎を作っていくので「基礎知識が充分ではないからゼミについていけないのではないか？」などとは考えなくて大丈夫です。
------	---

履修上の留意点	とにかく、やる気と継続性、ゼミを最優先する覚悟があればゼミに入る資格としては十分です。 遅刻・欠席は厳禁です。 ゼミは、意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、課題の解決に達するための努力が不可欠となります。 また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日もゼミ活動に割られます。アルバイトよりゼミが優先となります。 ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。 また本ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ります。したがって、基本的にはゼミ生は非喫煙者を希望します。現在喫煙者であっても、ゼミ開始10分前以降からゼミ開始まで、ゼミやサブゼミの間の休憩時間中およびゼミ合宿中の喫煙は禁止いたします。
---------	--

成績評価の方法	報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	最初の時間に何冊かを提示し、相談の上で決定します。ゼミの長期的な目標としては、経済学の古典を読めるような思考回路を各人が自分の脳中に立ち上げることです。
----------	--

参考書	随時紹介します。
-----	----------

履修コード	103501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標（ねらい）	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	モデルをマルチメディア・プレゼンテーション可能にするため、全員に最低DTP（デスクトップアプリケーション）の方法を習得させる。すなわち（１）編集方法（Page Makerなど）（２）グラフィックス（Illustrator）（３）レタッチ・修正（Photoshop）を習得させる。ゼミ生は課題として、DTP検定２種試験にチャレンジする。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	検定試験への挑戦50と平常点50。ただし検定試験に不合格だからといってゼミが不合格ということにはならない。
教科書／テキスト	指定なし。ただし必要な場合指示する。
参考書	

履修コード	102401
科目名	演習Ⅰ
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標（ねらい）	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさ无缘の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。一これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会最大の課題のありかです。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、佐和隆光『市場主義の終焉』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、ドーア『誰のための会社にするか』
準備学習	原則として、まいにち、日経新聞（日経新聞）を読み続けて下さい。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%
教科書／テキスト	佐和隆光『市場主義の終焉』（岩波新書）。ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』（岩波新書）。
参考書	日経新聞

履修コード	104401
科目名	演習I
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学以外の本を使ってのレジュメ作成・発表演習 ・Word、Excelの基本操作に関する講義 ・経済の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表 <p>夏期合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベート大会 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識 ・金融政策・産業政策・産業組織・金融工学のいずれかの本を輪読 ・卒論報告会
----------	--

準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
---------	-----------------------------------

成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
----------	---------------

参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
-----	-----------------------------------

その他	経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。
-----	--

履修コード	104601
科目名	演習I
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ゼミのモットー＝「常識や通念、風潮にとらわれない」力をつちかう。社会経済における「生きた会計」を学習する。少人数教育を最大限いかすゼミ教育を行う（10名以内）。
---------------------	--

授業スケジュール	会計を真に理解するには、まずもってその基礎にある社会経済に関する学習が大切。したがって、会計学の勉強とともに、社会経済に関する時事の勉強を行なう。
----------	---

準備学習	新書版などの必読書を指示。
------	---------------

履修上の留意点	特にないが、ゼミでは単に「本のなかの会計」を学ぶのではなく、「生きた会計」を学ぶことに力点がある。それを通して世の中の社会経済問題を読み解く力をつちかう。
---------	---

成績評価の方法	出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。
---------	------------------------

教科書／テキスト	新聞・雑誌の記事・コラム、会計学の初級・標準レベルの教材。
----------	-------------------------------

参考書	コンパクトな新書版など、必要に応じて指示。
-----	-----------------------

その他	私のプロフィールなどは、私のホームページ参照（下記のリンクをクリック）。なお、放送大学（テレビ）「社会のなかの会計」でも担当講義（第1回～第12回）しています。
-----	--

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm
-------	---

履修コード	101801
科目名	演習I
担当者名	石川 祐二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業においては、会計情報が様々な目的を持って利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのだろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。特に、演習Iでは、そのような分析視点を確立するために、基本的なスキルと知識を身につけることが目標となる。
授業スケジュール	演習Iでは、会計に関する基礎知識を身につけることを目的としている。特に、会計に関わる現象を捉える上で不可欠な、基礎的な用語・概念を中心に取り扱う。基本的には、プリントを中心にディスカッションを行いたい。
準備学習	事前に配布したプリントを必ず読んでから演習に臨むこと。
履修上の留意点	積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってもらいたい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。
成績評価の方法	特に演習時の報告・発言を重視するが、その他ゼミ活動への貢献も含め、総合的に評価する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	必要に応じて紹介する。
その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。

履修コード	102101
科目名	演習I
担当者名	岩波 文孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2008年リーマンショック以降、企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、企業不祥事の続出、経営不振・経営破綻、敵対的買収、機関投資家・投資ファンドの不祥事など経営システムの改革が企業経営に求められています。また、2011年3月の震災以降、日本企業は、我々市民が安心して生活できるような企業経営を求められるようになっています。演習では、現代企業におけるトップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、企業経営の仕組みや社会とコーポレート・パワーとの連関を理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関係、企業の社会的責任 (CSR) を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。
授業スケジュール	企業経営に関わる基礎的な文献を用いて輪読形式によりグループによるレジュメ報告を中心に討論を行います。夏期・春期に行うゼミ合宿では、現代の企業経営が直面する諸問題について、討論していきます。 1. ゼミナールの概要とガイダンス (1) 2. 株式会社の仕組み (2~5) 3. 株式所有と会社支配 (6~7) 4. トップ・マネジメントの組織と機能 (8~12) 5. 企業の社会的責任 (CSR) の現状 (13~18) 6. 企業とステークホルダー (19~25) 7. 企業と社会のあり方 (26~30)
準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
履修上の留意点	ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。専門の学習に向けて自らの課題を発見することや積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営に関する興味・関心を持ちゼミナールに参加してもらいたい。
成績評価の方法	ゼミ課題の発表内容、積極的な討論への参加などの平常点による総合評価を行います。
教科書／テキスト	開講時に指定します。
参考書	開講時に指定します。
その他	演習III履修時には「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	102201
科目名	演習I
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。この演習では、資本主義の経済理論を学びながら、現代資本主義の諸問題について考えます。とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学んでいきます。 演習Iでは、現代資本主義の経済構造を理解する上で必要な基礎知識の習得に努めます。
---------------------	---

授業スケジュール	今年度は、そのために、角田修一著『概説 社会経済学』をテキストとして用い、資本主義経済の理論と現実の理解に努めます。主な内容は次のようになっています。 序 経済学とは何か？ 1 労働を基礎とする経済と社会 2 必要と剰余 3 資本制経済 4 商品生産と労働 5 商品交換と貨幣 6 賃金労働 7 剰余価値の生産 8 資本蓄積と雇用 9 資本の循環と回転する資本 10 再生産表式 11 利潤率 12 商業資本 13 利子生み資本と信用制度 14 地代と近代的土地所有 15 資本制経済の総括
----------	---

準備学習	授業が始まるまでに、テキストの「序章 経済学とは何か？」を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	欠席・遅刻をしないこと。演習Iの履修者は、原則として演習II・演習IIIを履修し、4年次に「卒業論文」を作成します。
成績評価の方法	平常点により評価します。
教科書／テキスト	角田修一著『概説 社会経済学』（文理閣）2,700円＋税
参考書	大石雄爾著『商品の価値と価格』（創風社）3,600円＋税
その他	①「卒業研究」を併設します。 ②演習IIでは、選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。 ③コース制との関連：コースの履修は自由です。

履修コード	105201
科目名	演習I
担当者名	大島 久幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行う。演習Iでは、その入門編として比較的初学者にも取り組みやすい通史や概説書を読み、基本的な事実関係や先行研究について理解することから始める。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告 *詳細については、前期および後期のガイダンス時に知らせる。
----------	--

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
履修上の留意点	授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。ゼミ活動の詳細については、1年次の秋に説明会を開催するので、受講希望者は必ず出席すること。
成績評価の方法	演習へ取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。
教科書／テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
参考書	授業の中で、その都度紹介する。
その他	演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。

履修コード	101601
科目名	演習Ⅰ
担当者名	大吹 勝男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の格差社会と貧困、及び社会保障について学習します。ゼミの仲間と一緒に勉強し、考えていきましょう。そして卒業時には、単なる知識の習得だけでなく、それを生かすことのできる科学的な思考能力を身につけた人間になっていることを期待します。
授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならぬ。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。
準備学習	テキストを読んでおくこと。
履修上の留意点	ゼミでは、当然のことながら欠席や遅刻はゆるされません。
成績評価の方法	平常点によるが、年に2回～3回のテキスト以外の読書感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
教科書/テキスト	未定
参考書	
その他	〈卒業研究の有無〉ゼミ論は4年次に必ず提出しなければなりません。「卒業研究」は、義務ではないが、4年次の演習で開講します。自分自身の力をつけるために、提出することを要望します。

履修コード	103801
科目名	演習Ⅰ
担当者名	小栗 崇資
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
授業スケジュール	演習Ⅰでは、まず企業会計の基礎原理を理解することに重点を置き、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。
準備学習	指示に従い、事前の準備をしておくこと。
履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。
成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
教科書/テキスト	演習の中で指示します。
参考書	演習の中で指示します。

履修コード	104301
科目名	演習I
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>演習I・IIでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。</p> <p>課税所得は企業利益に調整を加えて算出されるものであるため、演習Iでは、税務会計についての理解を深める前段階として、まず企業会計についての基礎知識—企業会計の基本原則や会計制度の構造について習得します。</p> <p>基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえよう工夫してもらいたいと思います。</p>
----------	--

準備学習	会計学の基礎知識 (簿記3級程度)
------	-------------------

履修上の留意点	ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事(合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など)にも積極的に参加してください。
---------	---

成績評価の方法	出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。
---------	---

教科書/テキスト	未定(最初の演習の際に指示します)。 その他、適宜プリントを配布します。
----------	---

参考書	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』(日本経済新聞出版社) 柳裕治『税務会計論』(創成社)
-----	---

履修コード	104001
科目名	演習I
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学の授業には演習と講義があります。講義はいわば先生が中心にしゃべり、結論を出していきます。これに対して、ゼミ(演習)は学生が自分たちで問題を確かめ、事実と論理を確認し、結論へとたどり着くようにします。その意味では、皆さんが中心になって進めていきます。変化の激しい近頃の社会では学んだことが古くなるスピードも速くなりつつあります。覚えたことは古くなったら使えなくなるものもあるでしょう。でも、大丈夫です。新しい状況について、また勉強すればよいのです。でも勉強をしたことがない人は勉強ができません。大学では特定の事柄について勉強しますが、同時にそれを通じて勉強の仕方を勉強しましょう。その勉強の仕方の中で、自分で調べたり、討論したり、人の意見を聞いたりしながら、知識を深め、根拠を確かめ、結論を出すといったトレーニングをし、また、相手に理解してもらう発表に熟達するトレーニングをするのがゼミです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>このゼミでは地球環境問題の中の「地球温暖化問題」を考えます。近年の猛暑が騒がれていますが、これも年間平均にすると、平年に対して1度程度の昇温に過ぎません。国連の機関であるIPCCによれば、今世紀末には地球全体が1.8-4.0度の気温上昇を見るだろうとされています。文明(農業)が生まれたのが1万年前とされていますが、この1万年というのは、地球の平均気温は15度近辺で安定していました。時々起きる変動の幅もプラスマイナス1度程度でした。つまり、今予想されている気候の変動は「文明の未体験ゾーン」なのです。温暖化の害悪はさまざまありますが、海面上昇や雨の降り方の変化、農地の乾燥化、熱帯の病気・害虫の北上などが言われています。映画にも取り上げられた「温暖化が地球の寒冷化をもたらす」という逆転現象も決して「冗談」ではない現実性をもったものです。原因の主たるものは石炭・石油・天然ガスの燃焼に伴う炭酸ガスが太陽からの熱を閉じ込めて宇宙空間に逃げにくくするからです。しかも厄介なことに、暑くなるとますます暑くなるというメカニズムが地球にはあります。例えばシベリヤの永久凍土層にはメタンが閉じ込められていますが、暑くなればこれらが溶け出していきます。メタンガスは炭酸ガスの20倍の温暖化効果があります。こうした加速要因は23ほど見つかっていますが、そのほとんどがプラスの加速要因です。「サプライズ」とも言われる急激で過激な気候変動の可能性も排除はできません。温暖化問題は近代文明・経済活動を支える化石燃料が主たる原因となっており、その対策は経済活動にも大きな影響をもたらすし、経済活動のあり方や文明のあり方にも変更を迫ることになる可能性もあります。その対策をする時に必ず「利害」が絡みます。この利害関係を合理的に制御するのが経済学の課題です。こういった問題を勉強するのがこのゼミです。通常の授業とならんで年2回の「ゼミ合宿」では集中的に1冊の本を勉強します。ゼミ生同士の親睦を図るため、いくつかのイベントも用意しています。また、ゼミでは新聞記事の読み方も練習しますので、普段から新聞その他に目を通すようにしましょう。</p>
----------	--

- 第1-5週： テキスト第1章第1-3節
- 第6-10週： テキスト第1章第4-5節
- 第11-15週： テキスト第2章第1-6節
- 第16-24週： テキスト第2章第7-9節、第3章第1-3節
- 第25-30週： テキスト第3章第4-12節

ゼミでは新聞の切抜きを配布して、皆さんの自主的な情報収集の一助としています。

準備学習	日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。
履修上の留意点	出席の悪い人は単位を認定できません。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性・発言を総合して判定する。
教科書/テキスト	『よくわかる地球温暖化問題』(中央法規社)
参考書	小宮山宏『地球温暖化問題に答える』(東大出版会)、『IPCC地球温暖化第4次レポート』(中央法規社)
その他	<卒業研究の有無> あり。4年次に履修(別に4単位が与えられる)。

履修コード	101411
科目名	演習I
担当者名	小西 宏美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業、多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。
授業スケジュール	国際経済、国際金融関係のテキストを使ってレジュメの作成や報告、討論を行います。また学内/学外のゼミ連に参加します。
準備学習	毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 報告にあたっている場合はレジュメを用意すること。
履修上の留意点	演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。
成績評価の方法	出席、報告、討論、係の仕事で評価します。
教科書/テキスト	最初の授業時に指定します。
参考書	

履修コード	102701
科目名	演習I
担当者名	小林 正人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマは「景気循環と雇用・貧困」。 2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。 そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。
授業スケジュール	雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。 前期は入門的な文献(複数冊)や新聞記事などについて議論をしながら、同時に文献資料の読み方、議論の進め方、論点の出し方、発表資料(レジュメ)の構成、発表の仕方などを学びます。後期はより専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。
準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
履修上の留意点	ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使えることが必要です。 ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。
成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
教科書/テキスト	前期中の入門書、後期の専門書などをゼミ生と相談して決めます。
参考書	下記の本は入門書の候補です。 1. 浜 矩子『グローバル恐慌—金融暴走時代の果てに』岩波書店、2009年。 2. NHKスペシャル「ワーキングプア」取材班編 『ワーキングプア—日本を蝕む病』ポプラ社、2007年。 3. NHK取材班『マネー資本主義—暴走から崩壊への真相』NHK出版、2009年。 4. 堤 未果『ルポ貧困大国アメリカ!!』岩波書店、2010年。 5. 山家紀夫(やんべ ゆきお)『景気とは何だろうか』岩波書店、2005年。
その他	2011年度の前期には『誘拐』という経済小説を輪読したり、NHK番組「マネー資本主義」を視聴したりしてリアルな理解を追求しました。
関連リンク	演習IIIに併設される「卒業研究」は「卒業論文」だけです。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/

履修コード	102601
科目名	演習Ⅰ
担当者名	清水 卓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミは、現在のヨーロッパ経済や社会の研究を中心としたゼミです。とはいっても、ヨーロッパは多数の国や地域からなる大きくて懐の深い社会ですから、ゼミ参加者の問題関心も毎年実に様々で、中東欧諸国の加盟、欧州連合（EU）の統一通貨ユーロ、北欧諸国の福祉社会、その他、教育、環境、食料、文化など各国国民の日常生活に及んでいます。3年間をかけて、現代の経済社会を見る目を、基礎から徐々にレベルアップしていけるように運営しています。卒業時点で自分の得意分野でしっかり自分の考えを表現できるようになることを目指します。担当教員は、様々な最新情報や、資料の所在、文献の紹介などを行います。ゼミの中心は参加者学生との自由な議論です。参加者の色々な個性が触れ合って、学びの楽しさを実感できる場としたいと思います。演習Ⅰでは、専門分野の本をしっかりと読みこなすことができるよう重点的に指導します。
授業スケジュール	演習Ⅰでは、ディベートとEUに関する基礎知識修得を課題とします。見学（裁判所、TBS、製鉄所、東京の街散歩）などの行事、春と夏には、合宿をやります。
準備学習	EUに関する新聞等の記事のスクラップ・ブックの作成を課します。
履修上の留意点	色々なことに挑戦しようというものがゼミの基本姿勢です。このように書く遊びの方を期待するかもしれませんが、けじめをつけて、何事につけ前向き真剣に取り組もうとする姿勢が大切です。さらに、基礎的学力を充実させるため、ゼミ生には漢字検定の資格、英検、TOEFL、TOEICに挑戦するように勧めています。
成績評価の方法	平常授業や合宿への参加や、研究発表への取組を評価して成績を決めます。
教科書／テキスト	参加者の意向を聞き取った上で決定します。
参考書	授業で紹介します。
その他	「卒業研究」は3年次に併設されています。

履修コード	101701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	代田 純
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	金融や証券市場に関する基礎を習得すること。
授業スケジュール	2年生の前半は、金融に関する基本を理解することを目指す。後半には、証券市場の現状理解へと進む。また毎年、2年生の後半には、日経ストックリーグへ参加している。
準備学習	テキストで予習すること。
履修上の留意点	欠席しないこと。
成績評価の方法	発表など平常点で評価する。レポートやテストはない。
教科書／テキスト	代田 純、『新版 図説 やさしい金融財政』、丸善、定価1800円＋税、ISBN978-4-621-08214-0 二上・代田編、『証券市場論』、有斐閣 ISBN978-4-641-18393-3
参考書	代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』、同文館
その他	日本経済新聞、朝日新聞、その他を使用する。

履修コード	101501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックについて、「どう いう問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
授業スケジュール	2年生のうち、公共経済学の理論の基礎となるミクロ経済学・ゲーム理論のテキストを輪読 します。毎回、輪読の報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。 必要に応じてコンピュータを使った文書作成やインターネットでの情報検索についても指導し ます。
準備学習	報告者は最低でも2週間かけて準備してください。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力 して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引っ込み思案にならず、常に 積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書／テキスト	梶井厚志・松井彰彦（2000年）『ミクロ経済学戦略的アプローチ』日本評論社
参考書	

履修コード	102801
科目名	演習I
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応した社会、経済、経営などにかんする学習と研究の基礎的能力をやしなうこと。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>アメリカの大学（なかでも名門シカゴ大学）の演習の方式を採用して、「基礎はしっかり、研究は自由に」のスローガンのもと、活気あるゼミ活動をしています。何を研究・学習の対象とするかは、受講生の希望によりかなり幅広くみとめているのが当ゼミの特徴。</p> <p>最初の2ヶ月は、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのしかた、レジュメ、小論、論文の書きかた、本のさがしかた、読みかた、資料のあつかいかたの習得が主になります。その後は、グローバル時代の世界経済の特質と諸問題、および日本経済の特質とその歴史的背景など、自主的研究としてどんなテーマをとりあげるはあいでも最小限知っておくべきことについて、共同で学習し、討論します。しばしば英語の文献も使用します。</p> <p>その他、上級生によるパソコン教室、英語圏から当ゼミにきた留学生による英会話教室、上級生と少人数グループで一緒に学習・研究をするサブゼミの活動、他大学の学生と交流できる日本学生経済ゼミナールへの参加、アメリカの学生とのインターネットによる交流とテレビ会議システムをつかった遠隔討論会、工場見学・企業訪問など多彩なイベントが用意されています。</p>
----------	---

準備学習	随時、説明します。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、当人のやる気です。
教科書/テキスト	随時、有益な文献を紹介します。
参考書	随時、有益な文献を紹介します。
その他	<p>当ゼミは、2008年には『代ゼミジャーナル』で、2003年には『世界週報』で、それぞれ全国に、1994年にはCNNテレビで世界120カ国で紹介されました。</p> <p>当ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりするほか、下記のホームページ（ゼミ生制作）にアクセスしてください。</p> <p>http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/</p>

履修コード	103601
科目名	演習I
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年生のゼミでは、マーケティングの基礎理論を理解しながら学習姿勢と発表力を身に付けることを目標にする。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1～2回 学習方法、調査方法、発表方法などを指導。</p> <p>3～7回 製品政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>8～12回 価格政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>13～15回 製品、価格政策に関するディベートをする。</p> <p>夏合宿 マーケティングに関する時事問題を取り上げ、ディベートをする。</p> <p>16～20回 チャネル政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>21～25回 販売促進政策に関する問題を課題としてプレゼンテーションをする。</p> <p>26～29回 ディベート大会に向けての学習指導。</p> <p>ゼミ合同ディベート大会</p> <p>30回 ディベート大会反省会</p>
----------	---

準備学習	研究課題が出されたときは、決められたグループで十分下調べをし、全員が発表できる準備をしておくこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に班分けをし、平常の授業は班単位で学習・研究発表をしてもらいます。予備学習などで班の構成員に迷惑をかけないよう積極的に取り組んでください。 ・出席を重視するが、特に夏合宿、12月のディベート大会は必ず出席をもらいたい。
成績評価の方法	平常点（・日常の学習態度60%、・合宿の出席と学習態度20%、・ディベート大会の出席と学習態度20%）で評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	必要に応じて紹介する。
関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga

履修コード	101421
科目名	演習I
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	最初のうちは講義形式の説明と輪読形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心に勧める。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。
----------	--

準備学習	(1) 産業界のニュースに関心を持っておくこと、(2) 教科書の該当部分を授業前に読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム(といってもプログラムではない)を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。
---------	--

成績評価の方法	出欠状況、演習活動への貢献や発表などの平常点、授業内試験で評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	天谷研一『図解で学ぶゲーム理論入門』、日本能率協会マネジメントセンター、1575円、ISBN978-4820747185
----------	--

参考書	友野典男、『行動経済学—経済は「感情」で動いている』、光文社(光文社新書)、998円、ISBN:978-4334033545 その他については、授業中に関連する文献を紹介する。
-----	---

履修コード	104801
科目名	演習I
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この授業では、アジア経済(東アジア経済)に関する基礎的文献をゼミ生諸君(演習I履修者)による輪読方式で講読する。「東アジアの奇跡」(世界銀行)と称された経済発展のダイナミズム(経済発展の要因や特徴)を解明するとともに、経済発展が生み出した諸矛盾を視野に入れた東アジア経済(東アジア資本主義)の発展像について学習する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業の主たる目的は、ゼミ生諸君に第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程について基礎的な知識を身につけてもらうことである。その際、「東アジア」(東北アジアと東南アジアを合わせた地域)という地理的範疇の重要性に注目し、そこに所属する各国経済の発展過程と相互連関性について理解を深める。最終的な到達目標は、ゼミ生諸君に東アジア諸国が日本の経済的パートナーとして不可欠な存在となっている事実を認識してもらい、今後両者の関係がどうあるべきかを考えるきっかけをつくることである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	東アジア経済に関する基礎知識を身につけるため、下記の文献(教科書)を輪読する。具体的には、あらかじめ報告分担(2名)を決め、報告者には各自が作成したレジュメ(文献内容をまとめたもの)に基づいて報告してもらう。そして、残りの時間は全員で質疑応答を行う。また、適宜、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料について学習する機会を設ける。夏季休暇中には、ゼミ合宿(演習IIとの合同合宿)を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども行う。後期には、演習の特別企画として課外活動(日本の中のアジア探訪)を実施する予定である。
----------	---

準備学習	報告者はもちろんのこと、報告者以外の諸君もあらかじめ該当箇所を精読し、質問や意見を準備しておくこと。また、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
------	---

履修上の留意点	演習(ゼミ)という少数科目は、何よりもゼミ生諸君一人ひとりが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。
---------	---

教科書/テキスト	大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』(有斐閣アルマ)2,000円+税、ISBN4-641-12044-7
----------	---

参考書	参考書については、授業の中でそのつど紹介する。
-----	-------------------------

その他	4年次に「卒業研究」を併設する。
-----	------------------

履修コード	103101
科目名	演習I
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) いわゆる「南北問題」は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。 (到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を「鏡」にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみるのが大切です。
---------------------	--

授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
履修上の留意点	何よりも「考える」努力を求めます。
成績評価の方法	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	104701
科目名	演習I
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済史の基礎を学びます。現在、日本や世界にはさまざまな「経済問題」がありますが、これらはすべて過去の遺産を背負っており、歴史をもっています。経済史は「経済問題」の歴史を研究する学問ですが、それは必ずしも過去だけに興味を向けるということではありません。過去の経済を学ぶことで現在の経済の理解を深め、その問題点を明らかにすることは、今後の社会や経済のあり方を考えることにつながります。経済学の基礎知識を習得しながら、経済史という学問の課題と方法を理解します。
---------------------	---

授業スケジュール	2年次から3年間の継続履修を原則とします。 2年次はテキストを輪読しながら、経済学や経済史の初歩的な概念や理論を説明し、近代社会の経済システムがどのように誕生し発展してきたのか、経済史の基礎を学びます。 3年次は、特定のテーマを決めて全員で本を講読し報告と討論を行います。 4年次は、自分でテーマを決めて卒業研究をまとめます。 また、ゼミでは大学や社会で必ず必要とされる資料や文献の探し方、本や資料の読み方、レジュメやレポートの書き方、発表や討論の仕方などを習得します。
準備学習	レポーターはレジュメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点（ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論）と年度末レポートを総合して評価します。
教科書／テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	演習を通じて紹介します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	102501
科目名	演習I
担当者名	中 濟 光 昭
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人に理解してもらえるレポートやプレゼンテーションが出来ること、自分でテーマをみつけ、それに関する文献やデータを探せることが目標です。
授業スケジュール	(1)～(14) 課題を使った発表練習 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16)～(29) 課題に関する調査・分析と進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回各自がレジメ作成、レポート、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。 インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。
準備学習	履修許可後に指示するプレゼミ課題を全て提出すること。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法	課題提出 (50%)、夏季合宿 (10%; 後期履修継続の前提)、学年末に行う発表 (10%) とレポート提出 (10%)、ゼミ運営上の雑務 (10%)、イベントへの参加や資格取得 (10%) を総合評価します。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	・積極性のある学生の参加を希望します。 ・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。 ・演習IIIでは、卒業研究 (論文及び作品) を併設します。 ・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	101431
科目名	演習I
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習Iでは、講義「地域経済論a・b」の予習・復習をかねて、地域経済・地域産業に関する基礎的な理論と分析手法を学ぶ。また、レポート・論文作成にとって必要なスキルを高めてもらう。</p> <p>地域という窓から、現実の経済・産業を早ていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>地域経済論の基礎的な文献や統計データ等を使って、輪読や担当を決めての要旨報告を中心に討論を行なう。具体的には、地域の人口・世帯、就業・労働、事業所・企業、産業（農業・工業・商業・サービス業）、各種インフラ、財政等、に関する地域経済の統計データについて、その分析方法を学ぶ。</p> <p>仮想（実在しないが地方都市の典型例）のA地域の活性化プランをグループ単位で取りまとめもらう。既に用意してあるA地域の統計データや、A地域の主要企業やキーマンのヒアリング情報等を分析し、A地域の課題抽出とその解決に向けた活性化策を提示してもらう。</p> <p>ゼミ生各人（またはグループ）が愛着のある実在の地域を選定し、そこをケーススタディにして地域活性化プランを取りまとめてもらい、発表まで行う。</p>
----------	--

準備学習	課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	<p>「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論・起業論」の講義を履修することががのぞましい。ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるようにしてもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	日経新聞および日経グローバルを活用する。
----------	----------------------

参考書	長山宗広『日本のスピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
-----	--

その他	<p>とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。</p> <p>演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。メーリング・リストを活用する。</p>
-----	---

履修コード	101481
科目名	演習I
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	このゼミでは3年間を通して、流通論・流通政策論とその周辺領域について研究していきます。 問題があるから政策は必要とされます。流通政策の場合それを必要とする問題の多くは企業のマーケティング戦略とりわけチャネル戦略、プロモーション戦略によって引き起こされます。このゼミでは、そのような企業の戦略とそれが引き起こす問題（流通矛盾）、それに対する政策について研究していくことを目的としています。 演習I（2年次）では、流通問題を引き起こす企業のマーケティング戦略の可能性と問題性についてまず検討していきます。そのうえで、それによって引き起こされる様々な問題にはどのようなものがあるのかを検討していきます。2年次の学習は、3年次および4年次での学習の基礎となる問題発見型学習です。
---------------------	---

授業スケジュール	(1～5) ビジネス教育としてのグループエンカウンター (6～10) ディベート (11～15) グループ研究、工場や文化施設の見学、巡検など (16～30) グループ研究（ビジネスモデルの検討、プレゼンテーションなど） ディベートのテーマは「日経MJ」や「週刊ダイヤモンド」「商業界」などのなかから自分たちで選定します。準備教育として各種見学や巡検を行います。巡検等の場所は「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設のほか、卸売市場や定期市などを予定しています。
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。
---------	--

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価します。レポートや試験は行いません。
---------	---

教科書／テキスト	教科書は使用しません。
----------	-------------

参考書	共通で使えるように、基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料などは研究室に揃えておきます。
-----	--

その他	ゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年間のプログラムの内容やゼミの運営・活動の内容を十分に理解したうえで履修してください。番場が担当する演習II、演習IIIの詳細な内容を知りたい方は、問い合わせてください。
-----	--

また、ディベートのテーマやグループ研究のテーマは「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」「商業界」などを参考にして、できるだけ最新のテーマを探してもらいますので、自分自身でもできるだけ社会の様々な出来事に関心を持つように努めて下さい。

履修コード	103701
科目名	演習I
担当者名	百田 義治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の日本企業の経営管理に関わる主要なテーマを中心に、グローバル化・情報化 (IT革命) の進展など経営環境が激変するなかで大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、将来を展望します。同時に、「社会から信頼される企業」に求められるものは何か、という視点から企業倫理や企業の社会的責任 (CSR) について学びます。
授業スケジュール	(1) 第1～2回 イントロダクション:ゼミとは何か、ゼミで何を、どのように学ぶのか? (2) 第3～7回 経済危機のなかで、日本企業の経営行動はどのように変化しているのか? (3) 第8～13回 企業不祥事がなぜ多発するのか? その防止 (コーポレート・ガバナンス) には何が必要なのか?株価至上主義経営の破綻は何を意味するのか?企業の社会的責任 (CSR) とは何か? (4) 第14～15回 前期まとめ:学生によるプレゼンテーション (5) 第16～20回 いま、なぜ、能力主義・成果主義なのか? 終身雇用・年功制はなぜ修正されなければならないのか?日本の経営の何を残し、何を改革すべきか? (6) 第21～25回 企業は環境問題にどのように取り組んでいるのか? (7) 第26～30回 個別企業に関するCSR調査と成果のプレゼンテーション
準備学習	授業はグループ別の発表と質疑、コメントで進められます。 発表担当のグループはテキストや参考文献をまとめて、プロジェクター用の発表資料と補足説明のレジュメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。 ゼミでの議論の活性化には、グループごとにサブゼミを組織して、ゼミでの議論に向けた準備をすることも大切な準備学習です。 また、日常的に新聞や雑誌、ネット検索などによって、現代の企業の動向について調べ、高い関心と問題意識をもって授業に参加することが必要です。 ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	出席、ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書/テキスト	百田義治編著『経営学を学ぼう』中央経済社、2012年。
参考書	新書を中心に随時紹介します。
その他	「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	104201
科目名	演習I
担当者名	松井 柳平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	統計学の知識が経済、経営の分野でも必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
授業スケジュール	ガイダンス データの要約と視覚化 基本統計量 確率分布 相関分析 推定 仮説・検定 集計表と適合度検定 回帰分析 等分散の検定 時系列分析。 数学モデル、確率モデルを視覚的に理解できることに重点を置く。
準備学習	発表者(発表グループ)は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジュメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者(発表グループ)以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書/テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	鳥居『はじめての統計学』(日本経済新聞社) ISBN4-532-13074-3 織田『Excelによる統計入門』(朝倉書店) ISBN4-254-12142-3 得津『はじめての統計』(有斐閣) ISBN4-641-08667-2
その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。

履修コード	101441
科目名	演習I
担当者名	松田 健
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の企業は単に経済的な機関として位置づけられるのみならず、私たちの生活に大きな影響力を及ぼす社会的存在に成長しました。企業とは一体どのような存在なのでしょう？私たちはどの程度企業について知っているのでしょうか？ 本演習はこうした基底的問題意識を踏まえつつ、現代における企業の基本的活動について体系的に理解することを目的としています。
授業スケジュール	利潤の追求を基本的原理としながら、製品・サービスの生産・流通・販売という経済活動を担う企業の行動を主たる対象として、私たちの生活に密接不可分な存在になってきている企業を、再度「企業とは何か」という視点から見つめ直します。一年を通じて、企業の意義、役割およびその特質について企業理論研究を中心として進めます。 第1回 前期オリエンテーション 第2回～第10回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第11回 小括：資料輪読による知見のまとめ（1） 第12回～第14回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第15回 小括：夏合宿で扱う資料輪読と討論による知見のまとめ（2） 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料輪読とレジュメに基づいた各自からの研究報告 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 次年度サブゼミ資料作成会 第30回 まとめ
準備学習	予習復習の他、サブゼミ等への参加を通じて自ら進んで研究に向かう姿勢を涵養して下さい。
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書／テキスト	教科書は適宜指示します。その他に日経ビジネスや日本経済新聞を教材としても利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集 ⇒これではなければならないという指定はありませんが、用語がわからないと聴講しても理解不足に陥りますので、自分で使い易いものを選んで使用して下さい。 その他の指定図書については、適時指示します。
その他	卒業研究有り

履修コード	101451
科目名	演習I
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。</p> <p>(到達目標) 到達目標は、実際に非営利組織や社会的企業に訪問ヒアリング調査を実施したり、ゼミ内でプレゼンテーションを行ったり、懇親会等を通じてゼミ生同士の交流を深めることで、卒業研究や就職にむけた様々な能力を培うことである。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義では、非営利組織や社会的企業に関する文献を読み、基礎知識を身につける。また、第一線で活躍している人に話を聞いたり現場を見学することで、文献では学べないことを積極的に学ぶ。同時に、非営利組織の学習を通して、パワーポイントによるプレゼンテーション能力、訪問ヒアリング調査やゼミ生同士の交流によるコミュニケーション能力を獲得することを目指す。</p> <p>1年間の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定するが、おおよその流れは以下の通りである。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～4回 非営利組織に関する文献講読 第5～10回 訪問ヒアリング調査準備・実施 (非営利組織に関する文献講読も同時に進める) 第11～14回 中間報告会に向けた準備、プレゼンテーション資料の作成 第15回 中間報告会 第16～25回 訪問ヒアリング調査準備・実施 (非営利組織に関する文献講読も同時に進める) 第26～29回 最終報告会に向けた準備、プレゼンテーション資料の作成 第30回 最終報告会</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、非営利組織の理解を深めておくこと。 ・日ごろから新聞に目を通し、非営利組織に関連する記事を読んでおくこと。 ・訪問ヒアリング調査の準備を入念に行うこと。 ・中間報告会、最終報告会に向けた準備を積極的に行うこと。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。無断欠席・無断遅刻厳禁。 ・物事を積極的に調べる。 ・合宿等を積極的に企画し、参加すること。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点および活動内容にもとづいて総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・雨森孝悦『テキストブックNPO』東洋経済新報社、2007年。
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介する。 ・非営利組織の用語に関する基本文献として以下を薦める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 川口清史・田尾雅夫・新川達郎編『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房、2005年。 (2) 田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣、2009年。 (3) 山岡義典編著『NPO基礎講座・新版』ぎょうせい、2005年。
-----	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次(演習III)に卒業研究を併設する。 ・非営利組織論a・bを履修することがのぞましい。
-----	--

履修コード	101301
科目名	演習I
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行やTPPへの対応などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。あわせて、様々な情報が氾濫する社会で、何が事実か、どのように考えるべきか、分からないことがあるときどのように対処するか、これらの判断力の獲得を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは2年次生だけで学習しますが、このほか上級生と合同の合宿で学習と交流を進めます。
----------	---

準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
------	--

履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合って一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。
---------	--

ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。

成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	1冊目：別途指示します。 2冊目以降は、ゼミ生と相談の上、決定しますが、2年次は食料問題を中心にします。
----------	---

参考書	食料、農業、農村、環境、そして経済が今直面している具体的な課題に取り組んでいる本や新聞・雑誌記事を読むことを勧めます。必要に応じて紹介します。
-----	---

その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。
-----	---------------------

履修コード	103001
科目名	演習I
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の福祉・社会保障、またそれを支える日本経済や労働問題について入門的な学習を行う。
---------------------	--

授業スケジュール	テキストにしたがって各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、夏と春は2泊3日の合宿を行う予定。但し、合宿への参加は強制しない。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	自分からテキストに関連する、また興味あるテーマを決めて勉強して欲しいが、毎回の論読の個所は事前に精読しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	出席状況やレポートの内容などで総合的に判断する。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。テキストは岩波新書程度のものを使用する。
----------	--

参考書	テキストに従って、または必要に応じて紹介する。
-----	-------------------------

履修コード	101461
科目名	演習I
担当者名	村松 幹二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために2年次には、ビジネス・エコノミクス基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。 経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。
授業スケジュール	前期には、ビジネス・エコノミクスのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに合宿討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期には企業組織論や「法と経済学」のテキストの輪読とワーキング・グループによる研究発表を行う。 3年次前期には、企業組織論や「法と経済学」のテキストを輪読し、各自の研究テーマを決定する。3年次後期には、各自の研究発表をもとに討論を行う。4年次は卒論指導を行う。
準備学習	参加者は、新聞等のニュース、なかでも日常生活における経済活動や経済政策に関する議論に関心を持つよう心がけてください。
履修上の留意点	ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。
成績評価の方法	ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的評価を行う。
教科書／テキスト	開講時にゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	
その他	演習I履修時には、「卒業研究」（卒業論文）を併設する。

履修コード	101401
科目名	演習I
担当者名	森田 佳宏
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 会計とは、企業の経営活動の状況を数字によって表現しようとするもので、その具体的な技術が簿記であり、その背後にある理論が会計学といわれるものである。会計学の領域は大きく財務会計と管理会計とに分けられる。財務会計とは、投資者、債権者、税務当局、消費者など、企業外部の利害関係者に対し、会計情報という形で企業の実態を明らかにする外部報告会計である。さらに、このような外部報告会計に信頼性を付与するため、資本金5億円以上または負債総額200億円以上の会社、および有価証券の募集・売出しをしようとする会社または有価証券を上場している会社などに対して、公認会計士または監査法人による会計監査が義務づけられている。本演習では、財務会計および監査の基礎を学ぶ。 (到達目標) 本演習の到達目標は、財務会計および監査の制度的なしくみおよび基本的考え方についての知識を習得することである。
授業スケジュール	テキストをベースとして、財務会計および監査の領域に属する基礎的な諸問題を取り上げ、解説および学生諸君による報告・討論を行う。必要に応じて簿記の学習を取り入れることもある。演習Iの終了時にはレポートの提出を課すので必ず提出すること。
準備学習	少なくとも日商簿記検定試験3級程度（「簿記論」の授業内容程度）の基礎知識があることが望ましい。
履修上の留意点	演習であるから、すでにどれだけの知識を持っているかということよりも、みんなと一緒に会計を勉強したいという気持ちを重視したい。したがって、特別な事情がない限り、毎回必ず出席すること。
成績評価の方法	出席を重視するが、そのほかに報告内容（レジュメを含む）、レポートなどを考慮に入れて総合的に評価する。
教科書／テキスト	新井清光著、川村義則補訂『現代会計学（第12版）』中央経済社、2,730円、ISBN：978-4-502-43430-3（なお、改訂版が出る可能性があるため、初回の演習時まで購入しないこと。）
参考書	演習の中で適宜紹介する。
その他	演習Iに「卒業研究」を併設する。

履修コード	102301
科目名	演習I
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ〔日本の工業化と経済産業発展史〕 日本の経済、産業、企業の驚異的な成長はいかにして可能だったかを考察します。2年生の演習は、途上国日本の経済や産業の形成・発展過程と戦前における経済システムの形成を中心に学びます。3年生の演習では、戦後の疲弊した経済や産業から「経済大国」への道を学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回～第4回 演習オリエンテーション（プレゼンテーションの仕方、参考文献・資料の検索方法、レジュメの作成法など）。</p> <p>第5回～第10回 近代産業の形成期に外貨を獲得するのに最も貢献した製糸業（繭を原料に絹糸をつくる工業）の理解の手がかりとして和田英『富岡日記』、島岡幸一『野麦峠に立つ経済学』、山本茂実『あゝ野麦峠―ある製糸工女哀史』などの「経済小説」。</p> <p>第11回～第15回 綿織物の工程を手織りから機械織機に変え、織物業を飛躍的に発展させた「豊田佐吉」の国産「力織機」の発明、豊田織機製作所から分離し、国産初の乗用車「トヨベツクラウン」を製作した「豊田喜一郎」の理解の手がかりとして邦光史郎『トヨタ王国』などの「経済小説」。</p> <p>第16回～第20回 両替商から証券業・銀行業の基礎を築いた「野村徳七」の理解の手がかりとして邦光史郎『野村証券王国』などの「経済小説」を、読み進めます。また、第20回まで参考資料として「あゝ野麦峠」「若き日の豊田佐吉」「生きている昭和史」などの映画、「乗用車ゼロからの出発」「ビジュアル近代産業の形成」「日本の企業家群像豊田喜一郎」などのDVDやVTRを副教材として使用します。第20回まではこれらの教材を使用してプレゼンテーションの練習を行います。</p> <p>第21回～第30回 これまでに学んだ日本の製糸業、紡績業、織物業や日本の自動車産業について論じた「学術論文」（学会雑誌）や基礎的文献を教材に途上国日本の経済発展の準備期、形成期、確立期を中心に、経済や産業の発展過程や経済システムの形成についてプレゼンテーションを行い追求します。</p>
----------	--

準備学習	日頃からテレビや新聞・雑誌などを通じて、過去の日本の経済や今日の日本経済の現状について注意すること。
------	--

履修上の留意点	4年ゼミまで継続して研究できる人を望んでいます。
---------	--------------------------

成績評価の方法	授業中の態度、プレゼンテーションへの取り組み、提出レポートを基本に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	教材は演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料はプリントして配布します。
----------	---

参考書	島岡光一『野麦峠に立つ経済学』春風社。玉川寛治『製糸工女と富国強兵の時代・生糸がさえた日本資本主義』新日本出版。その他演習の時間に適宜紹介します。
-----	---

その他	<p>2年ゼミ(演習I)は、できれば「教育経済論」の講義（4単位）も履修して下さい。</p> <p>3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」（2単位）を併設しており、演習IIと併せて履修することができます。「インターンシップb」は「インターンシップa」（2単位）の履修が必要です。「a」と「b」で合計4単位を修得できます。</p> <p>4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」（4単位）を併設しています。演習IIIと「卒業研究」の合計8単位を修得できます。</p>
-----	---

履修コード	103201
科目名	演習Ⅰ
担当者名	矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計学・経済学・マーケティング等の本を使ってのレジュメ作成・発表演習 ・Word、Excel、Powerpointの基本操作に関する講義等 ・統計学・経済学・マーケティング等の基本書を使ってそれまでのゼミの内容を生かした発表 ・ディベート大会 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットを利用した情報収集の講習と統計の基礎知識 ・統計学・経済学・マーケティング等の本を輪読 ・ゼミ成果報告会等 <p>(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)</p>
----------	--

準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
----------	---------------

参考書	教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。
-----	---

その他	演習Ⅲ履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。
-----	--------------------------

履修コード	102901
科目名	演習Ⅰ
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論研究の入門
---------------------	------------

授業スケジュール	<p>専門的学習、研究に向けての入門的トレーニングを行う。国際的な視野から物事を見、卒業年次に各自のテーマで論文作成することを目標とする。2年次においては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科学の文献に慣れる。 2 論理的思考を育てる。 3 プレゼンテーションを経験する。 4 問題意識を明確に持つ。 5 世界経済の全体像をイメージできるようにする。 6 国際的な比較の観点を常に持つ。 <p>を主な柱として授業を組み立てる。前期は教科書、参考書を読み、後期は各自の発表に移行する。</p>
----------	--

準備学習	経済学概説の単位を取得しておくこと。
------	--------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席、発表、討論への参加を総合評価する。
---------	----------------------

教科書／テキスト	西川潤「世界経済入門」、石弘之「地球環境報告」 一 岩波新書
----------	--------------------------------

参考書	
-----	--

その他	「卒業研究」あり。
-----	-----------

履修コード	103401
科目名	演習I
担当者名	吉田 敬一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は日本経済入門を基本課題とし、経済学を学ぶことは苦しいことではなく(経済が苦)、それは面白く楽しいこと(経済楽)だと認識してもらうことをねらいとしています。とくに2年次では、21世紀の日本経済を考える前提として、高度経済成長を経てジャパン・アズ・ナンバーワンと称された80年代までの経済発展と日本的経営の特徴を、考えていきます。3年生からは日本経済のグローバル化の今日的課題の研究に入ります。また、以上の内容の共同研究を通して、演習生各自が自分自身の世界観・社会観(もの見方・考え方)を確立することを目標として、演習を運営していきます。
授業スケジュール	講義とは異なり、演習は学生諸君の自主性・主体性が不可欠です。そこで演習生をグループ化し、班単位でレジュメを作成し、テキストの報告・議論を進めていきます。他人に自分の考えや意見を表明するのは簡単ではありません。社会に出てから必要になるレジュメの作り方、報告の仕方、議論のルールなどを身に付けてもらいます。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	①無断欠席・遅刻は厳禁です。 ②演習での議論に受身にならずアクティブに関与すること(ゼミは講義の延長ではなく、ゼミ生が中心となり運営するものです)。サークル活動優先の学生は、ゼミ運営に支障が生じますので、ご遠慮ください。
成績評価の方法	報告に際しての準備するレジュメ、報告内容、表現能力、また聞き手にまわった場合の討論への参加度など、および適宜のレポート課題を中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書を手がかりに共同研究を行なう予定ですが、最初のゼミの時間に確定します。
参考書	演習を進める中で適宜に紹介します。

履修コード	105001
科目名	演習I
担当者名	吉田 真広
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本経済との関連から金融、国際金融、国際経済の基礎と現実、とりわけ今日の国際金融不安について理解していくことを演習テーマとします。そのためには、国際金融現象の基礎にある基本的原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の実体について理解を深めていきます。
授業スケジュール	国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。 前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期はゼミ論文の報告を前提に各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。 また、授業の一環として、社会見学、学年を超えた討論会なども計画しています。
準備学習	演習では基本的なことから勉強していきますので、特段、事前の国際経済や金融に関する専門的知識は必要ありません。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。
教科書/テキスト	現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。
参考書	必要に応じて、その都度示していきます。
その他	ゼミ合宿を予定しています。また、東京証券取引所や日本銀行の見学・セミナーを予定しています。学年を超えた討論会も計画しています。

履修コード	108401
科目名	演習II
担当者名	浅田 進史
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本演習では、ヨーロッパおよびアジア近現代経済史、ヨーロッパ・アジア経済関係史を研究します。経済のグローバル化が歴史的にどのように展開し、それがヨーロッパおよびアジアの経済・社会にどのような影響を与えてきたのでしょうか。経済史のアプローチを身につけることで、長期的な視点から、現在の経済・社会を理解することを目指します。ただし、ゼミの中心はあくまでゼミ生にあります。自らの問題関心・発想を大切にしながら、ゼミでの発表・討論に積極的に関わるようにしてください。</p> <p>演習IIでは、専門書レベルの関連文献を取り上げながら、演習Iで身に付けた力を生かして、自分の問題関心に沿った研究を進められるように指導します。</p>
授業スケジュール	<p>前期では、ゼミ受講生共通の文献を読むと同時に、個別の関心に沿った研究テーマに応じた準備作業を進めることが求められます。前期末に、その準備作業の成果の一端を発表してもらいます。</p> <p>後期でも、共通の文献を選定し討論すると同時に、前期の準備作業をさらに発展させ、その成果をレポートとしてまとめて提出してもらいます。</p> <p>前期・後期とも、スケジュールの詳細についてはガイダンス時に提示します。</p>
準備学習	<p>毎回のゼミで対象となる文献をあらかじめ読んでおくことや、自分の研究テーマを計画的に進めておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>経済史、西洋経済史、日本経済史、アジア経済論などに関する講義を合わせて履修することが望ましい。</p>
成績評価の方法	<p>平常点（ゼミ発表、討論への参加）と年度末レポートを総合的に評価します。</p>
教科書／テキスト	<p>前期・後期の初回時に指定します。</p>
参考書	<p>演習時に指示します。</p>

履修コード	108101
科目名	演習II
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIに引き続き、「グローバル経済と生活」を大まかなテーマに据え、「生活」を取り巻くさまざまな問題について学ぶと同時に、卒業研究への取り組みを開始します。
---------------------	--

授業スケジュール	①通常のゼミ活動 前半はテキストを決め、卒業研究に必要なさまざまなスキルを身につける作業を行います。レジュメの作り方から報告・討論の手法を身につけます。
----------	---

②合宿について
春と夏に合宿を行います。今年度は4月以降に、春合宿の代わりに長時間にわたる集中的なゼミ勉強を通して、レジュメ作成能力、討論能力を徹底して習得します。夏合宿の詳細については、みなさんと相談して決めたいと思います。

③インナー大会、ゼミ討論会等への参加
学内・学外のゼミ討論会には積極的に参加します。特に11月に行われる学内・学外ゼミとの討論会に合わせて論文作成、討論スキルの向上などに力をいれていくことになります。特に、ゼミの上級生として、2年生をリードする役割を果たすことが期待されます。そのほかに、学外で行われるセミナーへの参加などを通して、問題意識を醸成させる機会を得たいと思います。

④原書講読も含めて、より高度な文献を読みこなし、資料を解析し、卒業研究に取り組むこととなります。論文作成のために不可欠な問題意識をもつことを目標とします。

⑤「経済学部奨学論文」に応募することが義務付けられます。興味を持てる課題を探ること、理論をきちんと勉強すること、論文に「のめりこめる楽しさ」を発見すること、これが本ゼミの目指すところです。

準備学習	経済理論の基礎を身につけられるよう、原論の科目を履修しておくこと。 このゼミに興味があれば、以下のサイトでゼミの内容を確認してください。
------	---

<https://twitter.com/#!/AnehaSeminar>
<http://anehazemi.blogspot.com/>

また、姉齒に質問があれば、2012年3月末までは、以下のアドレスにメールを送ってください。

aneha@berkeley.edu
日本語でメールを送れます。

履修上の留意点	遅刻・欠席は厳禁です。 ゼミは意見交換の場であり、一人ひとりの自主的なかわりと同時に、お互いに助け合い、問題への理解に達するための努力が不可欠となります。
---------	--

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必要です。アルバイトやサークル活動などでゼミ活動を欠席することはできません。履修予定表に載っている時間配分では終わらないのがゼミ活動です。忙しいことを承知の上で、やる気のある方の参加を希望します。

また、ゼミ活動に関する作業をはじめとする集団的な行動への参加も必須です。時には、土日でもゼミ活動に割かれます。アルバイトよりゼミが優先となります。

ただ、その場に座っているだけでは、ゼミへの参加とはみなしえません。必ず毎回発言することが求められます。

ゼミでは、受動喫煙から徹底して非喫煙者の健康を守ることをモットーといたします。したがって、ゼミ開始10分前以降からゼミ中、ゼミの休憩中の喫煙、ゼミ合宿中の喫煙を禁止いたします。

成績評価の方法	報告・討論への参加を含め、平常点で評価します。
---------	-------------------------

教科書／テキスト	時間のはじめに指示します。
----------	---------------

参考書	時間のはじめに指示します。
-----	---------------

履修コード	107801
科目名	演習II
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	演習IIからはエクセル上でVBAプログラミングを行う。同時にExtendによりC言語の基礎を習得する。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点100。
教科書/テキスト	指定なし。ただし必要な場合指示する。
参考書	

履修コード	106401
科目名	演習II
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。一これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会の最大の課題のありかです。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、川人博『過労死社会と日本』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、奥村宏『法人資本主義』
準備学習	まいにち、日経新聞を読みつづけること。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%。
教科書/テキスト	川人博『過労死社会と日本』（岩波新書）、野村正実『雇用不安』（岩波新書）
参考書	有井行夫『マルクスはいかに考えたか』（桜井書店）2700円
その他	コンパ、合宿への参加は必須です。

履修コード	108301
科目名	演習II
担当者名	飯田 泰之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標としたい。
授業スケジュール	演習Iでの学習内容をふまえ、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	経済学やパソコンの利用など基本知識のレベルには受講生ごとにばらつきがあると思うが、皆の希望を聞いた上で補充したいと思う。

履修コード	109211
科目名	演習II
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業会計の制度と理論を学習します。「制度」の基礎にある土台としての「理論」、この両者の関係において学習することが基礎にある視点です。</p> <p>また、社会経済における「生きた会計」を学習するために、「時事会計」を重視します。会計の基礎にある社会経済問題への関心が大切で、それとの関連で会計を学習します。会計をとおして世の中の問題に発言できる洞察力が得られればと思っています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>財務会計の基本テキストを学習し、その後、中級・上級のテキストへとレベルアップします。中級・上級では米国会計基準・国際会計基準も取り上げます。さらに、それらをより高い次元から見通す力を養うため、新聞・雑誌・小論文を素材にした学習も行います。</p>
----------	--

準備学習	別途指示します。
------	----------

履修上の留意点	<p>会計学だけでなく、会計を通して世の中の社会経済問題を学習するというより広い視点にたてる学生を歓迎します。</p>
---------	---

成績評価の方法	出席・合宿・レポートなどゼミ活動の総合評価。
---------	------------------------

教科書／テキスト	財務会計の標準的テキスト（その都度指示します）。
----------	--------------------------

参考書	その都度、指示します。
-----	-------------

その他	<p>私のプロフィールについては、駒澤大学のHPのトップページ「教員の紹介」から見るができますので参考にしてください。</p>
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm
-------	---

履修コード	105901
科目名	演習II
担当者名	石川 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>企業においては、会計情報が様々な目的をもって利用されている。その情報を生み出すための仕組みは、どのような構造をもっているのだろうか。その構造を探り、それが社会の多様な関係の中で果たす役割を研究する。そのことによって、社会現象を分析する視点の獲得を目指す。また、様々な書籍・データを用いてレジюмеを作成し、発表するスキルを養うことも目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習IIでは、特に管理会計に関わる種々の技法を取り上げることとする。とりわけ、近年の管理会計研究上の議論の中心となっている技法に焦点を当てて、その意味を考えたい。さらに、その学習をつうじて、ゼミ生が各自のテーマを見つけだし、深く掘り下げていくための基礎固めをしたい。それにより、卒業研究に向けた足がかりを築くことを目指すものである。</p>
----------	---

準備学習	<p>各自の発表テーマに則った文献・資料等を収集し、それらをよく読んだ上で、自分なりの問題点を見つけること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>積極的に参加すること。また、ゼミ生が相互に協力しあい、楽しいゼミ運営を行ってもらいたい。また、4年次には「卒業研究」を開設する予定である。</p>
---------	--

成績評価の方法	特に報告内容を重視するが、その他ゼミ活動への貢献等も含め、総合的に評価する。
---------	--

教科書／テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。
-----	-----------------------------

履修コード	105801
科目名	演習II
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	21世紀を迎えて以降も経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追究していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	現代企業におけるコーポレート・パワーに関する文献の輪読形式により報告者・グループによる報告を中心に討論を行います。夏期・春期合宿では、現代の企業経営が抱える諸問題について、討議していきます。 1. ゼミナールの概要とガイダンス (1) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. 企業と市場 (8~12) 4. 企業と社会 (13~17) 5. 企業の社会的責任 (CSR) の現状 (18~23) 6. 企業の社会的責任 (CSR) の課題 (24~30)
----------	---

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集を行うとともに、関連する文献を読んでください。
------	---

履修上の留意点	ゼミナールは受講生の主体的な学びの姿勢に基づいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習が求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	ゼミ課題の発表内容、討議への積極的な参加などの平常点による総合評価を行います。
---------	---

教科書/テキスト	開講時に指定します。
----------	------------

参考書	開講時に指定します。
-----	------------

その他	演習III履修時には「卒業研究」(4単位)を併設します。
-----	------------------------------

履修コード	106201
科目名	演習II
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在、日本の経済構造は大きく変化しつつあります。この変化は、1970年代の国際通貨制度の崩壊、石油危機などとともに始まり、バブル経済とその崩壊および近年の金融恐慌を経て今日に至っています。演習IIでは、とくに、バブル経済がなぜ起こり崩壊したか、その原因を考えながら今日の日本経済の特質について学習していきます。 また、グローバル化の過程で生じている国際的な経済問題を見る目を養えるような、そんな学習にも取り組みます。
---------------------	---

授業スケジュール	この演習IIでは、日本経済の歴史と現代の構造について学び、現代資本主義の本質に迫ります。テキストには北村洋基著『岐路に立つ日本経済』(改訂版)を用います。主な内容は以下のとおりです。 1 1970年代の危機と日本の対応 2 1980年代前半の日本経済 3 1980年代後半の日本経済 4 「平成大不況」第1局面 5 「平成大不況」第2局面 6 「平成大不況」第3局面 7 日本経済の新段階と第2次「平成大不況」
----------	--

準備学習	授業が始まるまでに、テキストの「第1章 日本を取り巻く内外の環境変化」を読んでおくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	少人数形式の演習では、欠席をしないこと、遅刻をしないことが各人に求められます。参加者には、その点を自覚した上で、積極的にゼミの活動に取り組むことを期待します。
---------	---

成績評価の方法	平常点により評価します。
---------	--------------

教科書/テキスト	北村洋基著『岐路に立つ日本経済〔改訂版〕』(大月書店)2,600円+税
----------	-------------------------------------

参考書	西川潤著『世界経済入門(第3版)』(岩波新書)780円+税
-----	-------------------------------

その他	①4年次の演習IIIに「卒業研究」を併設します。 ②選択科目「ビジネス・インターンシップ」を履修することができます。 ③コース制との関連: コースの履修は自由です。
-----	--

履修コード	108601
科目名	演習II
担当者名	大島 久幸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、近現代日本の経済史・経営史に関する研究を行なう。演習IIで輪読する文献は、もう少し読みごたえのある専門書へとステップアップしたい。文献輪読と並行して、ゼミの共同研究にも着手する。テーマは受講生の話し合いで決め、学生主体で調査、発表、論文化する力を養っていききたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(14)文献輪読およびゼミ研究の基礎的作業、(15)ゼミ研究中間報告、(16)後期ガイダンス、(17)～(29)文献輪読およびゼミ研究の応用的作業、(30)ゼミ研究最終報告 *詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。
----------	--

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	授業時間だけでなく、合宿、コンパ、他大学とのインターゼミなどを含めたゼミ活動全般への積極的な参加が求められる。アルバイトやサークル活動との調整がつけられない人は受講を遠慮されたい。
---------	--

成績評価の方法	演習に取り組む姿勢を総合的に評価した平常点。
---------	------------------------

教科書/テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
----------	--------------------

参考書	授業の中で、その都度紹介する。
-----	-----------------

その他	演習IIでは、「インターンシップb」を併設する。 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。
-----	--

履修コード	106501
科目名	演習II
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代の格差社会と貧困及び、社会保障について学習します。
---------------------	-----------------------------

授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならない。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、三年生は就活の情報収集の為に利用する。
----------	--

準備学習	テキストを読んでおくこと。
------	---------------

履修上の留意点	平常点によりませんが、昨年同様に読書感想文の提出を求めます。あとは諸君の勉強次第です。
---------	---

成績評価の方法	
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	〈卒業研究の有無〉 義務ではありませんが、4年次には併せて開講します。
-----	--

履修コード	109001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	小栗 崇資

授業概要/
到達目標 (ねらい)

日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。

授業スケジュール

演習Ⅱでは、演習Ⅰと同じく、企業会計の従来の考え方と新しい考え方を比較しながら、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマをもってゼミ生自身で研究を進め、論文を書いてもらうつもりです。

準備学習

指示に従い事前の準備をしておくこと。

履修上の留意点

ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定です。必ず出席してください。ゼミの運営や行事にも意欲的に取り組む学生を希望します。なお「卒業研究」も開講する予定です。

成績評価の方法

総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。

教科書／テキスト

演習の中で指示します。

参考書

演習の中で指示します。

履修コード	106701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	北口 りえ

授業概要/
到達目標 (ねらい)

税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。

授業スケジュール

演習Ⅰ・Ⅱでは、企業会計を基礎として課税所得および税額を計算し、申告・納税するという企業会計と税務の一連の手続きについて、なぜそのような処理を行うのかという理論的部分を重視しながら学んでいきます。

演習Ⅱでは、演習Ⅰで得た企業会計についての基礎的知識を前提として、法人税の特質、課税所得の計算構造などについて学び、税務会計への理解を深めていきます。

法人税法における課税所得は、公平な課税を実現させるために、企業利益に「別段の定め」による調整を加えて算出されます。したがって、企業利益と課税所得を比較しながら、益金の額・損金の額についての学習を進めます。

基本的には、テキストの1つのテーマに対してレジュメを作成し報告してもらい、ディスカッションするという方法で進めていきます。レジュメは単にテキストをまとめるだけでなく、疑問を持った点や深く掘り下げてみたい点などを追求したものを作成するよう心がけてください。また、報告者はプレゼンテーションにおいても棒読みではなく、的確に相手に理解してもらえよう工夫をしてもらいたいと思います。

準備学習

特になし

履修上の留意点

ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事（合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など）にも積極的に参加してください。

成績評価の方法

出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。

教科書／テキスト

柳裕治『税務会計論』（創成社）
その他、適宜プリントを配布します。

参考書

井上久彌・平野嘉秋『法人税の計算と理論』
伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』（日本経済新聞出版社）

履修コード	108201
科目名	演習II
担当者名	小杉 修二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iと同じですので、そちらを見てください。
---------------------	------------------------

授業スケジュール	<p>基本的には演習Iに同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学びますが、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか〈①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減〉について考えます。</p> <p>温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。ここから利害の合理的制御の学としての経済学の知見・方法が役に立つこととなります。3年次以降は温暖化対策の技術的側面と並んでその社会的側面を学習することになります。</p> <p>授業のやり方としては学生と相談しながら、「ディベート」形式で問題を表と裏から考えます。ディベートは為にする議論、という印象もありますが、ある問題に徹底的に賛成あるいは反対の立場に立ってみた時、それが簡単に崩れるようなら、それは役に立たない議論ということになります。こうした議論を通じて、確実な根拠ある結論を探しましょう。やってみると意外に楽しいものようです。</p>
----------	---

なお、3年次も新聞資料の活用を行います。

- 第1-5週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第16-20週：巨大技術の可能性
- 第21-25週：身近な方法の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

準備学習	日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。
履修上の留意点	演習Iと同じ。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。
教科書/テキスト	演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。
参考書	演習Iと同じ。
その他	〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	108501
科目名	演習II
担当者名	小西 宏美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。
---------------------	---

授業スケジュール	国際経済、国際金融関係のテーマで報告、討論を行います。後期は他大学のゼミと合同ゼミ連を開催します。
----------	---

準備学習	毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。 報告にあたっている場合はレジュメを用意すること。
------	---

履修上の留意点	演習は、皆さんが主体的に参加してはじめて成立する学習の場です。責任感と自覚をもって臨みましょう。
---------	--

成績評価の方法	出席、報告、討論、係の仕事で評価します。
---------	----------------------

教科書/テキスト	最初の授業時に指定します。
----------	---------------

参考書	
-----	--

履修コード	106801
科目名	演習II
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマは「景気循環と雇用・貧困」。</p> <p>2008年リーマン・ショックは世界経済を深い不況にまきこみ、世界中に非自発的失業者や低賃金労働者を増やしました。日本経済は、米国流の金融投機へのかかわりは浅かったにもかかわらず、その後の円高によって低迷し、それまでの非正規労働者の増加や財政赤字による内需不振、中国経済の成長などの影響もあり、産業空洞化と雇用劣化に向かいつつあります。それはまた米国や日本の格差や貧困の問題を浮かび上がらせました。</p> <p>そこで、このゼミでは、景気循環の理論や歴史、リーマン・ショックの背景、失業者が大量に生み出される理由、派遣労働やワーキング・プアの実情、「景気対策」の限界などについて考えていくことにします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>雇用、失業や、貧困、格差について考えることと平行して、景気循環の理論や歴史について学んでいきます。</p> <p>演習Iをふまえて、さらに専門的な文献(複数冊)を選んで議論しながら、グループに分かれて共同研究やプレゼンテーションに取り組み、自主的な調査や討論の方法について学びます。</p> <p>また、以上の発表や調査をふまえて、次年度の演習IIIで卒業論文を完成させます。</p>
----------	---

準備学習	ゼミで議論する文献については全員があらかじめ熟読し、必要な事項を調査し、論点や疑問点、自分の感想や意見をまとめておくこと。
------	---

履修上の留意点	<p>ゼミの中心は、ゼミ生が作成する発表資料と、ゼミ生どうしの討論や学び合いです。ゼミ生は、発表資料を作成するために、パソコンのワープロソフトを使用する必要があります。</p> <p>ゼミで議論する文献はゼミ生と相談して決めますが、決まったら各自が購入する必要があります。</p>
---------	--

成績評価の方法	作成した発表資料、ふだんの調査や発表、出席状況を総合して評価。無断欠席は厳禁。
---------	---

教科書/テキスト	ゼミ生と相談して決めます。
----------	---------------

参考書	演習Iと同じ。
-----	---------

その他	演習IIIに併設される「卒業研究」は「卒業論文」だけです。
-----	-------------------------------

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/
-------	---

履修コード	106601
科目名	演習II
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代ヨーロッパが直面する諸問題を、より体系的にとらえるため、EU諸国の第二次大戦後の経済発展とEU統合の歴史と現状の二つの課題を柱に、グローバル化という名のアメリカナイゼーションに対抗し、アメリカや日本とは異なる、欧州社会の固有の伝統を基礎に「ヨーロッパ・モデル」を追求しているEUの動向と、我が国の「改革」路線との比較を念頭におきながら検討します。</p> <p>また3年次後半からは就職活動が日程に上ってきますが、教員やゼミの先輩、ゼミ仲間の間で有益な情報交換やアドバイスが得られるように運営します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	専門文献を精読と、各自のテーマ設定準備を行います。
----------	---------------------------

準備学習	ヨーロッパの経済社会政治の動向に関する新聞雑誌記事のスクラップ作成を行ってもらいます。
------	---

履修上の留意点	演習Iを参照のこと。
---------	------------

成績評価の方法	演習Iを参照のこと。
---------	------------

教科書/テキスト	演習Iを参照のこと。
----------	------------

参考書	
-----	--

その他	演習Iを参照のこと。
-----	------------

履修コード	105701
科目名	演習II
担当者名	代田 純
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	代田ゼミでは金融について学習し、研究します。日本の金融が中心ですが、海外の金融の動向や日本との比較についても学習します。証券アナリスト、証券外務員の受験指導も実施します。
授業スケジュール	4～7月においては、日本の証券市場について、テキストを使用し、学習する。夏合宿を経て、9～12月には証券外務員資格の学習指導も行う。3回生12月には卒業論文のテーマ設定をしてもらう。
準備学習	テキストで予習、復習すること。
履修上の留意点	金融の基礎知識がない人も歓迎します。ただし毎回出席することが前提です。
成績評価の方法	ゼミでの発表、質問など日常点で評価します。
教科書/テキスト	代田 純編、『金融危機と証券市場の再生』（同文館）定価2300円＋税 ISBN978-4-495-46411-0 代田 純著、『ユーロと国債デフォルト危機』（税務経理協会）2012年3月予定
参考書	適宜紹介します。
その他	夏にインターンシップを予定する。希望者はインターン関係の科目を履修すること。また日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。

履修コード	105501
科目名	演習II
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミです。講義よりも専門的なことを学ぶとともに、自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とします。年金・医療・介護保険・環境・失業の諸トピックスについて「どのような問題があって、何を為すべきか」を自分なりの意見をもてるようにしましょう。
授業スケジュール	三年生のゼミでは、公共経済学のテキストを輪読します。毎回、報告担当者にはレジュメを用意してもらいます。 また、後期には1回キャリアコンサルタントを講師として招き、ゼミで学んだことを最大限に就職活動に役立てるためのアドバイスをしてもらいます。
準備学習	報告者は最低でも2週間かけて準備してください。
履修上の留意点	ゼミは勉強の場だけでなく、人前で自分の意見を言えるよう訓練したり、同じゼミの仲間と協力して何かを達成することを通じて人間的に成長する場でもあります。引込み思案にならず、常に積極的な態度で参加してください。
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度により評価します。
教科書/テキスト	受講者と相談して決定します。
参考書	

履修コード	107001
科目名	演習II
担当者名	瀬戸岡 紘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して経済、社会、経営、文化などを分析し、自分の意見をもてる人間を養成すること。また、そういう時代を生きぬくうえでもとめられる社会的正義感をもった人間を養成すること。
---------------------	--

授業スケジュール	アメリカの大学の演習方式を大胆に採用しながらも、独自の方式で演習をすすめています。思考に強くなるための方法(弁証法の学習)、デジタル時代の学習と研究の方法(以外にも古典的文献の読破と一体化した学習方法)、学ぶ者の社会的責任の体得などがそれです。とくに最近数年間は、金融グローバル化について非常に緻密に学習しています。そのことをとおして、アメリカをはじめ、世界中で起こっている経済事象を読み解く実力がやしなわれるからです。それまでは単語として聞いたことがあった程度だった経済用語をふんだんに駆使しながら日々の出来ごとを語れるようなゼミ生が確実にそだっています。 あわせて、後輩のゼミ生の世話をする事、日本学生経済ゼミナールの東京大会・全国大会への参加、インターネットや遠隔授業をつうじたアメリカの学生との交流、工場見学や企業訪問など多彩な企画を実施しています。
----------	--

準備学習	随時、説明します。
------	-----------

履修上の留意点	4年次生で卒業論文を作成します。
---------	------------------

成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は、当人のやる気です。
---------	---

教科書/テキスト	随時、有益な文献を紹介しします。 アメリカには、成功例も失敗例も世界一豊富にあります。企業活動から文化運動にいたるまで、アメリカの事例を知っておくことが、ゼミ生がどんなテーマを選んで研究するうえでも役に立ちます。だから、アメリカの事例研究になる文献を多くとりあげます。
----------	---

参考書	
-----	--

その他	ゼミでは、社会の第一線で活躍している人を招いて「出前ゼミ」をときどき実施しています。当ゼミのOB・OGも、しばしば3年生や4年生のゼミに顔をだし、社会や会社の現場の話をしてくれます。 このほか、ゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりすることのほか、下記のホームページ(ゼミ生制作)にアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxx.jp/
-----	---

履修コード	107901
科目名	演習II
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マーケティングの問題点を把握し、それを解決する方法を身に付けさせることをねらいにしている。
---------------------	---

授業スケジュール	1～5回 問題発見の方法と論文の書き方についての指導 6～15回 ゼミ生各自の研究テーマ発表とそれに対する指導 夏合宿 ゼミ生各自の研究に関する弁別構成の指導 16～25回 論文執筆に対する指導 26～28回 ディベート大会に関する指導 ディベート大会 12月の第2日曜に開催 29～30回 論文集の校正に関する指導
----------	--

準備学習	個人の研究を中心にした指導をしていくので、自ら資料収集の工夫をしておいて欲しい。また、論文の弁別の検討の際に支持した資料は、必ず収集しておくようにして下さい。
------	---

履修上の留意点	・平常の出席はもちろんであるが、論文の執筆と夏合宿及びディベート大会への参加は必ず必要です。
---------	--

成績評価の方法	平常点(・日常の授業態度20%、・夏合宿への取り組み姿勢20%、・ディベート大会出席30%・論文30%)
---------	--

教科書/テキスト	指定しない
----------	-------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/gl/nobusoga
-------	---

履修コード	105311
科目名	演習II
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをよくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	最初のうちは講義形式の説明と輪読形式の発表の両方を使ってゲーム理論そのものの学習を中心にすすめる。その後、ゲーム理論の学習と並行してグループや個人で実際の産業や行政について調べ、そこからゲームを作って分析するなどより実践的な研究へと展開する。
----------	---

準備学習	(1) 産業界のニュースに関心を持っておくこと、(2) 教科書の該当部分を授業前に読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	自分自身で社会の中にあるかけひきを表現するためにオリジナル・ゲーム(といってもプログラムではない)を創作し、発表してもらうなど、発想やアイデア、表現力を養うことを重視する。
---------	--

成績評価の方法	出欠状況、演習活動への貢献や発表などの平常点、授業内試験で評価する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	友野典男、『行動経済学—経済は「感情」で動いている』、2006年、光文社(光文社新書)、998円、ISBN:978-4334033545
----------	--

参考書	とくになし。
-----	--------

その他	12月の演習発表会でグループ研究を行う。
-----	----------------------

履修コード	109101
科目名	演習II
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>わが国企業の人事・労務管理(人的資源管理)はいま大きく変化しつつあります。雇用、賃金、労働時間、昇進・昇格などの人事制度、能力開発、福利厚生、企業内労使関係といった労務管理のほとんどの領域で、かつて日本的労務管理(あるいは日本的経営)と特徴づけられた制度や慣行が改廃されつつあります。グローバル化、メガコンベクション、情報技術革新、それらに伴う企業・職場組織の再編などがその背景にあります。新しい方向を示すキーワードは、多様化、弾力化(フレキシビリティ)、成果主義、個別化などです。こうした変化をどのように把握し、どのように評価するか、自らの働き方(社会への貢献の仕方)として何を望むのか、メンバー同士の語り合いのなかで模索することがねらいです。その際に、諸外国の制度や慣行も比較対照として学習していきたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	現代人事労務管理の変容を、①雇用、②賃金、③労働時間、④能力開発、⑤福利厚生(企業年金を含む)、⑥労使関係、などの領域ごとに大別し、各人はその領域の中で具体的なテーマを決めた上で、下調べや報告をし、全員で議論するという形式で進める予定です。
----------	--

	最新の情報を共有するために、新聞記事をこまめにチェックして、情報を蓄積していく作業も毎回のゼミで行います。なお、テーマごとのディベートも予定しています。
--	--

準備学習	毎回のゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせて体系的な理解を獲得することが目的です。
------	--

履修上の留意点	1つのテーマのもとに調べたり、報告をすること、ほかの人の報告を聞き、議論することを楽しい学習と思ってほしい。全員が自由に発言できる雰囲気大切にしたいと思っています。
---------	--

成績評価の方法	日頃のゼミへの参加、丹念な下調べ、レジュメ・レポートの提出、積極的な発言と参加を中心に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	共通テキストについては、ゼミ生と相談して決めます。
----------	---------------------------

参考書	ゼミのなかで適宜指示します。
-----	----------------

その他	<p><卒業研究の有無> 引き続き演習IIIを履修する場合には、履修時に卒業研究を併設します。</p>
-----	---

履修コード	108801
科目名	演習II
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 演習Iで得たアジア経済に関する基礎知識を土台に、内容的により高度な文献を講読する。各国経済論や個別のテーマを掘り下げるなど、アジア経済論の各論について学習する。授業の進め方は、演習Iと同様にゼミ生諸君による輪読方式で進めていく。 (到達目標) この授業の目的は、ゼミ生諸君に演習Iの学習を前提にして第二次世界大戦後の東アジア経済の発展過程をより深く理解してもらうことである。その際、「東アジア」(東北アジアと東南アジアを合わせた地域)という地理的範疇の重要性に注目し、そこに所属する各国経済の発展過程と相互連関性について理解を深める。最終的な到達目標は、ゼミ生諸君に東アジア諸国が日本の経済的パートナーとして不可欠な存在となっている事実を認識してもらい、今後両者の関係がどうあるべきかを考えるきっかけをつくることである。
授業スケジュール	演習Iで身につけた基礎知識を土台にして、さらに東アジア経済に関する理解を深めるために下記(教科書)の文献を輪読してもらう。 また、適宜、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料について学習する機会を設ける。夏季休暇中には、ゼミ合宿(演習Iとの合同合宿)を実施する。そこでは別の文献を取り上げて講読し、ビデオ鑑賞なども行う。 後期には、演習の特別企画として課外活動(日本中のアジア探訪)を実施する予定である。
準備学習	報告者はもちろんのこと、報告者以外の諸君もあらかじめ該当箇所を精読し、質問や意見を準備しておくこと。 また、アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
履修上の留意点	演習(ゼミ)という少人数科目は、何よりもゼミ生諸君一人ひとりが主人公となるべき科目である。授業には休まず出席し、積極的に発言することを心掛けてもらいたい。
成績評価の方法	レポート回数、授業での積極性、合宿への参加状況などを加味して総合的に判定する。
教科書/テキスト	北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』現代世界経済叢書4、ミネルヴァ書房、2004年、3,200円＋税、ISBN 4-623-04158-1
参考書	参考書については、授業の中でそのつど紹介する。
その他	4年次に「卒業研究」を併設する。

履修コード	107401
科目名	演習II
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) いわゆる<南北問題>は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国＝アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。 (到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を‘鏡’にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみるのが大切です。
授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
履修上の留意点	
成績評価の方法	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	108701
科目名	演習II
担当者名	友松 憲彦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	西洋社会経済史の研究を課題にしています。ヨーロッパやアメリカ経済史の基本文献を講読し、経済史の基礎理論や概念について学びます。
授業スケジュール	西洋経済史の文献講読をおこなうと同時に、各自が設定したテーマについて研究をすすめ、卒業研究のための基礎づくりをします。
準備学習	レポーターはレジメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点(ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論)と年度末レポートを総合して評価します。
教科書/テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	演習を通じて紹介します。
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	105601
科目名	演習II
担当者名	中濟 光昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Iの内容を前提に、具体的なテーマを設定して研究します。自分でテーマを決め、その研究の意義が説明できること、必要なデータや文献を探せること、論理的なレポートが書けること、説得力のある発表が出来ることが目標です。インターネット上での電子商取引、ネットワークを駆使した流通システム、サプライチェーンマネジメント、電子決済システム、デジタル情報の著作権問題など経営・経済に関するテーマに加え、コンピュータシステムに興味のある学生は、システム設計実習やホームページデザイン実習といった情報系のテーマを扱います。合宿、学外の研究発表、展示会見学、インターンシップ参加など様々な活動を通じて、社会人として必要なことを学びます。この演習の成果は情報産業を始めとする様々な業種への就職に結びつきます。
授業スケジュール	(1)～(4) テーマの決定 (5)～(14) 研究テーマに関する調査・分析 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16)～(29) 進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回各自がレジメ作成、レポーティング、プレゼンテーションなどの実習を行います。サブゼミでの輪講、各自で研究テーマを決めて研究した経過をゼミで発表するなどにより、研究の仕方を習得します。
準備学習	原則として演習I(中濟担当)を履修していること。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・演習IIでは、就職のための準備など、様々な活動が要求されます。もちろん、合宿、課外イベント、サブゼミは原則として出席していただきます。 ・メールの読み書きやワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。インターネットに接続できるノートパソコンが必要です。
成績評価の方法	課題提出(50%)、夏季合宿(10%;後期履修の前提)、学年末に行う発表(10%)とレポート提出(10%)、ゼミ運営上の雑務(10%)、イベントへの参加や資格取得(10%)を総合評価します。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	・積極性のある学生の参加を希望します。 ・ゼミではパソコン教場を使用しますので、本ゼミを受講したい人は総合情報センターで利用登録を行う必要があります。 ・編入学および転部・転科の学生を主な対象として4月に追加募集を行います。希望者は初回の演習に必ず出席すること。 ・演習IIIでは、卒業研究(論文及び作品)を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109201
科目名	演習II
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIでは、地域経済・地域産業の理論を踏まえて、地域の実態を把握する実践的手法を学んでいく。
---------------------	---

地域という窓から、現実の経済・産業を見ていくと、様々な問題意識や疑問が生まれてくる。研究対象についても、地域の農業や漁業、産地・地場産業など工業集積、商店街・中心市街地やまちづくり、温泉郷など地域観光、地域の金融や財政・政策、など多岐にわたる。地域という総合的存在を学ぶことを通じて、経済・産業の全体像を理解していくことを目指す。

授業スケジュール	世田谷区や夕張市など実在の地域を選定し、当該地域の実態把握と活性化プランを取りまとめしていく。まずは、ゼミ生全員で、選定地域における既存資料や統計データを入手・分析する。その後は、グループ単位で、選定地域において興味のある研究テーマ（例：地場産業・中小企業の再生、新産業・ベンチャービジネスの創出、商店街・中心市街地の活性化、観光振興による交流人口アップなど）を設定し、各種調査を実施・取りまとめていく。それぞれの研究テーマにおける調査結果をもとに、当該地域の関係者（中小企業経営者や政策担当者など）と議論を行ない、最終的に当該地域の活性化プランとして取りまとめしていく。この活性化プランは、当該地域の関係者に対して発表会が行なえる水準を目指す。 夏休み等を利用して、合宿やフィールドワークも行なう予定。
----------	---

準備学習	課外学習、サブゼミを主体的に実施し、ゼミの授業時間を充実したものとする。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	「地域経済論a・b」の講義、「ベンチャー論」「起業論」の講義を既に履修済みであることが求められる。 ゼミには主体的に参加してもらいたい。最終的には、ゼミ生各人が自ら問題を設定し、その問題を解決するために自分自身で調べ、新たな発見を見出し、その成果をプレゼンテーションできるように努めてもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、授業中のレジュメ・報告内容、討論への参加などを総合的に評価する。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	テキストは、開講時にゼミ生と相談して決定する。 日経新聞および日経グローバルを活用する。
----------	---

参考書	長山宗広『日本のスピノフ・ベンチャー創出論 ー新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館、2012年。
-----	--

その他	とりあえずは、講義の「地域経済論a・b」「ベンチャー論・起業論」を参照のこと。 演習IIIでは、「卒業研究」を併設する。
-----	---

履修コード	105361
科目名	演習II
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	番場ゼミ（演習II）の目的は、専門分野の研究を通して問題の発見からその解決へと向かう問題解決能力を育成することにあります。専門分野の研究は、流通論を中心に行います。
---------------------	--

授業スケジュール	(1～15) 「課題研究」とその報告書作成 (16～22) テキストを利用した学習（グループ単位） (23～30) テキストを利用した学習（個人単位）
----------	---

夏休みあるいは合宿時等に巡検を行います。巡検先は、「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設のほか、東京中央卸売市場・せたがやポロ市などの卸売市場や定期市を予定しています。

まちづくりの検討やその他具体的な事例検討等に際しては写真や映像をたくさん使います。基本的に使用する写真は自分たちで収集します。使用するカメラや関連ソフトはゼミで複数揃えてあります。

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布します。様々な活動を自主的かつ積極的に経験してみたい人のみ履修してください。
---------	--

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価する。レポートや試験は行わない。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	必要に応じて相談して決めます。テキストは全員共通のものを使う場合もありますが、複数のグループに分けてそれぞれ別のものを使うこともあります。また、「日経MJ」「週刊ダイヤモンド」などの新聞や雑誌も用います。
----------	--

参考書	基本的な文献あるいは重要かつ最新の資料（特に白書・統計資料・時刻表・地図など）は可能な限り研究室に揃えておきます。
-----	---

その他	このゼミの運営モデルは2年生から卒業までの3年間でつくられています。3年次からの入ゼミは基本的には想定していませんが、欠員が生じた等の場合には追加募集をすることもあり得ます。詳しくは、問い合わせてください。
-----	---

履修コード	108001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標（ねらい）	グローバル化・情報化（IT革命）の進展など経営環境が激変するなかで、大きく変貌する日本企業とその経営の実態をリアルに学び、それぞれがビジネス・パーソンとして求められる企業経営の分析力と洞察力が獲得できることを目指します。
--------------------	--

授業スケジュール	演習Ⅰの継続です。5グループがそれぞれに決定したテーマについて取り組み、プレゼンテーションを行います。 前期 第1回 インTRODクシヨン 第2回 テーマ決定とグループ編成 第3回 現代企業と経営環境の変化 第4回～第8回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 第9回 第1回発表の総括と今後の課題について 第10回 新たなテーマ決定 第11回～第15回 グループ別・テーマ別プレゼンテーション 後期（第16回～第30回） 前期と同じスケジュールで、それぞれのグループが2回づつプレゼンテーションを行う。
----------	---

準備学習	授業はグループ別の発表と質疑、コメントで進められます。 発表担当のグループはテキストや参考文献をまとめて、プロジェクター用の発表資料と補足説明のレジュメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。 ゼミでの議論の活性化には、グループごとにサブゼミを組織して、ゼミでの議論に向けた準備をすることも大切な準備学習です。 また、日常的に新聞や雑誌、ネット検索などによって、現代の企業の動向について調べ、高い関心と問題意識をもって授業に参加することが必要です。 ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
------	--

履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
---------	--

成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
---------	---

教科書／テキスト	小阪隆秀・百田義治編著『CSRと経営学』ミネルヴァ書房、2012年。
----------	------------------------------------

参考書	CSRや企業倫理に関する文献を随時紹介します。
-----	-------------------------

その他	「卒業研究」（4単位）を併設します。
-----	--------------------

履修コード	109221
科目名	演習Ⅱ
担当者名	松井 柳平

授業概要/ 到達目標（ねらい）	統計学の知識が経済の分野で必要不可欠なものとなっている。世界を舞台に経済は毎日めまぐるしく変動し、激動している。こうした不確実な変動を分析するための統計的手法を、パソコンを用いることで実践的に習得する。
--------------------	---

授業スケジュール	統計的な分析をおこない、評価・討論する。 必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
----------	--

準備学習	発表者（発表グループ）は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジュメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者（発表グループ）以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
------	---

履修上の留意点	このゼミの履修にあたっては、数学の知識は事前にはまったく必要としない。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
---------	--

教科書／テキスト	開講時に、ゼミ生と相談の上、決定する。
----------	---------------------

参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
-----	--------------------

その他	パソコン教場でおこなう。レポーターによる報告に基づいて進める。
-----	---------------------------------

履修コード	105321
科目名	演習II
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は極めて変化のスピードが早い時代です。こうした傾向は企業経営の世界にも当てはまりません。企業は経営環境の著しい変化の中で日々の業務に携わりながらも、自らが拠って立つ基盤を模索しています。これは企業自身も自らと社会との関係をどのように構築していけばよいのかという課題に直面しているといえるでしょう。こうした理解に立ち、本演習では企業経営の現代的課題について取り上げながら、企業活動の体系的理解を目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業論文作成の準備に取り掛かれるように、企業の意義、役割ならびにその特質に関わる体系的な理解を目指します。</p> <p>第1回 前期オリエンテーション 第2回～第11回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第12回～第15回 夏合宿で扱う研究課題に関する資料輪読と討論 第16回 後期オリエンテーション 第17回～第26回 研究課題に関する資料に基づいた各自からの報告と質疑応答 第27回 小括：資料輪読による知見をまとめた学内研究報告練習会 第27回 小括：他大学ゼミとの研究交流会に向けた研究報告練習会 第28回 他大学ゼミとの研究交流会 第29回 卒業論文作成に向けたオリエンテーション 第30回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	予習復習の他、サブゼミへの参加やゼミ外での研究発表等を通じて自ら進んで研究に向かう姿勢を涵養して下さい。
履修上の留意点	専門演習とは、一つの学問領域に絞りながら、この領域における課題事項を集中的に考察、検討するものです。したがって、参加する学生は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	ゼミへの出席は最低要件です。各自の発表を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書/テキスト	適宜指示します。その他に日本経済新聞と日経ビジネスを教材として利用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	卒業研究有り

履修コード	105331
科目名	演習III
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。</p> <p>(到達目標) 演習Iで研究したことを基礎に、更に発展した調査および研究を行う。 非営利組織(NPO)・社会的企業の役割や社会問題に関する討論を行うことで、最後まで考え抜く力を養うことが到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>文献の輪読および討論を基礎に、演習Iと同様に、適宜非営利組織・行政・企業への訪問ヒアリング調査を実施する。年度末には、卒業研究の基礎となる報告書をまとめる。</p> <p>1年間の詳細なスケジュールは、話し合いによって決定するが、おおよその流れは以下の通りである。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2～15回 文献の輪読および討論(適宜、訪問ヒアリング調査を実施) 第16～30回 報告書の作成</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習Iで学習した内容を、復習すること。 ・日ごろから新聞に目を通し、非営利組織に関連する記事を読んでおくこと。 ・討論に向けた準備を行うこと。 ・報告書の作成を積極的に行うこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。無断欠席・無断遅刻厳禁。 ・物事を積極的に調べること。 ・合宿等を積極的に企画し、参加すること。
成績評価の方法	・平常点および活動内容にもとづいて総合的に評価する。
教科書/テキスト	・受講生と相談の上、決定する。
参考書	・参考文献や報告書、新聞・雑誌記事、関連HPなどを随時紹介する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次(演習III)に卒業研究を併設する。 ・非営利組織論a・bを履修することがのぞましい。

履修コード	105301
科目名	演習II
担当者名	溝手 芳計

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行やTPPへの対応などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思えます。あわせて、様々な情報が氾濫する社会で、何が事実か、どのように考えるべきか、分からないことがあるときどのように対処するか、これらの判断力の獲得を目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。今年はディベートにチャレンジしましょう。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。ふだんは3年次生だけで学習しますが、このほか演習I（2年次生）等と合同の合宿で学習と交流を進めます。
----------	--

準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
------	--

履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つとは決っていません。異なる意見を出し合っ一緒に考えていくうちに理解が深まり、当初は考えられなかった結論に達することもあります。学生の皆さんが相互に疑問を出し合い、教えあい、意見交換していくことを大切にしてください。 ひとりひとりを大切にすることは当然ですが、同時に集団としての規律を守ることも求めます。
---------	--

成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	ゼミ生と相談の上、1年間のテーマを決め、これに沿ってテキストを選定します。
----------	---------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	演習IIIで「卒業研究」を併設します。
-----	---------------------

履修コード	107201
科目名	演習II
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の福祉・社会保障、その制度や現状、日本経済との関連について、やや専門的な学習をする。この演習IIでの勉強をもとに、演習IIIではゼミ論文の作成に取り組んでもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	テキストに従って、各自の分担を決め、レポーターの報告に従って討議を行う。また、後半は各自の研究を発表してもらう。 夏と春は2泊3日の合宿を行う。但し、合宿への参加は強制しない。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	前期はテキストを論読していくが、後期は各自の研究を発表してもらうので、前期のうちから準備しておくこと。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、レポート報告、研究発表等、総合的に判断する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	参加者の意見や希望も考慮して決める。
----------	--------------------

参考書	テキストに従って、また必要に応じて紹介する。
-----	------------------------

履修コード	105341
科目名	演習II
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代の経済社会、特に経済活動と法・制度の関係を学ぶことで経済社会の仕組みについての理解を深めることを目的とする。そのために3年次には、企業組織論と「法と経済学」の基礎を学び、それらを用いて、企業組織における経済活動と法・制度が日常生活や企業の経済活動に与える影響を考察する。</p> <p>経済学を用いて経済社会の仕組みを分析する方法を身につけ、論理的に議論できるようになることを重視する。参加者は日常生活における経済活動や政策に関する議論に関心を持ち、その意味を経済学の視点から分析し、意見を形成できるよう心がけてほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期には、企業組織論や「法と経済学」のいずれかのテキストを輪読し、現代の日本経済や日本企業の諸問題について経済学の視点から議論する。夏休みに討論会を行い、そこでの議論を踏まえて、後期にはワーキング・グループによる研究発表を行うとともに個人の研究テーマを決定し、個人研究のための指導を行う。4年次は卒論指導を行う。</p>
----------	---

準備学習	ミクロ経済学の基礎的知識を前提とする。
------	---------------------

履修上の留意点	ゼミへの出席、発表・報告を担当することを前提とし、毎回の討論に積極的に参加すること。ゼミの自主的な運営に積極的に参加すること。
---------	---

成績評価の方法	ゼミへの出席、報告内容、討論への積極的な参加などにより総合的評価を行う。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	開講時にゼミ生と相談の上、決定する。
----------	--------------------

参考書	
-----	--

その他	演習III履修時には、「卒業研究」（卒業論文）を併設する。
-----	-------------------------------

履修コード	105401
科目名	演習II
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 財務会計は、企業をとりまく利害関係者の利害調整およびその意思決定に貢献することを目的として発展してきている。さらに、財務会計によってもたらされる情報に信頼性を付与するために会計監査が行われている。したがって、財務会計と会計監査には密接なつながりがあり、財務会計の知識なくして会計監査を深く理解することはできない。本演習においては、演習Iに引き続き、財務会計および監査の領域に属する諸問題を、学生相互間の討論を中心として研究していく。</p>
---------------------	--

(到達目標)	本演習の到達目標は、財務会計および監査の制度的なしくみと基本的な考え方についての知識の習得である。
--------	---

授業スケジュール	演習Iに引き続き、テキストを用いて財務会計の理論を習得し、その後に監査論の学習に進む。これらの学習は、演習IIIにおける卒業研究の基礎となるものである。なお、夏合宿では日商簿記検定試験2級程度（商業簿記）の学習を行う。
----------	---

準備学習	夏合宿までに、少なくとも日商簿記検定試験3級に合格しておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。明るく楽しいゼミにしたいと思うので、自主的にゼミを運営できるような、積極的かつ協調の精神に富んだ諸君の参加を期待している。
---------	---

成績評価の方法	いわゆるゼミであるから出席を重視するが、そのほかにゼミにおける報告（レジュメを含む）・発言内容やゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。
---------	--

教科書／テキスト	最初の演習時に指示する。
----------	--------------

参考書	演習の中で適宜紹介する。
-----	--------------

その他	演習IIIに「卒業研究」を併設する。
-----	--------------------

履修コード	106301
科目名	演習II
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ【戦後日本経済の発展と日本型経済システム】</p> <p>3年演習は、戦後の日本経済の発展過程を中心に学びます。戦後の日本経済は、1950年代半ばから驚異的な経済成長を遂げ、国民総生産で資本主義第2位にまで成長し、「経済大国」「貿易大国」と称された。前期は欧米経済へのキャッチアップ完成までのダイナミックな経済成長と「日本型経済システム」について学びます。後期は1990年をピークに「バブル経済」が崩壊し、長いデフレ時代に突入し、キャッチアップ後時代遅れとなった「日本型経済システム」と「新型経済システム」を構築できずにジャパンバッシングからジャパンバッシングと化した日本経済を中心に学びます。また、4年演習では経済の発展過程を経済・人材・教育の側面から追求します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 演習オリエンテーション（プレゼンテーションの仕方、資料検索の方法、レジュメの作成法、就活準備法と就活支援について）。</p> <p>第2回～第10回 戦後の日本経済を中心に、1950年代前半経済復興期を中心に、1955年以降の高度成長第一期、第二期、第三期、第四期のキャッチアップ完成期を中心に。</p> <p>第11回～第20回 安定成長期、経済成熟期を中心に、各段階の発展要因とその構造的特質、「日本型経済システム」の構築過程を追及します。前期、サブゼミにおいて「就職適性検査」と「インターンシップのガイダンス」を行います。</p> <p>第21回～第28回 「制度的疲労」によって日本型経済システムが破綻し、「バックスジャポニカ」も露と消え、「失われた十年」とも「失われた二十年」とも称される長期不況を中心に、基本文献や「学術論文」(学会雑誌)等を教材に、プレゼンテーションを行います。後期、サブゼミにおいて「就職模擬面接」の練習と「就職の心構えと準備法」を企業人からレクチャーを受けます。</p> <p>第29回 「ゼミ論文」仮提出（「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導）。</p> <p>第30回 「ゼミ論文」の提出。</p>
----------	--

準備学習	日頃より新聞や経済の雑誌を読み、日本経済に関心を持つこと。
------	-------------------------------

履修上の留意点	後期は就職を控えて「就職セミナー」に参加する機会も多くなるが、できるだけ授業には出席して下さい。
---------	--

成績評価の方法	授業への参加、プレゼンテーションへの取り組み、レポートを基本に評価します。
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	演習の時間に適宜紹介します。学術論文や参考資料を使用しますが、プリントして配布します。
----------	---

参考書	経済雑誌「東洋経済」「エコノミスト」などは貸し出します。その他、参考書は演習の時間に適宜紹介します。
-----	--

その他	<p>3年ゼミ(演習II)では、「インターンシップb」を併設していますので、併せて履修して下さい。「インターンシップb」は「インターンシップa」(2単位)の履修が必要です。「a」「b」を併せて4単位の履修が可能です。</p> <p>4年ゼミ(演習III)では、「卒業研究」(4単位)を併設しています。併せて8単位の履修が可能です。2年次で「教育経済論」の講義(4単位)を履修していない人は、3年次での履修をのぞみます。</p>
-----	---

履修コード	107501
科目名	演習II
担当者名	矢野 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	演習Iの内容を踏まえて、学生の興味に応じてより発展的な内容に取り組んでいく(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに応じて柔軟に対応する)。
----------	---

準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
---------	------------------------------

教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
----------	---------------

参考書	教科書だけにこだわらず、統計学・経済学・マーケティング等関連分野の書籍・雑誌・論文等から適宜選択する。
-----	---

その他	演習III履修時には卒業研究(卒業論文)を併設する。
-----	----------------------------

履修コード	107101
科目名	演習II
担当者名	山縣 弘志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論の専門的学習、研究。
授業スケジュール	現代世界のリアリティーをどうとらえるかは、経済学の重要な課題となっている。テクノロジーの発展が生み出すヴァーチャリティーと現実とのギャップをいかに埋めるか、私たちの知恵が問われている。20世紀に顕在化した課題 — 環境、戦争、福祉、民族、競争と平等、これらにどう取り組むべきか。市場主義の限界は明らかであり、他方で「20世紀社会主義」は対案となりえなかった。ヨーロッパ、ロシアの経験に学び、比較経済論の視点から、これらの問題を考えていきたい。 前期は参考書を読み、後期は各自の発表の形で進める。
準備学習	日頃から、新聞、インターネット、学術文献に目を通して、ヨーロッパやロシアの歴史・現状・政策…等に関心をもつように心がける。
履修上の留意点	毎回、発表担当者だけではなく、出席者全員の積極的発言を求める。
成績評価の方法	出席、発表、討論への参加を総合評価する。
教科書/テキスト	
参考書	相談のうえ決める。
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	107701
科目名	演習II
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習は日本経済の構造転換問題をグローバル化との関わりで共同研究し、併せて企業システムの変容の実態を理解することを目的としています。また共同研究を通じて、4年次の卒業研究にチャレンジするテーマをつかむことも3年次の重要な課題となります。
授業スケジュール	講義とは異なり、演習は学生諸君の自主性・主体性が不可欠です。そこで演習生をグループ化し、班単位でレジュメを作成し、報告・議論を進めていきます。また共同研究を通して、演習生各自が自分自身の世界観・社会観（ものの見方・考え方）を確立することを目標として、また各自が個性的なプレゼンテーション能力とリーダーシップを高めることを目指して、演習を運営していきます。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	受身でゼミに参加するのではなく、積極的に発言し、楽しく有意義なゼミを共に創り上げるという姿勢でチャレンジしてください。
成績評価の方法	成績評価は、出席状況、平常点（レジュメ、報告内容、討論への参加度など）およびレポートなどを中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	共同研究のテキストは、最初のゼミの時間に指定します。
参考書	適宜、指示します。

履修コード	107301
科目名	演習II
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える国際金融の実体について学ぶことが目的です。基本的には演習Iで学んだことを基礎にして、金融、国際経済、国際金融について、さらに理解を深めることを目的としています。 また、単に国際金融を専門として勉強するのではなく、それを通じて、社会を見る目、物事の考え方について学ぶことを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	国内及び国際的信用制度、日本と海外の証券市場、円ドル相場などに関する基礎的な理解を深めていきます。同時に、日本経済を巡る金融及び国際金融環境の変化、ヨーロッパ共通通貨ユーロ、人民元や円の国際化、銀行業及び金融業の国内及び対外的展開、日本とアジアの金融システム、通貨危機、金融危機などを含む様々な金融・国際金融現象を学んでいきます。最近の国際的金融不安についても、アメリカの金融システム、国際通貨論の視点から、その原因と構造を検討していきます。 前期はテキストを利用しつつ、毎回報告者によるレポートと討論を行います。後期は卒業論文の報告を前提に、各人がテーマをもって報告を行っていく予定です。
----------	--

準備学習	国際経済や金融にかかわるニュースを含め、広く経済ニュースを読むようにして下さい。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	授業での報告内容と発言の積極性・内容、提出物など、総合的に判断します。
---------	-------------------------------------

教科書/テキスト	現在、山田博文『これならわかるグローバル時代の日本経済入門 金融経済 第2版』大月書店、2005年12月、を予定していますが、良いテキストが出版されたならば、変更もあり得ます。また、第1回目のゼミで、ゼミ生の希望を聞いてから、テキストを変更することもあります。
----------	--

参考書	必要に応じて、その都度示していきます。
-----	---------------------

その他	ゼミ合宿または研修旅行を予定しています。また、学年を超えた討論会も計画しています。
-----	---

履修コード	109901 109902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習IIの継続として以下の内容を検討する。
---------------------	-----------------------

授業スケジュール	1. 現代日本経済システムの特徴 2. 日本の企業と産業組織 3. 日本の企業システム 4. 市場と取引コスト 5. 情報の経済分析 6. ネットワーク外部性 7. 巨大企業の誕生と「収権増」の波 8. 技術進歩と研究開発 9. 知的財産権と企業 10. 構造改革と日本経済 11. メインバンクシステムと資本市場 12. 日本企業とコーポレートガバナンス
----------	---

準備学習	3年生までにマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎理論をしっかり勉強しておくことが重要である。 伊藤元重『入門経済学』日本評論社、あるいはマンキュー『入門経済学』東洋経済を参考にして復習をしておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	演習は講義と違い学生諸君の参加によってはじめて成り立つ。授業には必ず出席することはもとより、授業はディスカッション形式で行うので、必ず予習しておくことが大事。また、エクセルを使った経済分析やシミュレーションも行うので「情報センター」を利用して活用できるようにしておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席率、授業態度、レポートの内容等を総合して評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	長岡・平尾『産業組織の経済学』（日本評論社）1998年 ポール・ミルグロム＝ジョン・ロバーツ『組織の経済学』（NTT出版）1997年 小田切宏之『企業経済学』（東洋経済新報社）2000年
----------	---

参考書	内閣府『経済財政白書』その他の資料については授業の中で指示する。
-----	----------------------------------

その他	卒業研究 有
-----	--------

履修コード	109411 109412
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	姉齒 暁

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究を行うためのゼミ活動を行います。
---------------------	----------------------

社会人になってから即戦力となる「資料収集能力」「レジュメ等の書類作成能力」「討論・プレゼンテーション能力」、さらにみんなで協力してプロジェクトを成功させるためのプランニング能力を身につけることが目標のひとつです。

また、大学生活の集大成としての年度にふさわしく、卒業研究の成果を論文としてまとめる作業とリンクさせるゼミ活動を行います。

授業スケジュール	演習IIに引き続き、グローバル化の下での国民生活の問題を扱います。食料問題、農業問題、地域経済に大きな影響をもたらすグローバル経済システムの実態を読み解く理論的枠組みを合わせて学んでいくので、経済理論の基礎も同時に身につきます。卒業研究を行うためのゼミ活動となります。
----------	--

準備学習	演習IIを履修していることが条件となります。
------	------------------------

履修上の留意点	就職活動中であっても、ゼミは通常通り毎週開かれます。やむを得ない理由でゼミを休む時もかならず連絡を毎度入れることが必須となります。
---------	---

自分が休む場合には、事前に提出物の提出、報告内容（レジュメ）等の送付などの作業が必要です。

就職活動を孤独ななかで行わない、就職活動だけの学生生活にならない、それが就職活動を成功に導くものです。

語れることをたくさん身につけて社会に出ていけるよう、ゼミで卒業まで頑張りましょう。

成績評価の方法	報告・討論への参加、提出物を含め、平常点で評価します。
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	卒論を書き上げるというのは、苦しい作業ですが、あとで振り返ってみると人生の出発点を確定する貴重な体験です。これからの人生のすべてが詰まっている宝物となるものです。就職活動とうまく両立させて、悔いのない卒論を書き上げてください。
-----	---

履修コード	113201 113202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	阿部 弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：日本経済論
---------------------	-----------

授業スケジュール	「卒業研究」を併設し、演習IIIおよび「卒業研究」の指導を行います。
----------	------------------------------------

準備学習	「演習（ゼミ）」ですから各自の「研究テーマ」を日常普段に追求することが求められます。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	総合的に評価します。「定期試験」はありません。
---------	-------------------------

「卒業研究」の論文発表ができない場合は、単位にはなりません。

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	319001 319002 319003
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	阿部 弘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：日本経済論
授業スケジュール	日本経済の歴史的展開 通常のゼミの他に年間2回の合宿予定。11月末から12月初めにゼミ論発表会予定。ゼミナールの成果を「ゼミ論集」に掲載する。
準備学習	ゼミ生は各自の研究テーマを常に開発してください。
履修上の留意点	「演習」ですから出席することは基本です。 年間2回の合宿への参加は不可欠です。 4年次に「課題研究」を履修することが前提です。
成績評価の方法	総合的に評価します。「定期試験」はありません。
教科書／テキスト	池上惇『文化経済学のすすめ』丸善ライブラリー
参考書	

履修コード	111701 111702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	荒木 勝啓
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経済変動や数理ファイナンスなどのモデルをコンピュータ上でシミュレートするというテーマに向けて様々なコンピュータ技法をマスターしていく。
授業スケジュール	4年生は経済変動モデルや数理ファイナンスモデルを構築していく。昨年度は回帰分析モデル、移動平均モデルを使い株式の売買シミュレーションを行なった。今年度は重回帰プログラミングの成果をもとにさまざまな社会現象の重回帰分析とその統計的検定を行う。
準備学習	必要な時に事前に指示する。
履修上の留意点	
成績評価の方法	オリジナルモデルの作成と検定（ゼミ論）80、平常点20。
教科書／テキスト	
参考書	
その他	

プログラミングやコンピュータシミュレーションの実際をマスターした学生は、就職の際に圧倒的に希望の会社、職種につくことができるというのが実情である。DIPの技能についても同様である。本ゼミとは、そうしたプロフェッショナルな技能を身に付けた上で、その技術をもとにはじめてオリジナルな自己表現をすることができるという現実を知る場であると心得て欲しい。

履修コード	109291 109292
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	有井 行夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会は、企業中心社会です。受験競争や消費競争、夫or妻の争奪競争からマイホーム獲得競争にいたるまで、競争社会の中心に実は企業への就職競争が位置しています。企業の内部もサラリーマンの出世競争・生き残り競争です。そして、最後に生き残って経営者に成り上がったサラリーマンにしても、企業自身の業績責任に不断に脅迫されて過労死寸前です。企業自身が、好況のときも不況のときも生き残り競争のただ中にあるのです。企業は、利潤のための利潤、生産のための生産をどこまでも続けていかなければなりません。日本型企業社会に構造変革を迫っている今日のグローバリゼーションも、この傾向をさらに強めるものにほかなりません。サラリーマンからも、経営者からも、株主からも独立して、自己拡大の衝動に駆りたてられて走り続ける企業。国民の豊かさに無縁の「利潤のための利潤」。地球環境や資源の制約にも無関心の「生産のための生産」。一これが現代社会の最大の謎であり、21世紀前半に解決しなければならない現代社会の最大の課題のありかです。 4年次ゼミは、2年次、3年次と学んできた「企業中心社会」論を中心軸にして、自由にテーマを選んでゼミ論を書きます。
授業スケジュール	前期 有井のプリント、新聞の読み方、川人博『過労死社会と日本』 夏合宿 競争主義対平等主義 後期 有井のプリント、新聞の読み方（ファイルの作成）、奥村宏『法人資本主義』
準備学習	まいにち、日経新聞を読みつづけること。
履修上の留意点	最大のテキストは現代社会そのものです。新聞を読みこなす力を養います。併せて日本語を読む力、書く力、話す力を鍛えます。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加50%、各種レポートの評価50%。
教科書／テキスト	川人博『過労死社会と日本』（岩波新書）、野村正実『雇用不安』（岩波新書）
参考書	有井行夫『マルクスはいかに考えたか』（桜井書店）2700円
その他	コンパ、合宿への参加は必須です。

履修コード	109801 109802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「日本経済への実証的アプローチ」である。近年、経済問題にとどまらずビジネス・社会・政治分野においても経済学的な思考は必須の教養になっている。そして、自身の意見を発表し、説得する（つまりは「自分がわかっている」ことを人に伝え、他の人を「納得させる」）際には十分な実証的根拠を示し、聞き手を考慮した発表を行うことが必要とされる。本演習は「経済理論の理解」「統計を用いた証拠づけ」「プレゼンテーション能力」の3つを柱に、「使える経済学」を身につけることを目標とした。
授業スケジュール	演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目をあわせて履修することが望ましい。
履修上の留意点	連絡のため駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書／テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	317701 317702 317703
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	飯田 泰之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文の作成を行う
授業スケジュール	前期は卒業論文作成の準備として、必要な文献を指示し、レポートする。後期はその執筆の進行を確認しながら適宜指示する。
準備学習	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済政策」「統計原論」「企業経済学のa、b」等関連科目を履修済みであること。
履修上の留意点	演習IIからの継続履修か、特に事情がある場合の未履修を許可する。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加とレポート内容による。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	111601 111602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 純治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	上級会計学の学習、新聞・雑誌・小論文を素材にした学習、および卒業論文の指導を行います。
授業スケジュール	卒業論文については、夏休み中に論文のテーマおよび章別構成を仕上げる。後期になってそれを発表しながら完成させていくという作業をします。
準備学習	別途指示します。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ報告・レポートなどの平常点、及び卒業論文の内容評価。
教科書／テキスト	その都度指示します。
参考書	その都度指示します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm

履修コード	109701 109702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	石川 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業においては、会計情報が利用される場合、それによって様々な目的が果たされる。その目的と会計上の手法との関係を探ることで、会計が社会的な諸関係の中でいかなる意味を持つものであるのかを明らかにしたい。そのことによって、社会現象のもつ意味を考えるための視点を養うことに努めたい。 具体的には、「卒業研究」の論文作成に取り組むことで、社会現象を分析するための視点を身につけてほしい。
---------------------	---

授業スケジュール	ゼミ生各自が研究テーマに関する調査・分析を進め、それを基に4年間の学生生活の集大成としての「研究」に取り組む。演習の時間は、その内容について報告してもらう。
----------	--

準備学習	各自の研究内容に関わる文献・資料を収集・分析し、そこから問題点を抽出し、議論の土台をつくるようにつとめること。
------	---

履修上の留意点	初回の演習時に伝達するスケジュールに則り、「研究」を進めること。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	各自の研究内容に関わる報告を中心として評価する。
---------	--------------------------

教科書／テキスト	特に指定しない。ただし、各自の研究に必要な書籍を利用すること。
----------	---------------------------------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	合宿その他のイベント等については、話し合いで決定する。
-----	-----------------------------

履修コード	110001 110002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	経営破綻や機関投資家・投資ファンドの不祥事など企業経営をめぐる問題が続出しています。本演習では、トップ・マネジメントの構造と機能の理解を中核として、コーポレート・ガバナンスとコーポレート・パワーとの連関の検討を通じて、現代の企業経営の課題を多面的に考察していきます。現代の企業経営に関する問題意識を深めていき、卒業研究またはゼミ論文の執筆を通じて、企業と社会との関わり、CSRを踏まえた企業経営システムの構築に向けた課題を追及していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	各ゼミ生の「ゼミ論文」あるいは「卒業研究」報告を中心に討論し、「ゼミ論文」・「卒業研究」の作成に取り組めます。 合宿では、各ゼミ生のゼミ論文・卒業研究テーマの報告とともに、現代の企業経営が抱える諸問題について討議していきます。 1. ゼミ論文・卒業研究作成に向けたガイダンス (1) 2. 企業と社会の論点整理 (2~4) 3. 企業の社会的責任 (CSR) の現状と課題 (5~6) 4. ゼミ論文・卒業研究の個別報告 (7~15) 5. ゼミ論文・卒業研究の個別報告と執筆指導 (16~30)
----------	--

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集を行うとともに、関連する経営学の文献を読んでください。
------	---

履修上の留意点	ゼミナールは、受講生の主体的な学びの姿勢にもとづいて運営されます。ここでは専門の学習とともに、自らの課題を発見し、問題意識を深めていくという積極的な学習スタイルが求められます。受講の際には企業経営をめぐる諸問題について問題意識を持ちゼミナールに参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	個人研究の発表内容、積極的な討議への参加、論文の執筆など平常点による総合評価を行います。
---------	--

教科書／テキスト	開講時に指定します。
----------	------------

参考書	必要に応じて指定します。
-----	--------------

その他	「卒業研究」を併設します。
-----	---------------

履修コード	320911 320912 320913
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	岩波 文孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	企業をめぐるビジネス環境は複雑・多様化するとともに、不祥事の続出や経営不振などを解決するために経営システムの改革が企業に求められています。授業では、企業経営の仕組みを理解していくとともに、企業経営に関する興味・関心を深め、企業と社会との関わり、企業の社会的責任 (CSR) を踏まえた経営システムの構築にむけた課題について考えていきます。 課題研究は演習IIIに併設開講されているため、演習で学習した成果や受講生の問題意識に基づき、課題研究を執筆することになります。
---------------------	--

授業スケジュール	演習時に通常の演習の授業とともに課題研究の指導を行います。 1. 授業のガイダンス (1~2) 2. 企業と社会をめぐる論点 (2~7) 3. CSRの現状 (8~15) 4. 現代CSRの課題 (16~23) 5. 現代の企業管理の課題と展望 (24~30)
----------	---

準備学習	企業経営の動向について、日常的に新聞・ニュース等を通じて情報収集をしてください。
------	--

履修上の留意点	課題研究は演習IIまたは演習IIIに併設されています。
---------	-----------------------------

成績評価の方法	日常の課題研究報告および指定された期日に提出された課題研究に基づき評価する。
---------	--

教科書/テキスト	開講時に指定。
----------	---------

参考書	随時指定。
-----	-------

その他	「課題研究」を併設します。
-----	---------------

履修コード	110101 110102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年次・3年次の活動成果を「卒業論文」としてまとめること、そのための準備と執筆が主な活動となります。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は、各自が就職活動に専念し、自分の性格や能力に適した、やりがいのある仕事や就職先を見つけるための活動をします。 後期には、卒業論文作成のために詳細なレジュメを作成し、執筆にとりかかります。提出された論文は、ゼミ活動の思い出として残るよう『経済学ゼミ論集』(大石ゼミナール発行)にまとめられます。
----------	--

準備学習	新聞にできるだけ目を通し、時事問題については自分でよく考えてみることを勧めます。
------	--

履修上の留意点	原則として平常点で評価しますが、「卒業論文」が提出されない場合には演習IIIの単位を取り消すことがあります。
---------	--

成績評価の方法	平常点で評価します。
---------	------------

教科書/テキスト	新聞記事等、授業に使用する教材はそのつど支給します。
----------	----------------------------

参考書	特に指定しない。
-----	----------

その他	①「卒業研究」を併設します。 ②コース制との関連：コースの履修は自由です。
-----	--

履修コード	110401 110402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	大吹 勝男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	2年次・3年次の学習成果を基礎にして卒業論文の作成をめざします。
---------------------	----------------------------------

授業スケジュール	社会保障及び社会福祉等々に関する論争は、我々人間が生きてゆく上での重い課題を背負っている。故にテキストに拠る学習だけではなく、上記に関連する毎日のニュースを知らなければならぬ。本ゼミでは毎回、新聞・雑誌記事によってそれを補う。また、四年生は就活の情報収集の為に利用する。
----------	---

準備学習	テキストを読んでおくこと。
------	---------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	ゼミ論文の提出によって成績を評価する。「卒業研究」も併せて開講する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	112701 112702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小栗 崇資

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の企業会計制度は、現在、大きな転換期にさしかかっており、会計ビッグバンを経て国際会計基準への統合へと突き進んでいます。計算構造の面でもディスクロージャーの面でもこれまでの財務会計の枠組みや原理・方法は大きく変容しつつあるといえます。会計の学習者にとっては、従来のような勉強だけでは変化についていくことができないので大変ですが、発想を変えれば、現代社会のなかでの会計の役割や仕組みを研究するチャンスと考えられます。演習では、「グローバル化する日本の企業会計制度」をテーマに学習を進めたいと思います。
---------------------	--

授業スケジュール	演習IIIでは、演習IIに続き、現代の財務会計の理論や方法を学習する予定です。そうした中で、国際会計基準のいくつかを取り上げ、その内容を深く検討してみたいと思います。演習は皆さんに報告をしてもらい、ディスカッションする方式で行います。資格勉強のように暗記するのではなく、「なぜそうなのか」「どうしてこうなるのか」という問題意識をぶつけあって研究することをこの演習ではめざします。後期には自分の研究テーマを設定し、卒業論文を書いてもらうつもりです。
----------	---

準備学習	指示に従い、事前の準備をしておくこと。
------	---------------------

履修上の留意点	ゼミでは皆さんに積極的に発言したり質問したりすることを求めます。毎回、司会者や報告者、質問者などの役割を分担して進める予定ですので、必ず出席してください。なお「卒業研究」も開講します。
---------	--

成績評価の方法	総合的に判断します。①出席状況、②報告内容、③レポート、④ゼミ運営への貢献度。
---------	---

教科書/テキスト	演習の中で指示します。
----------	-------------

参考書	演習の中で指示します。
-----	-------------

履修コード	112401 112402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	河村 徳士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近現代日本の経済史・経営史に関連したテーマにもとづく卒業研究(卒論)を、教員の指導を受けつつ執筆する。受講生は、執筆に必要となる資料や統計データをできるかぎり渉猟し、実証密度の高い分析作業に挑んでもらう。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)前期ガイダンス、(2)～(13)目次案の作成、論文執筆や図表作成の技法、先行研究のサーベイ、参照資料・統計データの収集などに関する指導および適宜中間報告、(14)～(15)卒業研究中間報告会、(16)後期ガイダンス、(17～28)卒業研究の草稿作成と個別添削指導および適宜中間報告、(29)～(30)卒業研究最終報告会 *詳細については、前期ガイダンス、後期ガイダンス時に知らせる。
----------	---

準備学習	前期・後期とも、所定のスケジュールにしたがって各自で進めておくこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	受講生の新規募集は行わない(演習IIIの継続者のみ受講可)。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	卒業研究の作成に取り組む姿勢と論文の完成度で評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	開講時に受講生と相談のうえ指定する。
----------	--------------------

参考書	個別指導の中で、適宜紹介していく。
-----	-------------------

その他	「卒業研究」を併設する。
-----	--------------

履修コード	109421 109422
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	北口 りえ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	税務会計は、法人税法における課税所得計算に関する学問です。法人の所得に対して課される法人税は、企業にとって避けられないものであり、企業行動を左右する重要な要素のひとつとなっています。本演習は、法人税における課税所得が企業利益をベースとしてどのように算出されるのか、その課税所得の計算構造に関する理解を深めることを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	各自が選んだ研究テーマについての発表を中心に進め、ゼミ内でのディスカッションや論文指導により、その研究について深く掘り下げてもらいます。
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	ゼミ内で意欲的に発言し、ゼミの運営や行事(合宿、ゼミナール連合会での研究発表会、証券取引所見学や裁判所見学など)にも積極的に参加してください。卒業研究も開講します。
---------	--

成績評価の方法	出席率、報告内容、ゼミやゼミの運営への参加度、レポート等の総合評価により行います。理由のない遅刻や無断欠席は大きな減点としますので、注意してください。
---------	---

教科書/テキスト	特になし
----------	------

参考書	特になし
-----	------

履修コード	112001 112002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小杉 修二

授業概要/
到達目標（ねらい）

演習Iに同じですので、そちらを見てください。

授業スケジュール

基本的には演習I、IIに同じです。演習Iでは温暖化のメカニズム、その害悪について学び、演習IIではそれらの知識を踏まえて、その対策についてどんなものがあるか①地球に日傘 ②炭酸ガスの大気からの除去 ③炭酸ガスの発生削減)について考えます。
IIIはその総仕上げとして、2050年の世界の人口、経済規模を予測し、そこからどれほどの温室効果ガスが出てくるかを考えます。そして、海と森林が吸収してくれる分を差し引けば、放置しておいたときに大気中の炭酸ガス濃度を増やす分です。これらを「自然エネルギー」でどれだけ代替できるのか、また、省エネルギーの可能性はどれだけあるのかを考えます。
温暖化対策は所詮は人類の意思決定の問題ですが、地球はひとつでも人類はひとつではありません。それぞれに個別利害を持つ存在である国、集団、個人に分かれています。先進国と途上国では所得に大きな格差があります。貧しい国は豊かな国の生活レベルに追いつくこと、特に古典的貧困を解消することを優先しています。豊かな生活を謳歌している先進国の人間がその現実を知りながら、中国人やインド人はこれまで車に乗っていなかったのだから、これからはそれで頼むという通じるのでしょうか。それどころか、先進国の中にも「格差」があって、これらを解決するためには経済成長が必要だとの議論がされています。これまでは経済成長の中で格差問題は解決されてきたと考えられていました。一説によれば、21世紀末の世界の経済規模は今の10倍程度とされています。その時には炭酸ガスの排出規模も10倍程度になるでしょう。これを省エネルギーで乗り切るとしたら、効率を10倍にすることが最低限の条件です。トヨタのプリウスで言えばガソリン1リッターで140キロメートル走ることになります。たぶん不可能ですね。私たちが挑戦する課題はこうしたものです。

この課題を解決するのがいかに難しいかはすぐ想像できます。発想を変えて炭酸ガスを出さないエネルギーへの転換が必要です。つまり、今はエネルギー革命の時代です。これに対応して経済も全面的に変わる時代です。それにはどんな技術、社会の仕組みが必要かを考えます。

4年次も新聞資料を活用しますが、温暖化回避に現実の経済活動とどんな関係があるかに留意して自ら記事を探す姿勢が望ましい。

- 第1-5週：2050年の世界の人口と経済規模
- 第6-10週：代替エネルギーの可能性
- 第11-15週：温暖化対策として省エネルギーの可能性
- 第16-20週：炭酸ガスの吸収源の可能性
- 第21-25週：巨大技術の可能性とライフスタイル変更の可能性
- 第26-30週：炭酸ガス削減の国際的取り決めの方法

準備学習	日ごろより温暖化関係のテレビ番組、新聞記事等に目を通すこと。
履修上の留意点	演習Iと同じ。
成績評価の方法	出席状況とゼミへの参加の積極性、発言を総合して判定。
教科書／テキスト	演習Iの継続+新しいテキストをゼミの進み具合に応じて考える。
参考書	演習Iと同じ。
その他	〈卒業研究〉あり。通常のゼミの4単位とは別に卒業研究の4単位が当てられる。

履修コード	109431 109432
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小西 宏美

授業概要/
到達目標（ねらい）

「多国籍企業、多国籍金融機関とカジノ資本主義」をテーマとしています。「カジノ資本主義」とは何か、多国籍企業・多国籍金融機関の活動がいかに経済を「カジノ化」してきたのか、「カジノ資本主義」は我々の生活をどのように変えてきたのか、について研究します。

授業スケジュール

前期はテキストを読み進めながら卒業研究のテーマを考えます。
後期は各自の研究テーマにそって卒業研究を作成します。

準備学習

毎回、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
報告にあたっている場合はレジメを用意すること。

履修上の留意点

卒業研究とセットで単位登録してください。

成績評価の方法

演習IIIは出席、報告、討論で評価します。
卒業研究は提出した卒業論文で評価します。

教科書／テキスト

第1回目の講義で指示します。

参考書

履修コード	112901 112902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	小林 正人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマは「戦後日本の産業発展と景気循環」。 このゼミでは「卒業研究」(卒業論文のみ)の作成を指導します。これにより各ゼミ生は、4年間の経済学部での学習と研究を集大成します。 3年生までのゼミでの調査や研究をふまえて、各ゼミ生が研究したい産業ないし業種について、あるいは特定の経済問題や労働生活問題について、テーマを自発的に決め、歴史と現状、問題点や課題などを卒業論文にまとめます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>「卒業論文の提出までに必要な事前審査」として、(1~2)各ゼミ生による「卒論プラン」の発表、(3~4)参考文献一覧の提出、(5~10)文献研究発表、(11~15)卒論の予定目次と題名の発表、(16~20)卒論の本論の中間発表、(21~25)結論の発表と審査、(26~30)最終稿の総合審査という各段階があります。最終稿の締め切りは11月末のゼミの日です。 (注意)夏季休業の前後に、「卒業研究論題届」を教務部に出しておくこと。 上記の事前審査を通った論文は、教務部に提出できます(12月)。さらに卒業論文集(仮称『日本経済学生論集』)として編集し、印刷、製本します。したがって、卒論の最終稿はワープロを使い一定の書式に従って提出します。 なお適時、最新の新聞の経済関連記事を使うので、購入してくること。</p>
----------	--

準備学習	各自の「卒論プラン」に沿って文献研究をすすめ、発表の準備をすること。
履修上の留意点	ゼミの円滑な運営のためのルールと役割分担に従うこと。
成績評価の方法	上記の「卒業論文の提出までに必要な事前審査」を通ってきたかどうかを評価します。
教科書/テキスト	
参考書	高価な文献で、卒論に必要なものがあれば、早めに申し出ること(研究費で購入する)。
その他	「卒業研究」(4単位、卒業論文のみ)を併設。

履修コード	110501 110502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	清水 卓

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>EU諸国の経済社会問題について、学生各自が決めたテーマでゼミ論文あるいは「卒業研究」を作成するのが課題です。参加者の意見がまとまれば、統一したテーマを集团的に研究することもあります。一生の思い出になるよう、大学時代の学習の総まとめとして真剣に取り組んでもらいたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	EUの時事問題の検討とEUに関する研究書の講読を行います。
----------	-------------------------------

準備学習	毎週、卒業研究制作の作業の経過報告を求めます。
履修上の留意点	演習Iを参照のこと。
成績評価の方法	演習Iを参照のこと。
教科書/テキスト	演習Iを参照のこと。
参考書	
その他	演習Iを参照のこと。

履修コード	109501 109502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	代田 純

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	金融についての研究
---------------------	-----------

授業スケジュール	就職活動と両立させて、卒論完成をめざす。
----------	----------------------

準備学習	テキストで予習、復習すること。
------	-----------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	卒業論文の提出、内容で評価する。9月以降の卒業研究中間発表をしない場合、単位は認定しない。
---------	---

教科書/テキスト	代田純編『日本の国債・地方債と公的金融』(税務経理協会) 代田純『日本の株式市場と外国人投資家』(東洋経済)
----------	---

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

その他	日本経済新聞、朝日新聞その他を使用する。
-----	----------------------

履修コード	110601 110602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学のゼミで学んだ知識を生かし、自らの興味をもった事柄について卒論 (卒業研究) を書いてもらいます。
授業スケジュール	卒業研究
準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況・予習状況・討論への参加度・レポートにより評価します。
教科書/テキスト	受講者と相談して決定します。
参考書	
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	317101 317102 317103
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	鈴木 伸枝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	公共経済学の分野における課題研究 (卒論)
授業スケジュール	課題研究 (卒論)
準備学習	特になし。
履修上の留意点	履修を決定する前に、どのようなことを勉強したいのか、相談に来てください。(テーマによっては指導できないこともあります)
成績評価の方法	論文にどれだけ力を注いだからで判定します。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	110901 110902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	瀬戸岡 紘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「グローバル化」と「デジタル化」の時代に即応して、経済、社会、経営、文化など各自の学習と研究の成果を卒業論文にまとめます。何をテーマにとりあげるかは、各自の希望で決定します。現代経済過程の成功例、失敗例どちらも最も豊富にもっているアメリカの経験を参照するところから、意外な結論をひきだせるなら卒論は成功といえましょう。
授業スケジュール	卒業論文の検討と完成が年間の最大の課題です。各自の論文の構想は、ゼミ生全体からのコメントを受けることでねりあげられます(みんなが一人のために)。他方、各ゼミ生は他人のテーマに関与することで耳学問としての幅広い知識と教養を得ることができます(一人がみんなのために)。また数百人におよぶ当ゼミ卒業生との交流をつうじて、就職・進学・留学の準備をします。そのほか、日本学生経済ゼミナールへの後輩の参加を後援したり、インターネットや遠隔授業をつうじた海外の学生との交流をリードしたり、工場見学などゼミの各種イベントにスーパーバイザーとして後輩を支援します。
準備学習	随時、説明します。
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ活動にたいする各自のあらゆる態度を総合して評価します。最大の眼目は当人のやる気です。
教科書/テキスト	卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が教科書になりますが、それは個々人で異なります。
参考書	卒業論文の作成に必要なあらゆる文献が参考書になりますが、それは個々人で異なります。
その他	このゼミは、卒業生のほか、外部の人も参加・協力してくれることの多いゼミです。このゼミにかんする一層くわしい情報は、ゼミに直接きて見学したり問い合わせたりすることのほか、ゼミ生作成による下記のホームページにアクセスしてください。 http://setookazemi.xxxxxxxx.jp/

履修コード	111101 111102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	曾我 信孝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業研究の指導と実社会に向けてのマーケティングの問題点の検討をねらいとする。
授業スケジュール	1～15回 ゼミ生の就職希望企業のマーケティング分析。 16～25回 卒業研究の指導およびマーケティングの社会問題の検討。 26～29回 合同ディベート大会の準備、合同ディベート大会 (12月の第2日曜に開催予定) 30回 合同ディベート大会の反省会

準備学習	3年次に執筆した論文の問題点を加筆・修正して卒業論文にします。論文再検討のための資料収集などの準備は十分しておいてください。 また、12月に開催します合同ディベート大会では幹事をしてもらいます。試合とその運営で忙しいと思いますので、ディベートの準備はしっかりしておくようにお願いします。
------	--

履修上の留意点	就職活動のため出席が困難な場合があるでしょうが、極力出席することを義務付けます。なお、併設している卒業研究受講者は、最低1回の発表を義務付けます。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (授業への取り組み態度40%、ゼミでの発表20%、ディベート大会参加40%)
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない
----------	---------

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

関連リンク	http://geocities.yahoo.co.jp/g/nobusoga
-------	---

履修コード	109441 109442
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	舘 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとて広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。 本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上立って議論できるようになることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	現実の経済現象をゲーム理論を応用して説明する論文を作成するために、発表とコメント、文章作成と添削と繰り返しながら完成を目指す。
----------	---

準備学習	さまざまな文献を読みながら早めにテーマ探しをしてほしい。
------	------------------------------

履修上の留意点	卒業研究を提出することを前提とする。
---------	--------------------

成績評価の方法	平常点、卒業研究の仮提出 (10月第4週まで)、本提出 (12月) と内容で評価する。
---------	---

教科書/テキスト	とくになし。
----------	--------

参考書	駒澤大学経済学部「卒業研究の手引き」
-----	--------------------

履修コード	317901 317902 317903
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	館 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>人々のかけひきを分析するための道具である「ゲーム理論」について学習し、これを使ってさまざまな社会現象を自分の言葉で説明できるようになることをめざす。ゲーム理論は、スポーツやカードゲームの必勝法の研究というよりも、私たちの日常生活や社会のなかで起きるさまざまなかけひきをゲームとみなし、それらをいくつかのパターンに整理して結果を予想するための学問で、その応用分野はとても広い。情報通信や交通手段の発達などによってネットワーク化されている今日の経済では、人々のつながりに関する理解を深めることの重要性はますます高まっている。</p> <p>本演習では主に産業組織論、すなわち企業の投資、生産、販売などを通じた競争戦略や他の企業との戦略的提携など、それぞれの産業における企業間の競争と協力について扱う。また、補助金や規制などを通じて市場への介入を行う政府の産業政策・競争政策についても考える。例えば、家電産業や情報通信産業ではしばしば製品間の互換性が重要になるが、そのときに企業はどんな戦略をとるべきだろうか。政府は何か政策を打ち出すべきだろうか。ゲーム理論という共通の土台の上で議論できるようになることを目指す。</p>
授業スケジュール	現実の経済現象をゲーム理論を応用して説明する論文を作成するために、発表とコメント、文章作成と添削と繰り返しながら完成を目指す。
準備学習	さまざまな文献を読みながら早めにテーマ探しをしてほしい。
履修上の留意点	卒業研究を提出することを前提とする。
成績評価の方法	平常点、卒業研究の仮提出（10月第4週まで）、本提出（12月）と内容で評価する。
教科書／テキスト	とくになし。
参考書	駒澤大学経済学部「卒業研究の手引き」

履修コード	113001 113002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	田中 和雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演習IとIIの履修を前提にし、その集大成として各自が興味あるテーマに関して論文ないし本格的レポートを作成することを目指す。テーマは広く労働に関連する問題が望ましい。</p>
授業スケジュール	<p>各自のテーマに沿って、調べたことや纏めたことを、逐次報告してもらい、全員で討論・アドバイスをする形式で進める。また毎回のゼミでは、最初の20分で、1週間の新聞記事の内容整理を行い、最新の動向をおさえる作業を行う。新聞記事の整理は、現代的な問題意識を養うのに適しているからである。こうしたプロセスにおいて、問題意識の深め方、情報収集の仕方・整理、論理的な記述の方法、レポートや論文の作法なども身に付けていくことにする。</p>
準備学習	<p>毎回の下調べやゼミでの議論をメモして、情報カードに残しておくこと。溜まった情報カードを組み合わせる体系的な理解を獲得するとともに、論文作成の基礎情報を整理することが目的です。</p>
履修上の留意点	<p>興味をもった問題の検討をまとめるという作業は考えることそのものである。そうした作業は必ずや役に立つ。</p>
成績評価の方法	ゼミでの積極的な姿勢、レポート・論文への取り組みと成果で評価します。
教科書／テキスト	ゼミ生と話し合っ決定します。
参考書	適宜指示します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	112801 112802
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	鄭 章淵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では、1年間をかけて卒業研究(卒業論文)作成のための指導を行う。あらかじめ決定した年間スケジュールに合わせて授業は進められていく。卒論テーマの決定、文献や資料の収集など作成作業の進捗状況を定期的にチェックして卒論を完成させる予定である。</p> <p>(到達目標) この授業では、卒業論文の作成を3年間のゼミ活動の集大成と位置付ける。それまでの学習を通じて決定したテーマを掘り下げ、アジア経済に対するゼミ生諸君の理解度を論文という形あるものに具体化する。このような作業を通じて、アジア経済論を学ぶ重要性について再認識してもらうことがこの授業の最終的な到達目標である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>演習Ⅰ・Ⅱでの学習を基礎に、初回授業時に発表する年間スケジュールに沿って「卒業研究」(卒業論文)を作成する。ゼミ生諸君各自のテーマに従い、グループおよび個別指導を行う。</p> <p>前期は、テーマ決定、参考文献や資料の収集と精読が主な作業内容となるが、定期的に各自の作業の進捗状況についてゼミの場で報告してもらう。</p> <p>夏季休暇中に論文構成を決定し、各章の内容についてその要旨をまとめる作業を終える。そして、後期初回授業時にそれについて発表する機会を設ける。</p> <p>後期は、個別指導を中心にゼミ活動が進められ、11月末までに論文を完成させる。その後、内容をチェックして完成度の高い論文に整え、12月中旬の指定日に提出してもらう予定である。</p>
----------	--

準備学習	卒業研究の年間スケジュールに記載された諸課題を十分に把握し、チェック時までに確実に消化しておくこと。 アジア経済に関する新聞記事やWEBサイト資料を常日頃から読むようにすること。
------	--

履修上の留意点	この演習では3年間のゼミ活動の集大成として卒業論文の作成を目標としているので、ゼミ生諸君には論文の完成に向けて大いに努力してもらいたい。
---------	--

成績評価の方法	授業での積極性および卒業研究の内容を参考に評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	「卒業研究」を併設する。
-----	--------------

履修コード	111301 111302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	徳永 俊明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) いわゆる<南北問題>は今人類が直面している最大の問題の一つです。このゼミでは、発展途上諸国=アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国際関係と、その中での人びとの生活の現状を勉強します。</p> <p>(到達目標) 発展途上諸国やそこで暮らす人びとの状態をただ知って終わるのではなく、そのような状態を鏡にして、日本、日本人そして私たち一人ひとりの状態を見直し、考えてみるのが大切です。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	上記の趣旨に沿って、学生諸君と相談しながら進めます。
----------	----------------------------

準備学習	普段から人類・私たちの状態について関心を持ち、自分の頭で考える習慣を作ることが求められます。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	まずは出席、そして考える努力、発言する努力の3点から評価します。

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	卒業研究を併設します。
-----	-------------

履修コード	112601 112602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	友松 憲彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習II (3年) で開始した研究を継続発展させ、卒業研究をまとめます。
授業スケジュール	文献講読と卒業研究の中間報告を並行しておこないます。
準備学習	レポーターはレジメを作成し、他の者はテキストの該当箇所を予習し疑問点を明らかにしておく。
履修上の留意点	「経済史」、「西洋経済史」「日本経済史」「商業史」等をあわせて履修することが望ましい。
成績評価の方法	平常点 (ゼミに取り組む姿勢、報告、発表、討論) と年度末レポートを総合して評価します。
教科書/テキスト	最初の授業で指示します。
参考書	
その他	卒業研究を併設します。合宿や博物館訪問、展覧会見学を予定しています。

履修コード	112501 112502
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	中濟 光昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒業論文作成を中心にゼミを進めます。 毎回、各自の研究内容における問題点を明確にし、それについて全員で討論・アドバイスをする ことで、お互いの卒業論文の内容を高めていくことで、比較的長い文章を誤字や論理的矛盾なく 完成することを目的とします。
授業スケジュール	(1) ~ (4) 研究計画書作成・論題の提出 (5) ~ (14) 研究テーマに関する調査・分析 (15) 中間報告・改善点の指摘 (16) ~ (29) 進捗報告 (30) 最終発表・口頭試問 毎回、レジメ作成、レポーティング、発表を行い、最終的に卒業論文を完成させます。
準備学習	演習II (中濟担当) の単位を修得していることが必須です。 毎回発表資料を作成する必要がある。
履修上の留意点	・ゼミへの積極的な参加を期待しています。 ・追加募集は致しません。 ・メールを読む、ワープロを打つといったことがゼミ活動上必須です。
成績評価の方法	研究進捗報告 (50%)、中間報告 (20%)、口頭試問 (30%) による総合評価を行います。
教科書/テキスト	別途指示
参考書	別途指示
その他	ゼミではパソコンを使用しますので、本ゼミを受講したい人は、総合情報センターへ利用登録を 行う必要があります。卒業研究 (論文及び作品) を併設します。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/

履修コード	109451 109452
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ: 「地域の活性化」 演習IおよびIIでの学びを活かし、4年間の経済学部での学習と研究の集大成として、「卒業 研究」の作成に取り組む。
授業スケジュール	各ゼミ生の「卒業研究」報告を中心に討論する。 卒業論文の提出にあつては、「研究企画書の作成」「中間報告会での予備審査」「最終原稿の 審査」といったプロセスを経る必要がある。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	演習I、IIと同じ。
成績評価の方法	演習I、IIと同じ。 その他、上記の卒業論文提出までのプロセスに関して評価する。
教科書/テキスト	演習I、IIと同じ。
参考書	演習I、IIと同じ。
その他	「卒業研究」を併設する。

履修コード	318101 318102 318103
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	長山 宗広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ：「地域の活性化」 4年間の経済学部での学習と研究の集大成として、「卒業研究」の作成に取り組む。
---------------------	--

授業スケジュール	ゼミ生の「卒業研究」報告を中心に討論する。 卒業論文の提出にあたっては、「研究企画書の作成」「中間報告会での予備審査」「最終原稿の審査」といったプロセスを経る必要がある。
----------	--

準備学習	学部授業の「地域経済論」と「ベンチャー論/起業論」の内容を理解しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点（卒業論文の作成プロセス）にて評価する。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	長山宗広『日本的スピノフ・ベンチャー創出論』同友館、2012年
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	112101 112102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	番場 博之

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	番場ゼミ（演習III）の目的は、現代日本の流通・産業および世界の文化・暮らしと経済・産業の関係の研究と卒業論文の執筆である
---------------------	---

授業スケジュール	(1~20) トピック演習・企画授業・プレゼンテーション (21~30) 卒論報告
----------	--

「日経MJ」「日経産業新聞」「朝日新聞」等といった新聞あるいは「週刊ダイヤモンド」「企業診断」「商業界」などのビジネス誌を用いて、現在日本の経済事情・産業事情のなかからトピックを取り上げ、それについて全員で議論をする。また、各種地図・統計資料や旅行ガイドブック・時刻表なども用いて、各国の文化・経済の事情（特にまちづくりや地域商業関係）を検討しながら現在の世界経済・産業事情（特に流通・サービス産業）の状況についての議論を行う。

これらの学習ならびに2年次からの学習の成果を確認すべく、年末にディベートを行う。そこでのテーマは、4年次に議論してきた世界経済、日本の産業事情などの項目のなかから、共通して関心をもった事柄を選定する。ディベートのテーマは「日経MJ」や「週刊ダイヤモンド」「商業界」などのなかから自分たちで選定する。

また、巡検を行う。巡検等の場所は「江戸東京博物館」「塩とたばこの博物館」「エビスビール記念館」「東京証券取引所」「日本銀行」「長谷川町子美術館」「貨幣博物館」「世田谷区立郷土資料館」などの文化施設および東京中央卸売市場等の卸売市場や各地の斎市を予定している。

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	詳細なシラバスは開講時に配布
---------	----------------

成績評価の方法	日常の活動やゼミへの貢献度等を総合的に評価
---------	-----------------------

教科書/テキスト	教科書は使用しない。 新聞・雑誌・統計資料・白書などを使用していく。
----------	---------------------------------------

参考書	基本的な書籍、新聞、雑誌、地図、統計資料、ガイドブック・白書などは研究室で揃えます。
-----	--

履修コード	111901 111902
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	百田 義治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習は演習I・IIの継続として位置づけています。現代企業の経営管理に関わるテーマを中心に、演習IIの夏休み後に決定した卒業論文の作成に取り組みます。
授業スケジュール	演習I・IIの継続です。各人のテーマについて「卒業研究」に取り組み、毎回2人づつ卒業研究の進捗度を発表します。 前期 第1回 インTRODクシヨソ 第2回～第5回 毎回2名、計8名が発表 第6回 第1回の間申総括 第7回～第10回 毎回2名、計8名が発表 第11回 第2回の間申総括 第12回～第13回 毎回2名、計4名が発表 第14回～第15回 前期総括と課題の確認 後期 前期と同じスケジュールで、第16回～第30回に「卒業研究」の発表を行います。
準備学習	授業は卒業研究の発表を中心に質疑、コメントで進められます。発表担当者はプロジェクト用発表情料と補足説明のレジメを準備します。その他の学生は各回の発表テーマに沿った質疑ができるように準備学習しておくことがゼミに参加する前提条件です。ゼミでの議論の活性化には、個人の準備やサブゼミでの準備をして、ゼミに参加することが必要です。ゼミに参加するための準備学習は、一人ひとりの日々の努力と、グループごとのサブゼミでの議論の積み上げが原則です。
履修上の留意点	経済雑誌や新聞やネット情報などを日常的に熟読・検索し、現代企業とその経営に関心を払い、各自の問題意識をもってゼミに参加してください。
成績評価の方法	ゼミにおけるリーダーシップ、発表内容、レポートなどを総合して平常点評価を行います。
教科書/テキスト	未定
参考書	未定
その他	「卒業研究」(4単位)を併設します。

履修コード	113101 113102
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松井 柳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	卒論を完成させる。
授業スケジュール	卒論指導。
準備学習	発表者(発表グループ)は、入念に文献・資料等を調査し読解しレジメや付随するファイルを作成の上、プレゼンの練習等もおこなうこと。発表者(発表グループ)以外のゼミ生も、入念に文献・資料を調査し読解し疑問点や論点を明確にしておくこと。
履修上の留意点	受講生は、3年次からの継続に限る。
成績評価の方法	成績は授業中のゼミへの貢献によって評価する。具体的には、報告内容、質疑応答、討論への参加、課題達成度、ゼミ行事への積極的参加等を総合して評価する。出席は必須条件である。
教科書/テキスト	必要な場合、輪読をおこなう。テキストは、ゼミ生と相談の上、決定する。
参考書	授業のなかで必要に応じて、指示する。
その他	「卒業研究」を開設する。

履修コード	109461 109462
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。</p> <p>とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会との相互関係から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。</p> <p>第1回 オリエンテーション：論文作成の手順 第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論 第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（1） 第11回 小括：資料輪読（1）による知見をまとめた研究報告（1） 第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（2） 第15回 小括：資料輪読（2）による知見をまとめた研究報告（2） 第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（3） 第21回 小括：資料輪読（3）による知見をまとめた研究報告（3） 第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読（4） 第27回 小括：資料輪読（4）による知見をまとめた研究報告（4） 第28回 論文作成の技術的指導：製本に向けて 第29回 卒業論文口頭試問（1） 第30回 卒業論文口頭試問（2）</p>
----------	---

準備学習	卒論作成に向け、関連書籍、新聞、あるいはビジネス雑誌等は各自で必ず読んでおくこと。
------	---

履修上の留意点	卒業研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自律心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。卒業研究が提出されない場合は単位認定が取り消される場合があります。
---------	---

成績評価の方法	授業への出席は最低要件です。卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
---------	--

教科書／テキスト	開講時に指示します。
----------	------------

参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
-----	------------------

その他	卒業研究を併設します。
-----	-------------

履修コード	321261 321262 321263
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	松田 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本演習では、「現代における企業と社会との関係を、どのように捉えればよいのか」という命題に基づきながら、企業経営の現代的課題や企業活動の体系的理解を通じて企業を広く理解する視点を身につけることを目標としています。</p> <p>とりわけ1990年代以降、企業の経済活動が急速にグローバル化したことを受け、それ以前の社会・政治・文化・国際関係といった多様な領域における諸問題と企業との関係性は大きく変容しつつあります。企業が持つ経済的性格のみならずその社会的性格にも焦点を当て、企業を社会経済システムの中に位置づけながら、企業と社会の相互関係性から生じている現代的諸問題を考察し、それを卒業研究につなげていきたいと考えています。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>本演習では、企業形態、株式会社制度、企業統治ならびに企業の社会的責任などに代表される、現代の企業に関わる重要な課題を考察の対象とします。一年を通じて、企業に関する基礎的な知識、概念ならびに理論に対する考察を踏まえ、各自で設定した研究テーマにしたがって卒業研究論文の作成を試みます。</p> <p>第1回 オリエンテーション：論文作成の手順 第2回～第5回 演習参加者各自の研究課題テーマについての討論 第6回～第10回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(1) 第11回 小括：資料輪読(1)による知見をまとめた研究報告(1) 第12回～第14回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(2) 第15回 小括：資料輪読(2)による知見をまとめた研究報告(2) 第16回～第20回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(3) 第21回 小括：資料輪読(3)による知見をまとめた研究報告(3) 第22回～第26回 演習参加者各自の研究課題に関する資料輪読(4) 第27回 小括：資料輪読(4)による知見をまとめた研究報告(4) 第28回 論文作成の技術的指導(1) 第29回 論文作成の技術的指導(2) 第30回 課題研究論文口頭報告</p>
----------	--

準備学習	卒論作成に向け、関連書籍、新聞、あるいはビジネス雑誌等は各自で必ず読んでおくこと。
履修上の留意点	課題研究に向け、自らが設定した研究課題を体系的な論文にまとめ上げていく作業には、強い自覚心が求められます。したがって演習参加者は、自らの課題を自らが設定し、その課題に自らがチャレンジするという気概を持って演習に参加してください。
成績評価の方法	講義への出席は最低要件です。したがって卒業研究にかかわる各自の報告を主たる評価の対象としながら総合的に評価します。
教科書/テキスト	基本となる教科書は開講時に指示しますが、その他に日本経済新聞あるいは日経ビジネスを使用します。
参考書	経営学辞典あるいは経営学用語集。
その他	課題研究を併設します。

履修コード	109471 109472
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	松本 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。</p> <p>(到達目標) 到達目標は、演習IIで研究したことを基礎に、卒業論文をまとめることである。各自の研究テーマにあわせて、文献講読、調査・分析を行い、卒業論文の執筆に取り組む。講義内での発表、中間報告・最終報告を行うことで、卒業論文の質を高めることも目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2～5回 卒業論文のテーマ設定、卒業論文執筆のための技術と手順を確認 第6～13回 卒業論文の執筆、随時内容を発表 第14～15回 中間報告会 第16～27回 卒業論文の執筆、随時内容を発表 第28～30回 最終報告会</p>
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・演習IIで学習した内容を復習し、卒業研究のテーマを考えておくこと。 ・卒業論文の執筆に向けて、図書・論文を積極的に読み込むこと。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。 ・物事を積極的に調べること。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点および卒業論文の執筆過程・内容にもとづき、総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を併設する。 ・希望する履修生には、「経済学部学生奨学論文」の執筆指導も行う。

履修コード	317601 317602 317603
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	松本 典子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 非営利組織をベースに、企業と非営利組織を比較することによって両者の特徴を学び、社会的企業のような営利/非営利を超えたハイブリッドな組織も対象として、経営学的・経済学的な研究を行う。 (到達目標) 到達目標は、課題研究をまとめることである。各自の研究テーマにあわせて、文献講読、調査・分析を行い、課題研究に取り組む。講義内での発表、中間報告・最終報告を行うことで、課題研究の質を高めることも目標である。
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2～5回 課題研究のテーマ設定、課題研究作成のための技術と手順を確認 第6～14回 課題研究の作成、随時内容を発表 第15回 中間報告会 第16～29回 課題研究の作成、随時内容を発表 第30回 最終報告会
準備学習	・課題研究のテーマを考えておくこと。 ・課題研究の作成に向けて、図書・論文を積極的に読み込むこと。
履修上の留意点	・積極的な姿勢で授業にのぞむこと。 ・物事を積極的に調べること。
成績評価の方法	・平常点および卒業論文の執筆過程・内容にもとづき、総合的に判断する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	・課題研究を併設する。

履修コード	109301 109302
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	溝手 芳計
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思ひます。演習IIIでは、ゼミ生自身の考えを整理し、表現する力の取得を目指します。
授業スケジュール	演習IIIでは、卒業研究に向けて、個別指導と集団討論を中心に進めます。
準備学習	演習の学習は、授業に「出る」、意見を「出す」、テキストや参考書を「読む」が基本です。
履修上の留意点	ゼミは集団学習、相互修練の場です。世の中、答えが一つと決っていません。学生相互の疑問の出し合い、教えあい、意見交換を大切にしてください。“みんな違ってみんないい”でいきましょう。
成績評価の方法	平常の議論への参加状況や卒業研究に向けた取り組み姿勢を基本として評価します。
教科書/テキスト	木下是雄『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円＋税、ISBN4-480-08121-6 他は、別途指示します。
参考書	必要に応じて紹介します。
その他	「卒業研究」を併設します。

履修コード	316901 316902 316903
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	溝手 芳計
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	食品の安全、南北問題、環境問題、過疎地域問題といったさまざまな問題が、近年、注目を集めています。これらは、農業のあり方、特に多国籍アグリビジネス（農業・食料関連産業）の影響力の増大、WTO体制への移行などと大きく関わっています。ゼミでは、上に掲げたような諸問題の理解と対策の手がかりを求めて、一緒に考えていきたいと思ひます。
授業スケジュール	テキストの輪読とディスカッションを中心に進めます。レジュメの作成、発表のやり方、議論の進め方など、集団学習のスキル取得も重視します。
準備学習	テキストの予習が必要です。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポートと発表の内容・態度、議論への参加状況などを総合的に評価します。
教科書/テキスト	ゼミ生と相談の上、決定します。ただし、領域は、食料、農業、農村、環境に関わるものとしします。
参考書	随時、紹介します。

履修コード	111401 111402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	光岡 博美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習Ⅰ、Ⅱの勉強をもとに、総仕上げとしてのゼミ論文を完成させることが演習Ⅲの最大の目的です。ゼミ論文については、その内容はもとより、論文としての形式や体裁についても指導します。なお、「卒業研究」を併設します。
授業スケジュール	ゼミ論文の完成の直前の時期には合宿（2泊3日程度）を行い、また、ゼミ論文の発表会の場とします。ゼミでの勉強の総仕上げとしての意味をもつ合宿です。全員参加を原則とします。
準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	ゼミ論文の完成度によって評価します。ゼミ論文未提出者は単位を認定しません。なお、演習Ⅲには課題研究を併設します。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	109481 109482
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習ではこれまでの演習や共同研究において習得した知識にもとづき、各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行なう。 卒業研究では、自身の意見を論理的に構成し、それに関する十分な実証の根拠を示し、相手に伝わる発表を行うことが必要とされる。そのために必要な論理的思考能力、資料収集・整理能力、プレゼンテーション能力を養い、自らの問題意識を卒業研究の形でまとめることを目的とする。
授業スケジュール	卒業研究の作成は、テーマの選定、論理の組み立て、資料収集・整理、本文の執筆、内容の報告の順に進める。 ゼミ形式での発表と個別指導の形で演習を行なう。
準備学習	ミクロ経済学及び法と経済学の知識を前提とする。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	卒業研究の内容を中心に、ゼミへの出席状況、卒業研究作成プロセス、研究のプレゼンテーションなどから総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介する。

履修コード	317001 317002 317003
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	村松 幹二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習ではこれまでの演習や共同研究において習得した知識にもとづき、各自の問題意識を踏まえて、課題研究の作成を行なう。 課題研究では、自身の意見を論理的に構成し、それに関する十分な実証の根拠を示し、相手に伝わる発表を行うことが必要とされる。そのために必要な論理的思考能力、資料収集・整理能力、プレゼンテーション能力を養い、自らの問題意識を課題研究の形でまとめることを目的とする。
授業スケジュール	課題研究の作成は、テーマの選定、論理の組み立て、資料収集・整理、本文の執筆、内容の報告の順に進める。 ゼミ形式での発表と個別指導の形で演習を行なう。
準備学習	ミクロ経済学の基礎的知識を前提とする。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。
成績評価の方法	課題研究の内容を中心に、ゼミへの出席状況、課題研究作成プロセス、研究のプレゼンテーションなどから総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	課題研究の内容に応じて個別に紹介する。

履修コード	109401 109402
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	森田 佳宏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本演習は「卒業研究」(卒業論文)の研究報告を中心に行う。卒業論文のテーマは、演習Iおよび演習IIにおいて習得した財務会計および監査の知識にもとづき、これらの領域から各人が自由に決定することを原則とする。 (到達目標) 本演習の到達目標は、「卒業研究」作成過程における学生相互間および教員との討論を経て「卒業研究」を完成させることである。
授業スケジュール	卒業論文の報告は、テーマの選定、章立ての決定、内容の報告の順に進める。
準備学習	4月の第1回目の演習時に、卒業研究の「テーマおよび問題の所在」をA4用紙1枚にまとめて配布し、報告すること。
履修上の留意点	特別な事情がない限り、毎回出席すること。なお、原則として4年生の新規募集は行わない。
成績評価の方法	最終的な卒業論文の内容はもとより、その作成過程における報告内容(レジュメを含む)、さらにはゼミ活動に対する取り組みなどを考慮に入れて総合的に評価する。卒業論文未提出者には演習IIIの単位を認定しない。
教科書/テキスト	原則として使用しない。
参考書	演習の中で適宜紹介する。

履修コード	110201 110202
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ【経済発展と人材・技術】 4年ゼミは、戦前日本経済の発展(工業化の準備期から産業資本確立期まで)と戦後の経済成長(復興期から失われた十年まで)を中心に、経済・産業を支えた人材や技術開発、工場内教育、教育制度など幅広く各自の問題意識に応じて自由に論題を設定して研究します。12月にはゼミ論文を完成し、論文集に発表します。
授業スケジュール	【4年ゼミ】は、就職活動で会社訪問する機会が多くなるので、プレゼンテーション、ディスカッションが難しくなります。したがって基礎文献、参考資料を使って、日本経済の発展と技術、人材、教育の検証を行うとともに【卒業研究】の作成が中心になります。 【卒業研究】は、2年生からゼミで学んできた集大成として各自の問題意識として自由に論題を設定し、論文の作成をすすめます。12月には完成し、教務部に提出します。 第1回～第5回 →「卒業研究」論文の書き方、論題の設定、問題提起の仕方。 第6回～第20回→論文の構成の仕方、基礎資料の収集の仕方(駒澤大学図書館、他大学図書館、国会図書館、政府関係機関など)、論文の構成・基礎資料の収集等に関して個別指導。 第21回～第22回→「卒業研究」作成に向けて「執筆要領」(「卒業研究手引き」「ゼミ論文の書き方」を配布)の説明。 第23回～第28回→「卒業研究」作成に向けて個別指導。 第29回～「卒業研究」の仮提出(「執筆要領」が守られているか確認。未完成部分の個別指導)。 第30回～「卒業研究」本提出。
準備学習	日頃より新聞や雑誌「エコノミスト」「東洋経済」などを読み、世界経済や日本経済に関心を持つこと。
履修上の留意点	就職活動が多忙になるが、できるだけ授業に出席して下さい。
成績評価の方法	平常でのゼミ活動状況、「卒業論文」(卒業研究)の制作作業、討論で評価します。
教科書/テキスト	演習の時間に適宜紹介します。
参考書	各自の問題意識や論題によって、その都度、適宜紹介します。
その他	4年ゼミでは「卒業研究」を併設しています。希望する人は併せて履修することができます。「卒業研究」の進め方は4年ゼミの中で適宜説明します。

履修コード	110701 110702
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	矢野 浩一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	演習のテーマは「ビジネス・経済・社会についての実証的アプローチ」である。ビジネス・経済・社会などの様々な問題について自分の力で考え行動できるように実証分析のやり方を学ぶ。それには統計学や経済学・データ分析などの知識が必要である。さらに自分の意見をしっかりと人に伝える文章表現やプレゼンテーション能力、自分の意見を裏付ける統計手法を身につけることを目指す。
授業スケジュール	演習I・IIでの学習内容を継続的に発展させ、卒業研究の形で4年間の学習成果をまとめることを最終目標とする(ただし、学生ごとに理解度にばらつきがあると思われるために、演習内容はそれに依って柔軟に対応する)。
準備学習	教科書・参考書・資料等を予習しておくこと。
履修上の留意点	「統計原論」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「応用マクロ経済学」等の関連科目をあわせて履修することが望ましい。また、連絡のために駒澤大学総合情報センターのアカウントを取得しておくこと。
成績評価の方法	出席を中心に、発表内容・発言・ゼミへの貢献から判断する。
教科書/テキスト	教科書は開講時に協議する。
参考書	テキストのみにこだわらずゼミ生の興味に沿った論文を取り上げていく。
その他	「卒業研究」を併設する。演習IIIは卒業論文の指導が中心のため、履修登録時の登録を忘れないこと。

履修コード	111001 111002
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	山縣 弘志
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	比較経済論の専門的学習、研究を進め、論文作成をめざす。
授業スケジュール	3年次からの継続。就職活動に取り組みながら、各自の自主研究の発表を行ない、論文の形にまとめていく。
準備学習	3年次からの継続。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席、発表、討論参加を総合評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	「卒業研究」あり。

履修コード	109601 109602
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	吉田 敬一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では大学生生活の総決算として各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行ないます。
授業スケジュール	演習IIIでは、これまでの共同研究を踏まえて、卒業研究の作成に向かって、個別指導の形で演習を行ないます。 第一回目の演習の時間に今年度の予定を伝えますので、必ず出席してください。
準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
履修上の留意点	演習IIIは卒業研究の作成を中心課題としているため、少なくとも演習IIをすでに履修していることが前提となります。
成績評価の方法	出席状況、平常点(卒業研究作成指導への対応姿勢など)、卒業研究の内容を中心にして総合的に評価します。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介します。
その他	演習IIIでは原則として「卒業研究」を作成することが求められます。

履修コード	317201 317202 317203
科目名	演習III 課題研究 演習II
担当者名	吉田 敬一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この演習では大学生生活の総決算として各自の問題意識を踏まえて、卒業研究の作成を行いません。
---------------------	---

授業スケジュール	演習IIIでは、これまでの共同研究を踏まえて、卒業研究の作成に向かって、個別指導の形で演習を行いません。 第一回目の演習の時間に今年度の予定を伝えますので、必ず出席してください。
----------	--

準備学習	①新聞を読む習慣を身につけること。 ②官公庁や調査機関のホームページで最新の調査・統計を参考にして報告・議論できるように準備すること。
------	--

履修上の留意点	演習IIIは卒業研究の作成を中心課題としているため、少なくとも演習IIをすでに履修していることが前提となります。
---------	--

成績評価の方法	出席状況、平常点（卒業研究作成指導への対応姿勢など）、卒業研究の内容を中心にして総合的に評価します。
---------	--

教科書／テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	卒業研究の課題に応じて個別に紹介します。
-----	----------------------

その他	演習IIIでは原則として「卒業研究」を作成することが求められます。
-----	-----------------------------------

履修コード	109491 109492
科目名	演習III 卒業研究
担当者名	吉田 真広

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1 国際金融現象の基礎にある原理や制度を学ぶと共に、日本経済に与える今日の国際金融の様々な問題について理解を深め、自らがより深く学ぶべき課題を見つけること。 2 自らの研究対象へのアプローチの仕方を身につけ、それを実践していくこと。
---------------------	---

授業スケジュール	基本的には、自らの研究課題の経過報告とアドバイスを中心としたものになります。
----------	--

準備学習	常に自らの研究課題と向き合うこと。
------	-------------------

履修上の留意点	特にありません。
---------	----------

成績評価の方法	出席は当たり前のことなので評価対象にはしていません。 研究課題にどれだけ真剣に取り組んだのかによって判断します。
---------	---

教科書／テキスト	随時示します。
----------	---------

参考書	随時示します。
-----	---------

その他	就活相談については遠慮せず来て下さい。
-----	---------------------

履修コード	096101
科目名	応用情報処理I
担当者名	瀬尾 明志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	表計算ソフト (Excel) を使用したデータの分析やグラフ化は経済学を学ぶものにとっても必要不可欠なものになっています。この講義では、Excelの基本操作を習得しているものが経済分析などへの応用に活かせるように更に高度な技法を習得することを目的とします。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) Excelの基本操作 (セル参照、合計関数など) (2) ピボットテーブル (3) VLOOKUP関数 (4) ~ (5) Excel VBAの基礎 (6) ~ (8) 相関と単回帰分析 (9) ~ (10) バレート図の作成とABC分析 (11) ~ (12) ゴールシークとソルバー、線形計画法への適用 (13) ~ (14) 重回帰分析 (3変数間の相関) (15) Excel VBA応用 (ユーザーフォームの作成)
----------	--

準備学習	Excelの基本操作が出来ること。実習では予・復習が必要です。
------	---------------------------------

履修上の留意点	1) 本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。 2) Excelの応用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、Excelの基本操作は知っていることを前提にしています。
---------	---

成績評価の方法	講義の中で課す課題及び出席状況により評価します。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	配布資料 (講義時に随時配布します)。
----------	---------------------

参考書	日花弘子『仕事に役立つExcelビジネスデータ分析 改訂版』ソフトバンククリエイティブ2,680円 ISBN978-4-7973-4636-7 『よくわかるMicrosoft Office Excel2007 (応用)』FOM出版2,100円 ISBN978-4-89311-668-0 木村幸子『速効! 図形Excel2007 データベース編』毎日コミュニケーションズ1,580円 ISBN978-4-8399-2336-5
-----	---

その他	本講座はYeStudyを利用した講義になります。
-----	--------------------------

履修コード	096201
科目名	応用情報処理II
担当者名	瀬尾 明志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	プレゼンテーション技術は、企業の営業活動や社内会議などでのプレゼンテーションで非常に重要なものになっていますが、大学においても研究成果の発表などで今後ますます重要になってきます。本講義では、プレゼンテーションツールの代表とも言えるPowerPointを使用して、効果的な発表資料の作成とその資料に基づく発表を繰り返し行うことで実際に活用できるレベルのプレゼンテーション技術を習得します。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 図解のポイント (2) ~ (3) PowerPointの基本操作 (クリップアート・写真の取込み、表・棒グラフ、円グラフ・Excel表・組織図) (4) ~ (5) 報告書、提案書、企画書の作成 (6) ~ (7) アニメーションの設定 (8) 良い図解悪い図解 (9) ~ (11) プレゼンテーション技法 (12) ~ (14) プレゼン資料作成とプレゼンの実施 (15) PowerPointの実践技
----------	--

準備学習	PowerPointの基本操作が出来ること。実習では予・復習が必要です。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	・本講座は応募人数によっては履修制限を行う場合があります。 ・PowerPointの活用面に重点を置くので、「情報入門」講座、「基礎情報処理」講座を履修するなど、PowerPointの基本操作は知っていることを前提にしています。 ・PowerPointで作成した資料の発表に多くの時間を割くので、欠席や遅刻をしないこと。
---------	--

成績評価の方法	作成したPowerPoint資料とその発表及び出席状況により評価します。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	配布資料 (講義時に随時配布します)。
----------	---------------------

参考書	『Microsoft Office Power Point 2007 ビジネス活用編』FOM出版2,300円 ISBN-978-4-89311-716-8 大槻有一郎『はじめてのPowerPoint2007基本編』秀和システム1,200円 ISBN978-4-7980-1542-2 アスキー書籍編集部『Z式マスター パワーポイント2007』アスキー1,480円 ISBN978-4-7561-4910-7
-----	---

その他	本講座はYeStudyを利用した講義になります。
-----	--------------------------

履修コード	092711
科目名	応用マクロ経済学
担当者名	江口 允崇

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	マクロ経済学とは、一国全体 (または世界全体) の経済の動きを分析する学問です。新聞やニュースでよく聞くデフレ不況や失業率増加、円高・円安、財政赤字、年金問題など、これらは全てマクロ経済学の研究対象です。これらの現象がなぜ起こり、こうした現象に対して我々や政府はどのように対応すべきかを考えるのがマクロ経済学の基本目的と言えます。本講義では、マクロ経済学の標準的な理論を身につけることを主眼に置き、履修者が自分なりにマクロ経済学の理論に基づいて経済問題を考えられるようになることを目的とします。まず、前期ではGDPや物価指数といったマクロ経済学の基本的な概念を抑え、最も基本的なマクロ経済モデルであるIS-LMモデルを学びます。後期では、AD-ASモデルや、マンデル=フレミングモデル、ソローモデルといったより高度な理論を解説し、財政政策や金融政策の問題に関してより深く考察していきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 マクロ経済学とは何か？</p> <p>第2回 国民経済計算 (1) 国民所得の諸概念</p> <p>第3回 国民経済計算 (2) 三面等価の原則</p> <p>第4回 物価指数と失業率</p> <p>第5回 短期と長期</p> <p>第6回 数学の準備 (1) 連立方程式の解き方</p> <p>第7回 数学の準備 (2) グラフの読み方</p> <p>第8回 45度線モデル (1) 財市場の基本構造</p> <p>第9回 45度線モデル (2) 有効需要の原理と乗数効果</p> <p>第10回 金融市場 (1) 流動性選好と貨幣需要</p> <p>第11回 金融市場 (2) 利子率の決定</p> <p>第12回 金融市場 (3) 金融政策の役割</p> <p>第13回 IS-LMモデル (1) 財市場と金融市場の同時均衡</p> <p>第14回 IS-LMモデル (2) IS-LMモデルにおける財政政策の効果</p> <p>第15回 IS-LMモデル (3) IS-LMモデルにおける金融政策の効果</p> <p>第16回 フィリップス曲線～インフレ率と失業率のトレードオフ～</p> <p>第17回 労働市場と総供給曲線</p> <p>第18回 AD-ASモデル (1) 財市場・金融市場・労働市場の同時均衡</p> <p>第19回 AD-ASモデル (2) AD-ASモデルにおける財政・金融政策の効果</p> <p>第20回 開放経済 (1) 国際貿易と国際金融取引</p> <p>第21回 開放経済 (2) 為替レート</p> <p>第22回 マンデル=フレミングモデル (1) 変動相場制における財政・金融政策の効果</p> <p>第23回 マンデル=フレミングモデル (2) 固定相場制における財政・金融政策の効果</p> <p>第24回 新古典派によるケインズ経済学批判</p> <p>第25回 生産関数と成長会計</p> <p>第26回 ソローモデル (1) 資本蓄積と技術進歩</p> <p>第27回 ソローモデル (2) 資本の黄金水準</p> <p>第28回 財政・金融政策の諸問題</p> <p>第29回 政府債務と財政赤字</p> <p>第30回 マクロ経済学の近年の展開</p>
----------	--

準備学習	教科書を事前によく読んでおくこと。
------	-------------------

履修上の留意点	特に予備知識は必要としませんし、用いる数学も中学レベルまでですが、あくまで内容はアカデミックな経済理論を重視したものであり、新聞や雑誌の経済ニュースの解説ではないことを留意しておいて下さい。
---------	---

成績評価の方法	前期・後期ともに、期末試験によって評価します。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	N.G. マンキュー『マンキューマクロ経済学I・入門篇 (第2版)』東洋経済新報社 (2004年) N.G. マンキュー『マンキューマクロ経済学II・応用篇 (第2版)』東洋経済新報社 (2004年)
----------	---

参考書	
-----	--

